

中川健一メッセージシリーズ

『創世記』 41 回～65 回 メッセージアウトライン

～ メッセージ CD を聴く方のためのガイドブック ～

(このアウトラインだけをお読みになっても、十分に意味を理解することはできません。)

ハーベストフォーラム東京
『定例会』メッセージ

2009 年 4 月～10 月



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

In association with Ariel Ministries

Reference: "The Book of Genesis"

Ariel's Bible Commentary Series by Dr. Arnold G. Fruchtenbaum

定価 1,000 円
(税抜 952 円)

(無断複製・転載を禁じます)

【創世記41】 創世記27章41節～28章22節

「ヤコブの霊的体験」

イントロ：

1. アブラハム契約は、聖書全体を理解するための鍵である。
2. アブラハム、イサク、ヤコブと継承されてくる。
3. きょうの箇所。不鮮明な部分が鮮明になって来る。
 - (1) エサウか、ヤコブか。
 - (2) ヤコブの霊的体験
 - (3) アブラハム契約そのもの
4. メッセージのアウトライン
 - (1) ヤコブの逃避行
 - (2) エサウの結婚
 - (3) ベテルでの一夜
 - (4) アブラハム契約の再確認
 - (5) ヤコブの応答
5. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 異邦人の祝福の原点がここにある。
 - (2) 救いの目的が示されている。
 - (3) 救いの方法が示されている。

このメッセージは、救いの本質と、救いの方法を教えようとするものである。

I. ヤコブの逃避行 (27:41～28:5)

1. エサウの殺意
2. リベカの決心
 - (1) エサウに殺意があることを聞いて、ヤコブを家から送り出す決心をした。
 - (2) リベカの故郷パダン・アラムのハランで、兄のラバンの家に身を寄せる。
 - ① 720 キロの距離
 - ② 「しばらくとどまる」。このしばらくは、20年。
 - (3) リベカとヤコブの再会は実現しなかった。

3. リベカの責任転嫁

「兄さんの怒りがおさまり、あなたが兄さんにしたことを兄さんが忘れるようになったとき、私は使いをやり、あなたをそこから呼び戻しましょう。一日のうちに、あなたがたふたりを失うことなど、どうして私にできましょう」

- (1) 彼女は、自分の責任をヤコブに押し付けている。
- (2) エサウはヤコブを赦すようになる(33:1～16)。物質的に豊かになったから。
- (3) 「ふたりを失う」。ノア契約の条項による(9:6)。

「人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから」

4. リベカの提案

- (1) ヤコブは、ヘテ人の娘たちのうちから妻をめとってはならない。
- (2) イサクがしたように、パダン・アラムから妻を迎えるべきである。
- (3) これは正当な理由であるが、第一の理由は別のところにあった。
- (4) ヤコブを逃すことが主目的。

5. イサクの命令

「カナンの娘たちの中から妻をめとってはならない。さあ、立って、パダン・アラムの、おまえの母の父ベトエルの家に行き、そこで母の兄ラバンの娘たちの中から妻をめとりなさい」

- (1) イサクは、アブラハム契約の祝福をヤコブに与えた。
- (2) この時点では、イサクはヤコブが長子の権利を継承したことを認めた。
- (3) 後に、神からの承認が与えられる。
- (4) そして、ヤコブは旅立った。

II. エサウの結婚(28:6～9)

1. エサウの認識

- (1) 彼は、カナン人の娘たちと結婚すべきでないことを知っていた。
- (2) 母だけでなく、父イサクまでもが、自分の妻たちを嫌っていることを知った。
- (3) ヤコブが妻を探すために、パダン・アラムに行ったことを知った。

2. エサウの反応

「それでエサウはイシュマエルのところに行き、今ある妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻としてめとった」

- (1) イシュマエルはすでに死んでいる。これは、イシュマエルの家に行った、の意味。

(2) 3人目の妻。

(3) マハラテ。創 36：3 では、バセマテという名で呼ばれている。

III. ベテルでの一夜 (28：10～13a)

1. ヤコブの心境

(1) 失望（彼は 70 代になっている）

(2) 自責の念

(3) 将来への不安

2. 神が用意された場所

「ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった」

(1) ヤコブが初めて霊的な体験をする場所

(2) 彼は知らなかったが、そこはベテルであった。創 12：8。

「彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は【主】のため、そこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った」

(3) アブラハムが、初めて約束の地で祭壇を築き、公の礼拝をした場所。

(4) 「石を枕に」の意味。頭のところに置いた。

I サム 26：7 サウルは、枕もとの地面に槍を突き刺して寝ていた。

3. 夢を見た。

「そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている」（新改訳）

（新共同訳）では、「すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた」となっている。

(1) 族長が夢を見る初めてのケース

(2) 創 20 では、アビメレクが夢を見ているが、彼は族長ではない。

(3) 地と天を結ぶ階段

① ヤコブは地におり、神は天におられる。

② この階段を、天使たちが上り下りしている。

③ ヤコブは、天に近づくことを許されている。

(4) 「神の御使いたち」という言葉は、創世記に 2 回出てくる。

① 28：12 ヤコブが約束の地を去る時

② 32：1 ヤコブが約束の地に帰る時

IV. アブラハム契約の再確認

1. 神の顕現

「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える」

(1) 主は、階段の一番上に立っておられた。

(2) これは、シャカイナグローリーである。

(3) 神の自己宣言

①「父」とは、先祖のこと。

②「父アブラハムの神、イサクの神」とは、契約の神の御名である。

2. 4つの条項

(1) 土地の約束

「わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える」

(2) 子孫の約束

「あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり」

① ヤコブの嫁探しは、成功する。

(3) 異邦人の祝福

「地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される」

① 3人の族長は全員、異邦人の救いの約束を受け取っている。

(4) ヤコブへの個人的約束

「見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない」

V. ヤコブの応答

1. ヤコブの認識

(1) 無知の告白

(2) 恐れ

2. 行為

(1) 命名。神の家（ベテル）に改名。元はルズであった。

(2) 石の柱に油を注ぐ。聖別。献身を示す象徴的行為である。

3. 誓約

(1) 彼は、神がどのようなお方であることを、経験的に知るようになる。

- (2) 彼は、全面的にこの神に献身した生活を送るようになる。
- (3) 10 分の 1 を捧げる。

結論

- 1. イサクの 2 人の息子のどちらがアブラハム契約を継承するか、鮮明になった。
- 2. ヤコブの霊的体験が鮮明になった。
 - (1) 神は、ヤコブの神となってくださった。
 - (2) ヤコブはこの体験で 3 つのものを見た。
 - ① 階段
 - ② 神の天使たち
 - ③ シャカイナグローリー
 - (3) ナタナエルの体験 ヨハ 1 : 45 ~ 51
 - ① ヤコブが見た階段とは、イエスのことである。
 - ② イエスこそ、地と天をつなぐ仲介者である。
- 3. アブラハム契約の内容が鮮明になった。
 - (1) 特に、異邦人の祝福
 - (2) 私たちの霊的祝福の原点は、ベテルにある。

【創世記42】 創世記29章1節～30節

「ヤコブの結婚」

イントロ：

1. 私たちは今、第8番目のトルドットにいる。
「アブラハムの子イサクの歴史」 創25：19～35：29
 - (1) イサクの息子は、エサウとヤコブである。
 - (2) ヤコブを軸に物語が進展する。
 - ① 聖書は、種々の大帝国の始まりを記録していない。
 - ② しかし、この小さな家族の出来事は詳細に記録している。
 - ③ 後の時代の人々が、記憶に留めておくべき物語なのである。
2. ヤコブの霊的体験（創28：10～12）。
 - (1) 神がともにおられる。
 - (2) 神の祝福が与えられる。
 - ① 霊的祝福
 - ② 物質的祝福
 - ③ 子孫の祝福。メシア誕生の約束。異邦人の祝福の約束。
 - (3) カナンの地に帰還する。
3. ヤコブの人生は、信じた内容を体験する人生である。
4. メッセージのアウトライン
 - (1) 目的地への到着
 - (2) 未来の妻との出会い
 - (3) 結婚
5. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 私たちの人生も、信じた内容を体験する人生である。
 - (2) そこには、神の摂理の御手が働いている。神の主権。
 - (3) 自分の思い通りにならない時こそ、信仰を強くする時である。

このメッセージは、信じる者に与えられる神の摂理について学ぼうとするものである。

I. 目的地への到着（29：1～8）

1. 「ヤコブは旅を続けて」

- (1) 直訳は、「ヤコブは彼の足を上げた」ということ。
- (2) 彼が徒歩で移動していたことが分かる。
- (3) 神の啓示を受けた結果、新しい力が全身にみなぎっていた。
 - ① 自分はアブラハム契約の継承者となった。
 - ② 神がともにいて、すべての必要を満たしてくださる。
 - ③ 必ず、カナンの地に帰還することができる。
- (4) 当面は、兄のエサウは問題ではなくなった。

2. 「東の人々の国へ行った」

- (1) アラム・ナハライムのこと。
- (2) カナンの地から見ると、東の方角にある。

3. 「ふと彼が見ると、野に一つの井戸があった」

- (1) ヤコブは、井戸を探していたに違いない。
- (2) アブラハムの僕が井戸のそばでリベカにあった話は、聞いていたはず。
- (3) 井戸に行けば、土地の羊飼いたちに会い、情報を収集できる。
- (4) 創 24 の井戸と同じかどうかは、分からない。
 - ① この井戸は、町の外にあって、羊に水を飲ませるためのものである。
 - ② 先の井戸は、町のそばにあって、飲用水を取るためのものであった。
 - ③ 従って、別の井戸である公算が高い。

4. 井戸の状態

- (1) 井戸の上に大きな石が置いてあった。
 - ① 水が溢れ出ないように
 - ② 水を清く保つために
- (2) 土地の羊飼いたちは、その石を動かしてから、羊に水を飲ませる。
- (3) 3つの羊の群れが伏していた理由は、まだ石を動かしていなかったから。
- (4) 手順
 - ① 群れを全部そこに集める。
 - ② 石を井戸の口から転がす。
 - ③ 羊に水を飲ませる。
 - ④ 石を井戸の口のもとの所に戻す。

5. 土地の羊飼いたちとの会話

- (1) 「兄弟たちよ。あなたがたはどこの方ですか」
 - ① 「兄弟たちよ」とは、親しみを込めた言葉。
 - ② ヤコブもまた羊飼いであった。

(2) 「私たちはハランの者です」

① これで、ハランに到着したことが分かった。

(3) 「あなたがたはナホルの子ラバンをご存じですか」

① 「ナホルの子」とは、「ナホルの孫」という意味で使われている。

② ナホルは有名人であった。

③ 父ベトエルは、すでに死んでいたであろう。

(4) 「知っています」

(5) 「あの人は元気ですか」

(6) 「元気です。ご覧なさい。あの人の娘ラケルが羊を連れて来ています」

① まだラケルは見えていない。

② 井戸の石を動かす前に到着する羊飼いたちの中に、ラケルがいる。

③ これは、神の摂理による。

6. ヤコブの助言

「ご覧なさい。日はまだ高いし、群れを集める時間でもありません。羊に水を飲ませて、また行って、群れをお飼いなさい」

(1) ヤコブは、プロとしての助言を与えている。

(2) これでは効率が悪すぎる。羊が育たない。

(3) 習慣に縛られている羊飼いたち

「全部の群れが集められるまでは、そうできないのです。集まったら、井戸の口から石をころがし、羊に水を飲ませるのです」

① 石が大きいので、共同作業が必要。

② その地の羊飼いたちに合意が形成され、それが習慣となっていた。

II. 未来の妻との出会い (29：9～14)

1. ラケルの登場

「ヤコブがまだ彼らと話しているとき、ラケルが父の羊の群れを連れてやって来た。彼女は羊飼いであったからである」

(1) ラケルは、「雌の子羊」という意味。

(2) 羊飼いは、この地方では高貴な職業とみなされていた。

(3) 裕福な家の娘が羊飼いであっても、おかしくはない。

2. ヤコブの反応

「ヤコブが、自分の母の兄ラバンの娘ラケルと、母の兄ラバンの羊の群れを見ると、すぐ近寄って行って、井戸の口の上の石をころがし、母の兄ラバンの羊の群れに水を飲ませた」

(1) 共同作業であることを、ヤコブはひとりで行った。旧例にとらわれていない。

(2) ヤコブは、ラバンの羊の群れに水を飲ませた。

① ラケルに敬意を表するため

② ラケルの関心を引くため

③ 土地の羊飼いたちは、驚いたことであろう。

(3) 「そうしてヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた」

① 神の摂理によってこの出会いが与えられた。

② 目の前に、将来の妻になる女性がいる。

③ ヤコブはラケルに一目ぼれした。

3. ラケルの反応

「ヤコブが、自分は彼女の父の親類であり、リベカの子であることをラケルに告げたので、彼女は走って行って、父にそのことを告げた」

(1) 彼女は、ヤコブに羊を預けて、家に帰った。

(2) 創 24：28 では、リベカが同じことをしている。彼女は、母親に告げている。

(3) ラケルは、父親に告げている。恐らく、母親は死んでいたのであろう。

4. ラバンの登場

「ラバンは、妹の子ヤコブのことを聞くとすぐ、彼を迎えに走って行き、彼を抱いて、口づけした。そして彼を自分の家に連れて来た」

(1) ラバンの妹リベカが家を出たのは、90 年以上も前のことである。

(2) ラバンは、懐かしさを覚えた。

(3) ラバンはヤコブを家に迎えた。

5. ヤコブとラバンの会話

(1) ヤコブはラバンに、事の次第のすべてを話した。

① ヤコブは、過去 90 年間の家族の歴史をラバンに伝えた。

② また、自分が家を出るようになった経緯や、

③ ベテルでの神との出会いについて語った。

(2) 恐らく、妻を探しに来たことは告げなかったであろう。

① 花嫁料を持っていないから

(3) ラバンは彼に、「あなたはほんとうに私の骨肉です」と言った。

① ラバンはヤコブを親戚のひとりと認めた。

② ヤコブは、ラバンの家の客となり、1 か月滞在した。

③ ただしヤコブは、自分にできることはなんでもした。

Ⅲ. 結婚 (29:15～30)

1. ラバンの提案

「あなたが私の親類だからといって、ただで私に仕えることもなかろう。どういう報酬がほしいか、言ってください」

- (1) ヤコブが忠実に働いていたことがよく分かる。
- (2) この言葉によって、ヤコブは心の中にあった思いを率直に伝えることができた。

2. 挿入句 (16～17 節)

「ラバンにはふたりの娘があった。姉の名はレア、妹の名はラケルであった」

- (1) レアとは、「野生の牛」(アンテロプ。オリックス、インパラなど)の意味。
- (2) ラケルとは、「雌の子羊」の意味。
- (3) レアとラケルの対比
 - 「レアの目は弱々しかったが、ラケルは姿も顔だちも美しかった」
 - 「レアは優しい目をしていたが、ラケルは顔も美しく、容姿も優れていた」(新共同訳)
 - ① レアは視力に問題があった。
 - ② ラケルは、容姿端麗な娘であった。

3. ヤコブの願い

「私はあなたの下の子ラケルのために七年間あなたに仕えましょう」

- (1) ヤコブはラケルに一目ぼれをしていた。
- (2) これは結婚の申し込みであるが、7年後にそれを実現したいというもの。
 - ① ヤコブは、アブラハムのしもべが持参したような花嫁料は持っていなかった。
 - ② 7年間の賃金が、ラケルのための花嫁料である。

4. ラバンの回答

「娘を他人にやるよりは、あなたにあげるほうが良い。私のところにとどまっていなさい」

- (1) ラバンは、了承した。
- (2) 「私のところにとどまっていなさい」という言葉によって、合意が完成した。

5. ヤコブの債務履行

「ヤコブはラケルのために七年間仕えた。ヤコブは彼女を愛していたので、それもほんの数日のように思われた」

- (1) ヤコブは忠実に働いた。
- (2) 7年間でほんの数日のように思われた。
 - ① 自分が得るものに比べれば、今の労苦は取るに足りないものである。
 - ② また、ラケルとの日々の会話は、労苦を忘れさせるに十分なものである。
- (3) ロマ 8:16～18 に書かれた真理

「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます」

(4) ヤコブのラケルに対する愛は、決して色あせることはなかった。

6. 契約の実行

「私の妻を下さい。期間も満了したのですから。私は彼女のところに入りたいのです」

(1) 契約によって、ラケルはすでに彼の妻となっていた。

(2) 契約を実現する条件が満たされた。

(3) ユダヤ人たちは、この時のヤコブの年齢を84歳とする。

① ヤコブは77歳で家を出て、7年間働いた。

② ヤコブの結婚適齢期。

③ そのヤコブから、12部族が誕生する。 $12 \times 7 = 84$ (ともに完全数)

(4) 「そこでラバンは、その所の人々をみな集めて祝宴を催した」

① ハランの町の有力者たちが招かれた。

② この時代の中近東の習慣では、祝宴が7日間続いた。

7. 欺き

「夕方になって、ラバンはその娘レアをとり、彼女をヤコブのところに行かせたので、ヤコブは彼女のところに入った」

(1) 父イサクを欺いたヤコブが、叔父のラバンとその長女のレアに欺かれている。

(2) 神の報いが下っている。

① イサクは盲目であった。暗闇の中にいたヤコブも、相手が見えなかった。

② ヤコブは弟を兄だと偽った。ここでは、ラバンが姉を妹だと偽っている。

③ イサクはヤコブをエサウだと思った。ヤコブはレアをラケルだと思った。

④ ヤコブは兄エサウのように振る舞った。レアは妹ラケルのように振る舞った。

(3) 当時は、初夜には花嫁は顔にベールをかけていた。

(4) そのためヤコブは、そばに寝ているのがレアであることに気づかなかった。

(5) 「ラバンはまた、娘のレアに自分の女奴隷ジルパを彼女の女奴隷として与えた」

① 結婚の贈り物である。たったこれだけ。

② 7年後にヤコブが手にしたのは、妻と一人の女奴隷だけである。

(6) 「朝になって、見ると、それはレアであった」

① ベールが取られた。

② 朝日が差している。

8. ヤコブの抗議

「何ということを私になさったのですか。私があなたに仕えたのは、ラケルのためではなかったのですか。なぜ、私をだましたのですか」

- (1) 神の報いとは言え、ラバンの罪は重大である。
- (2) また、レアにも責任はある。
- (3) この事件の背後に、神の摂理が働いている。

① メシアは、レアの家系から誕生する。

9. ラバンの回答と新しい提案

「われわれのところでは、長女より先に下の娘をとつがせるようなことはしないのです」

- (1) ヤコブにはそれが知らされていなかった。
- (2) 恐らく、ラバンが考えた口実であろう。
- (3) 「それで、この婚礼の週を過ぎなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげましょう。その代わり、あなたはもう七年間、私に仕えなければなりません」

- ① 1週間の婚礼の祝い
- ② それが明けると、ラケルと結婚する。
- ③ その後7年間、ラバンに仕える。
- ④ ラバンは貪欲である。

10. ヤコブの対応

「ヤコブはそうにした。すなわち、その婚礼の週を過ぎた。それでラバンはその娘ラケルを彼に妻として与えた」

- (1) モーセの律法は、妻の姉妹との結婚を禁じている（レビ 18:18）。

「あなたは妻を苦しめるために、妻の存命中に、その姉妹に当たる女をめとり、その女を犯してはならない」

- (2) しかし、この時代はモーセの律法以前であるので、許されている。
- (3) ラバンは娘ラケルに、自分の女奴隷ビルハを彼女の女奴隷として与えた。

① 結婚の贈り物

- (4) 「ヤコブはこうして、ラケルのところにも入った。ヤコブはレアよりも、実はラケルを愛していた。それで、もう七年間ラバンに仕えた」

- ① ヤコブの高潔な人格
- ② これで、主役は揃った。
 - * ヤコブと4人の女性
 - * レアとその女奴隷ジルパ（親密）
 - * ラケルとその女奴隷ビルハ（恐れ）
- ③ ヤコブはこの4人の女性から12人の息子を得るのである。

結論

1. クリスマン生活は、信じた内容を体験する人生である。
 - (1) 神の守り
 - (2) 神の祝福
 - (3) 約束の地への帰還
2. そこには、神の摂理の御手が働いている。
 - (1) 姉のレアと結婚したことは、神の報いである。
 - (2) それは、神の摂理的な導きでもある。
 - (3) そこに私たちは、神の主権を見る。
3. 自分の思い通りにならない時こそ、信仰を強くする時である。
 - (1) 誰が、レアからメシアが登場すると予測できたであろうか。
 - (2) ロマ8:28
「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」
 - ① 神の計画に従って召されたとの認識
 - ② 神を愛することを選ぶ信仰

【創世記43】 創世記29章31節～30章24節

「ヤコブの息子たち」

イントロ：

1. 私たちは今、第8番目のトルドットにいる。
「アブラハムの子イサクの歴史」 創25：19～35：29
 - (1) ヤコブは、アブラハム契約の継承者になっている。
 - (2) ヤコブとその子孫を通して、神の計画が展開していく。
 - (3) ヤコブに約束された祝福の一つが、子孫の祝福である。
 - (4) 寄留の地でそれがどのように成就したかを見ていく。

2. メッセージのアウトライン

- (1) レアの4人の息子たち
- (2) ビルハの2人の息子たち
- (3) ジルパの2人の息子たち
- (4) レアの2人の息子たち
- (5) ラケルの息子

ルベン、シメ、レビ、ユダ生まれ
ダンとナフタリ、ガド、アシェル
イッサカ、ゼブルン、レアの子ら
ヨセフとベニヤン、ラケルの子

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 神の計画を担う家族の中に大きな問題があったことを学ぶ。
 - (2) 神は摂理を通して私たちが公平に扱っておられることを学ぶ。

このメッセージは、神の忠実さと、公平さを学ぼうとするものである。

I. レアの4人の息子たち (29：31～35)

1. 状況

「【主】はレアがきらわれているのをご覧になって、彼女の胎を開かれた。しかしラケルは不妊の女であった」

2. 「きらわれている」という言葉の意味

- (1) 好きか嫌いかの感情ではなく、選択（優先順位）を示している。
- (2) ヤコブは、レアではなくラケルの方を優先させていた。

(3) ユダヤ教のラビたちの解釈：「レアは、ラケルほどは愛されていなかった」

(4) 新共同訳は、「主は、レアが疎んじられているのを見て」と訳している。

(5) 「Leah was loved less than Rachel」(TEV)

(6) 主イエスのことば ルカ 14:26

「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません」

① ユダヤ教のラビたちは、イエスのこのことばを批判する。

② 一貫した解釈法を採用するなら、ここでの「憎む」とは選択のことである。

③ 彼らは、二重基準(ダブルスタンダード)の罪を犯している。

④ イエスのことばの意味は、神の御心を何よりも優先させるということである。

3. 神の摂理が働いている。

(1) 本来は異常な結婚である。

(2) レアが置かれている状況を見て、神は彼女を祝福された。

(3) ラケルには子が与えられなかった。

4. 最初の息子ルベン

「レアはみごもって、男の子を産み、その子をルベンと名づけた。それは彼女が、『【主】が私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するであろう』と言ったからである」

(1) ルベンとは、「息子を見よ」という意味。

(2) 彼女は、夫がラケルよりも自分を優先させてくれるだろうとの希望を抱いた。

5. 2番目の息子シメオン

「彼女はまたみごもって、男の子を産み、『【主】は私がきらわれているのを聞かれて、この子をも私に授けてくださった』と言って、その子をシメオンと名づけた」

(1) シメオンとは、「聞く」という意味。

(2) 「きらわれている」とは、選ばれていないという意味。

6. 3番目の息子レビ

「彼女はまたみごもって、男の子を産み、『今度こそ、夫は私に結びつくだろう。私が彼に三人の子を産んだのだから』と言った。それゆえ、その子はレビと呼ばれた」

(1) レビとは、「結ぶ」、「近づく」という意味。

(2) 民 18:2、4で、言葉遊びがある。「レビ族」と「近づける」。

(3) ここまでで、レアの願望が息子たちの名前の中に込められている。

7. 4番目の息子ユダ

「彼女はまたみごもって、男の子を産み、『今度は【主】をほめたたえよう』と言った。

それゆえ、その子を彼女はユダと名づけた。それから彼女は子を産まなくなった」

(1) ユダとは、「ほめたたえる」という意味。

(2) この名前は、レアが神の内に慰めを発見したことを示している。

① 彼女は、夫のヤコブではなく、神に信頼することを学んだ。

② レアにとっては、「神はほめたたえられるべきお方」である。

③ ヤコブにとっては、「ユダはほめたたえられる」となる(創49:8)。

「ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ、あなたの手は敵のうなじの上にあり、あなたの父の子らはあなたを伏し拝む」

(3) それ以降レアは子を産まなくなった。

① しかし、これは一時的なもの。

② 恐らく、ヤコブが彼女とともに寝なくなったのであろう。

(4) レアは夫から愛されることを願い、最初の3人の息子を産んだ。

(5) しかし、願いどおりにはならなかった。

(6) 今、自分は夫からは愛されていないが、神からは愛されていることを知った。

(7) イスラエルの中に置かれる2つの重要な機関は、祭司と王である。

① 祭司職はレビ族が、王権はユダ族が担うことになる。

② 両方とも、人間が計画しなかった結婚、願わなかった結婚から出てきた。

II. ビルハの息子たち(30:1~8)

1. ラケルは姉のレアに嫉妬した。

「ラケルは自分がヤコブに子を産んでいないのを見て、姉を嫉妬し、ヤコブに言った。『私に子どもを下さい。でなければ、私は死んでしまいます』」

(1) 夫のヤコブに、理不尽な要求を出す。

(2) あたかもヤコブが子どもの誕生を阻止しているかのような言葉である。

(3) 恐らくヤコブは、ラケルと寝る回数の方が多かったと思われる。

2. ここには皮肉がある。

(1) 彼女は、子を産まないなら死んでしまうと言った。

(2) 後に彼女は、ベニヤミンを出産する際に死ぬことになる。

3. ヤコブの返事は、優しいものではない。

(1) ヤコブはラケルに怒りを燃やして言った。

(2) 言葉が厳しい。

「私が神に代わることができようか。おまえの胎内に子を宿らせないのは神なのだ」

(3) 彼は、神の摂理が働いていることを見ていた。

4. 失望したラケルは、女奴隷のビルハをヤコブに差し出すことにした。

- (1) かつてサラがアブラハムにしたのと同じことをしている。
- (2) ビルハから誕生した息子は、法的にはラケルの息子となる。
- (3) これは、ハムラビ法典の規定通りである。
- (4) 誕生した息子に名前を付けるのは、ラケルである。

5. ビルハの最初の息子ダン

「ラケルは女奴隷ビルハを彼に妻として与えたので、ヤコブは彼女のところに入った。ビルハはみごもり、ヤコブに男の子を産んだ。そこでラケルは、『神は私をかばってください、私の声を聞き入れて、私に男の子を賜った』と言った。それゆえ、その子をダンと名づけた」

- (1) ラケルが女奴隷を通して得た最初の息子(ヤコブの5番目の息子)
- (2) ダンとは、「裁く」という意味。

6. ビルハの2番目の息子ナフタリ

「ラケルの女奴隷ビルハは、またみごもって、ヤコブに二番目の男の子を産んだ。そこでラケルは、『私は姉と死に物狂いの争いをして、ついに勝った』と言って、その子をナフタリと名づけた」

- (1) ラケルが女奴隷を通して得た2番目の息子(ヤコブの6番目の息子)
- (2) ナフタリとは、「争う」という意味。

III. ジルパの息子たち(30:9～13)

1. レアは、妹のやり方を真似た。

- (1) 女奴隷ジルパから生まれる息子は、法的にはレアのものである。

2. ジルパの最初の息子ガド

「さてレアは自分が子を産まなくなったのを見て、彼女の女奴隷ジルパをとって、ヤコブに妻として与えた。レアの女奴隷ジルパがヤコブに男の子を産んだとき、レアは、『幸運が来た』と言って、その子をガドと名づけた」

- (1) レアが女奴隷を通して得た最初の息子(ヤコブの7番目の息子)
- (2) ガドとは、「幸運(ラッキー)」という意味である。

3. ジルパの2番目の息子アシュル

「ジルパはさらに子を産んだ。レアの女奴隷ジルパがヤコブに二番目の男の子を産んだとき、レアは、『なんとしあわせなこと。女たちは、私をしあわせ者と呼ぶでしょう』と言って、その子をアシュルと名づけた」

- (1) レアが女奴隷を通して得た2番目の息子(ヤコブの8番目の息子)
- (2) アシュルとは、「幸せ(ハッピー)」という意味である。

IV. レアの息子たち(30:14～21)

1. 背景は、14～16節に書かれている。

- (1) 時期は、「麦刈りのころ」、つまり、5月か6月ごろ。
- (2) ルベンが「恋なすび」を見つけてきた。
 - ① 英語ではマンドレク、あるいは、直訳してラブ・アップル。
 - ② 「恋なすび」には、媚薬(精力促進剤)としての効果がある。
 - ③ 白や紅色の花を付け、小さいりんごのような黄色い実をならせる。
 - ④ 雅歌7:13「恋なすびは、かおりを放ち、私たちの門のそばには、新しいのも、古いのも、すべて、最上の物があります。私の愛する方よ。これはあなたのためにたくわえたものです」

2. ラケルは、レアに恋なすびを求めた。

「どうか、あなたの息子の恋なすびを少し私に下さい」

- (1) ラケルにはまだ自分が産んだ息子がいない。
- (2) ラケルは、恋なすびが媚薬であることを知っていた。

3. レアの答えは非常に厳しい。

「あなたは私の夫を取っても、まだ足りないのですか。私の息子の恋なすびもまた取り上げようとするのですか」

- (1) ヤコブがラケルとだけ寝ていたことを示している。
- (2) レアは、これ以上この2人の夜の関係を改善したくないと考えた。

4. ラケルの提案

「では、あなたの息子の恋なすびと引き替えに、今夜、あの人があなたといっしょに寝ればいいでしょう」

- (1) ラケルは、恋なすびと夫を交換した。
- (2) それが媚薬であるので、息子を産むために手に入れたと考えた。

5. レアはヤコブと寝る。

「あなたはわたしのところに来なければなりません。わたしは、息子の恋なすびであなたを雇ったのですから」(新共同訳)

- (1) 「雇った」は「サカル」である。イッサカルの語源である。
- (2) 妻たちの取引の結果、ヤコブはその夜レアと寝ることになった。

6. レアの5番目息子イッサカル(ヤコブの9番目の息子)

「神はレアの願いを聞かれたので、彼女はみごもって、ヤコブに五番目の男の子を産んだ。そこでレアは、『私が、女奴隷を夫に与えたので、神は私に報酬を下さった』と言って、その子をイッサカルと名づけた」

- (1) レアは、恋なすびを代価として支払い、夫ヤコブを得た。
- (2) 神は、ラケルが女奴隷ジルバを夫に与えたので、その報酬としてもっと高価なものを下さった。それが、5番目の息子の誕生である。
- (3) イッサカルとは、「報酬」という意味である。

7. レアの6番目の息子ゼブルン(ヤコブの10番目の息子)

「レアがまたみごもり、ヤコブに六番目の男の子を産んだとき、レアは言った。『神は私に良い賜物を下さった。今度こそ夫は私を尊ぶだろう。私は彼に六人の子を産んだのだから』。そしてその子をゼブルンと名づけた」

- (1) ゼブルンとは、「ともに住む」という意味である。
- (2) レアは、夫が自分を大切にしてくれるだろうとの期待を持った。

8. 娘の誕生

「その後、レアは女の子を産み、その子をディナと名づけた」

- (1) ヤコブには、複数の娘たちがいた。創37:35、46:7、15
- (2) ディナの名前だけしか出てこない。
- (3) 創34章で、彼女が重要な役割を演じるようになるから。
- (4) ダンの女性形がディナである。

V. ラケルの息子(30:22～24)

1. ラケルの最初の息子ヨセフ(ヤコブの11番目の息子)

「神はラケルを覚えておられた。神は彼女の願いを聞き入れて、その胎を開かれた」

- (1) 「神はラケルを覚えておられた」とは、記憶していたという意味ではない。
- (2) 恵みの実現に向けて行動を起こされたという意味である。

2. 神は彼女の祈りを聞かれ、彼女が妊娠するようにされた。

「彼女はみごもって男の子を産んだ。そして『神は私の汚名を取り去ってくださった』と言って、その子をヨセフと名づけ、『【主】がもうひとりの子を私に加えてくださるように』と言った」

- (1) 「取り去る」とは、アサフ。
- (2) 「加える」とは、ヨセフ。

(3) ヨセフという名前には、ラケルの感謝と願望とが込められている。

- ① 汚名が取り去られた。アサフ。
- ② 次の子が与えられるように。ヨセフ。
- ③ 彼女の願望は、ベニヤミンの誕生によって叶えられる。
- ④ しかし、それが命取りになる。

結論

1. 神の計画を担う家族の中に大きな問題があったことを学ぶ。

- (1) 異常な形の結婚
- (2) 家庭内の不和と嫉妬
- (3) この家族を通して神の計画が進展した。
- (4) I コリ 1：27 「しかし神は、知恵ある者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです」
- (5) II コリ 13：4 「確かに、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力のゆえに生きておられます。私たちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対する神の力のゆえに、キリストとともに生きているのです」

2. 神は摂理を通して私たちを公平に扱っておられることを学ぶ。

- (1) 姉のレアは、夫に愛されなかったが、多くの息子を産んだ。
 - ① 祭司と王の家系は、レアから誕生した。
- (2) 妹のラケルは、夫に愛されたが、息子が生まれなかった。
 - ① かろうじてヨセフを得た。
 - ② 命と引き換えにベニヤミンを得た。
- (3) そこに私たちは、神の主権を見る。
 - ① 神は、私たちが傲慢になったり、卑屈になったりしないようにされる。
 - ② I コリ 12：20～25 「しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです」

【創世記 44】 創世記 30 章 25 節～ 31 章 16 節

「ヤコブとラバンの契約」

イントロ：

1. 寄留の地で生活するヤコブは、11 人の息子を得た。
 - (1) レアの 4 人の息子たち
 - (2) ビルハの 2 人の息子たち
 - (3) ジルパの 2 人の息子たち
 - (4) レアの 2 人の息子たち
 - (5) ラケルの息子
2. きょうの箇所
 - (1) ヤコブとラバンの契約
 - (2) ラバンの欺き
 - (3) ヤコブの復讐
 - (4) 決断の時
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 神は摂理を通して私たちを公平に扱っておられる。
 - (2) それゆえ、人は復讐してはならない。

このメッセージは、神の公平さと、復讐の愚かさを学ぼうとするものである。

I. ヤコブとラバンの契約

1. ヤコブの要請
 - (1) ヤコブには 11 人の息子が生まれた。
 - (2) 彼は、花嫁料のために、14 年間働いた。ラバンの冷酷さが見られる。
 - (3) ラバンに騙されたが、彼はラバンを騙さなかった。
 - (4) 彼が所有した財産は、2 人の妻、2 人の女奴隷、11 人の息子だけであった。
 - (5) これまでは、住居と食物だけのために働いてきたが、大家族の将来が心配。
 - (6) そこで彼は、カナンの地への帰還を考えた。
 - ①「私の故郷の地」とは、カナンの地である。
 - (7) ラバンは、ヤコブの働きぶりをよく知っていた。

「私の妻たちや子どもたちを私に与えて行かせてください。私は彼らのためにあなたに仕えてきたのです。あなたに仕えた私の働きはよくご存じです」

2. ラバンの逆提案

「もし、お前さえ良ければ、もっといてほしいのだが。実は占いで、わたしはお前のお陰で、主から祝福をいただいていることが分かったのだ」(新共同訳)

(1) 占いは「ナホッシュ (ニハシュティ)」

(2) 蛇は「ナハッシュ」

(3) 「占い」という言葉は、「蛇」と同じ語幹を持つ。

① 直訳すると、蛇を通して占いをするという意味。

② ラバンはオカルト的占いをしていた。

(4) 彼は、ヤコブの神、主(ヤハウエ)が祝福を与えていてくれることを知った。

① 「お前のお陰で」とは、ヤコブとの関係のゆえに、という意味である。

② ラバンはこの14年間、アブラハム契約の祝福の側面を体験していた。

③ (創12:3)「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう」

(5) ラバンはこの祝福を失いたくない。

(6) そこで、ヤコブを引き留めるために、報酬を支払うことを提案する。

3. ヤコブの答え

(1) ラバンは、ヤコブが忠実に働いたことを知っている。

(2) その結果、ラバンの家畜が爆発的に増加した。

(3) 「それは、私の行く先で【主】があなたを祝福されたからです」

① ラバンは、アブラハム契約の祝福の受け手となった。

② 彼は偶像礼拝者であったが、ヤコブとの関係のゆえに、祝福を受けた。

(4) ヤコブは、自分と家族のために経済的安定を求めた。

4. ラバンの質問

(1) 報酬はどれくらい欲しいか。

5. ヤコブの答え

(1) 控え目な要求をしている。

① 前払いをしなくてもよい。

② ひとつの条件を呑んでくれるなら、ラバンのもとに留まり続ける。

(2) 3種類の家畜

「私はきょう、あなたの群れをみな見回しましょう。その中から、ぶち毛とまだら毛のもの全部、羊の中では黒毛のもの全部、やぎの中ではまだら毛とぶち毛のものを、取り出してください。そしてそれらを私の報酬としてください」

① ぶち毛とまだら毛のもの全部 (総論的言葉)

*ぶち毛：黒の中に白点がある。

*まだら毛：白の中に黒点がある。

② 黒毛の羊全部

*中東の羊は、普通は白である。黒は珍しい。

③ まだら毛とぶち毛のやぎ

*中東のやぎは、普通は黒か濃い茶色。まだら毛とぶち毛は珍しい。

(3) 以上の3種類は、数が少ない。

(4) しかも、彼はそれらの家畜から生まれてくる子羊や子やぎだけを要求した。

(5) もっと大胆な要求を出す権利があったが、最低限のところからスタートした。

(6) そして、自分の正直さを示す方法まで提示した。

「後になってあなたが、私の報酬を見に来られたとき、私の正しさがあなたに証明されますように。やぎの中に、ぶち毛やまだら毛でないものや、羊の中で、黒毛でないものがあれば、それはみな、私が盗んだものとなるのです」

6. ラバンの同意

(1) ラバンは、自分に有利な条件なので、すぐに同意した。

「そうか。あなたの言うとおりになればいいな」(新改訳)

「よろしい。お前の言うとおりにしよう」(新共同訳)

II. ラバンの欺き

1. ラバンは汚い手を使った。

「ラバンはその日、しま毛とまだら毛のある雄やぎと、ぶち毛とまだら毛の雌やぎ、いずれも身に白いところのあるもの、それに、羊の真っ黒のものを取り出して、自分の息子たちの手に渡した」

(1) ラバンには、息子たちが誕生していた。これは、ヤコブの到着以降の出来事。

(2) 彼が選別して自分の息子たちに渡したのは、ヤコブの元手になる家畜たち。

(3) ヤコブはその家畜たちが生み出すものを、将来の賃金としようとしていた。

(4) ヤコブは、ゼロから始めなければならなくなった。

(5) ラバンがヤコブを欺くのは、これが2度目である。

2. ラバンは、ヤコブの群れが増える可能性をなくした。

「そして、自分とヤコブとの間に三日の道のりの距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼っていた」

(1) ラバンの息子たちの群れと、ヤコブの群れとが交配する可能性はゼロ。

(2) いくら経っても、ヤコブが受け取る群れは誕生しないということである。

(3) ラバンは、ヤコブの財産が増えないようにして、長く彼を留めようとした。

3. 誰が誰を欺いているか、注意する必要がある。

- (1) ヤコブは非常に控え目な提案をしたが、ラバンは策を弄した。
- (2) しかし、ヤコブは忠実に働いた。
- (3) 勧善懲悪のドラマならば、仕事人の出番である。

Ⅲ. ヤコブの復讐

1. 第1の策

- (1) 家畜にさかりがつく場所で、彼は奇妙なことをし始めた。

「ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の若枝を取り、その白い筋の皮をはいで、その若枝の白いところをむき出しにし、その皮をはいだ枝を、群れが水を飲みに来る水ため、すなわち水ぶねの中に、群れに差し向かいに置いた」

- (2) その結果

「こうして、群れは枝の前でさかりがついて、しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のものを産んだ」

- ① 親の毛色とは異なった子どもが誕生した。
- ② これは、契約ではヤコブの群れとなる。

2. 第2の策

- (1) 普通の群れと、自分の所有となる群れとを分けた。
- (2) 次に、両者を対面させた。
- (3) 普通の群れは「しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のもの」を産んだ。

3. 第3の策

- (1) 強いものの群れがさかりがついた時には、木の枝を水ぶねの中に置いた。
- (2) 弱いものの群れの場合は、そうしなかった。
- (3) 強い群れから、「しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のもの」が誕生した。
- (4) こうして、ラバンの群れは弱いものとなっていった。

4. 復讐の結果

「それで、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、およびらくだと、ろばとを持つようになった」

- (1) 7年間の間に、急速に裕福になった。
- (2) ヤコブが用いた手法は、当時の迷信である。
 - ① さかりの時(子を宿した時)に視覚に刺激を与えると、胎児に影響が現れる。
 - ② ヤコブはそれを信じ、それを行っている。

IV. 決断の時

1. ラバンの息子たちとの関係が悪化。

(1) 古代のヌジ文書によれば、息子がない場合は、義理の息子が相続人となる。

(2) ラバンには息子たちが生まれた。彼らは、ラバンの相続人である。

(3) それゆえ、自分たちの財産が減っていくのを悲しんでいる。

「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物でこのすべての富をものにしたのだ」

(4) これは嘘である。事実、この逆である。

2. ラバンとの関係の悪化

(1) ヌジ文書では、義理の息子にも少しは相続させる。

(2) ラバンは、これに反している。

3. 神からの語りかけ

「あなたが生まれた、あなたの先祖の国に帰りなさい。わたしはあなたとともにいる」

(1) 2回目の顕現

(2) 20年間の間隔があいている。

4. 2人の妻との会話

(1) 野に呼び寄せた。誰にも聞かれないで、ゆっくり相談ができる。

(2) ヤコブは、ことの次第を妻たちに告げた。

(3) ヤコブは、裕福になった真の原因を明かす。

(4) 夢の中の光景

「群れにかかっている雄やぎは、しま毛のもの、ぶち毛のもの、また、まだら毛のものであった」

5. 神からの語りかけ

(1) 御使いは言われた。「ヤコブよ」

(2) 「目を上げて見よ。群れにかかっている雄やぎはみな、しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のものである」

(3) 「ラバンがあなたにしてきたことはみな、わたしが見た」

① 木の若枝を利用する必要はなかった。神がしておられた。

② アブラハム契約の呪いの側面。同じ種類の呪い。

(4) 「わたしはベテルの神。あなたはそこで、石の柱に油をそそぎ、わたしに誓願を立てたのだ。さあ、立って、この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい」

(5) 「御使い」、あるいは、「神の御使い」とは、目に見える形で現れた神である。

(6) 「ベテルの神」。ヤコブの霊的原点に引き戻す。生まれた国に帰れ。

6. 妻たちの応答

- (1) 父への不満がある。
- (2) 自分たちは商品扱いされた。
- (3) 花嫁料はもらえなかった。
- (4) 彼女たちも、父が与えなかったものを、神が与えてくださったと理解した。

結論

1. 神は摂理を通して私たちを公平に扱っておられる。

- (1) ヤコブが群れを増やすために用いた手法
 - ① 木の若枝を利用した繁殖法
 - ② 自分の群れとラバンの群れを対面させ、交配させた。
 - ③ 強い群だけに木の若枝を利用した。
- (2) しかし、神はすべてを見ておられ、つじつまがあうようにされた。

2. それゆえ、人は復讐してはならない。

ロマ 12:19「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする』、と主は言われる」

【創世記45】 創世記31章17節～55節

「ヤコブ一家の逃亡」

イントロ：

1. ヤコブの一家が、パダン・アラムから逃亡しようとしている。
 - (1) 20年間そこで働いた。
2. カナン帰還は、神の時に行われている。
 - (1) ヤコブ自身の思い（郷愁）
 - (2) ラバンとその息子たちとの関係の悪化
 - (3) 神からの語りかけ
 - (4) 妻たちの同意
3. きょうの箇所
 - (1) ヤコブ一家の逃亡
 - (2) ラバンの追跡
 - (3) ヤコブとラバンの対決
 - (4) ギルアデの契約
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 個人への適用：私は祝福から離れていないか。
 - (2) 教会への適用：今のキリスト教は祝福から離れていないか。

このメッセージは、神の祝福から離れることの愚かさを学ぼうとするものである。

I. ヤコブの一家の逃亡 (31:17～21)

「そこでヤコブは立って、彼の子たち、妻たちをらくだに乗せ、また、すべての家畜と、彼が得たすべての財産、彼がパダン・アラムで自分自身のものとした家畜を追って、カナンの地にいる父イサクのところへ出かけた」

1. ヤコブが持って行ったもの。ラバンから盗んだものではない。
 - (1) 子たち
 - (2) 妻たち
 - (3) 彼が得たすべての財産（ヤコブは商人でもあった）
 - (4) 自分自身のものとした家畜
2. 行先は、カナンの地にいる父イサクのところ。

3. 状況

- (1) 「そのとき、ラバンは自分の羊の毛を刈るために出ていたので、」
 - ① つまり、ラバンはその近辺にはいなかった。
- (2) 「ラケルは父の所有のテラフィムを盗み出した」
 - ① テラフィムとは、小さな偶像(複数形。家族の守り神)。
 - ② ラケルが偶像礼拝者であったわけではない。
 - ③ ハムラビ法典：テラフィムを所有している者が相続権を主張できる。
- (3) ラケルがテラフィムを盗んだのは、父ラバンの財産をヤコブに与えるため。
 - ① 盗むことができる神とは、どういう神なのか。
 - ② ラケルは、神を盗むという罪を犯した。
- (4) ヤコブは、ラバンに内緒で逃れた。
 - ① ユーフラテス川を渡り、ギルアデの山地に向かった。
 - ② ヨルダン川の東にある高原、カナンの地に入る前に通る最後の場所

II. ラバンの追跡 (31:22～24)

1. 「三日目に、ヤコブが逃げたことがラバンに知らされた」
 - (1) これは、ラバンがふたつの群れの間に三日の距離を置いていたから。
2. ラバンは、身内の者たちを率いて、7日の道のりを追って行った。
 - (1) ギルアデの山地で、先に行くヤコブの一行に追いついた。
 - (2) ヤコブが発ってから、13日目のことである。距離は、約600キロ。
 - (3) ヤコブは、家族と家畜の大群を率いていたので、進む速度が遅かった。
 - (4) ラバンは、パロがイスラエル人を追いかけたのと同じことをしている。
 - ① 奴隷状態に引き戻そうとした。
3. 「しかし神は夜、夢にアラム人ラバンに現れて言われた。『あなたはヤコブと、事の善悪を論じないように気をつけよ』」
 - (1) 創20:3では、神はアビメレクに夢の中で現れた。
 - (2) 神は未信者の夢の中で現れ、族長を攻撃してはならないとの警告を与えた。
 - (3) 「事の善悪を論じないように気をつけよ」：中立でいるように、非難しないように。
 - (4) つまり、ヤコブをパダン・アラムに戻そうと説得しないように。
4. ヤコブがギレアデの山地に天幕を張っているのを見て、ラバンもそこに天幕を張った。

III. ヤコブとラバンの対決 (31:26～42)

1. ラバンの不満

「何ということをしたのか。私にないしょで私の娘たちを剣で捕らえたとりこのように引いて行くとは。…あなたは全く愚かなことをしたものだ」

- (1) 内緒で逃げたことを非難
- (2) 送別の宴会ができなかったことを非難
- (3) 口づけができなかったことを非難
- (4) 結論：「あなたは全く愚かなことをしたものだ」

2. 神からの語りかけ

「私はあなたがたに害を加える力を持っているが、昨夜、あなたがたの父の神が私に告げて、『あなたはヤコブと、事の善悪を論じないように気をつけよ』と言われた。それはそうと、あなたは、あなたの父の家がほんとうに恋しくなって、どうしても帰って行きたくなったのであろうが、なぜ、私の神々を盗んだのか」

- (1) ラバンの願望：「私はあなたがたに害を加える力を持っている」
- (2) 神の介入があった。
 - ① ラバンにとっては、ヤハウエなる神、「アブラハム、イサク、ヤコブの神」は、たくさんいる中のひとつの神であり、彼の神ではない。
 - ② 神が現れ、ヤコブをパダン・アラムに帰るように説得してはならないと告げた。
- (3) ヤコブの気持ちを容認する。
 - ① 父の家が恋しくなって、帰りたくなったのであろう。
 - ② これは真実ではない。ラバンが正直ではないので、ヤコブは去ろうとしている。
- (4) ラバンが一番言いたかったこと。「なぜ、私の神々を盗んだのか」
 - ① ラバンは、多神教を信じる偶像礼拝者である。
 - ② ヤコブが将来、ラバンの家の神々を持って戻って来るのを恐れた。
 - ③ しかし、ヤコブはテラフィムについては全く知らなかった。

3. ヤコブの応答

- (1) 「あなたの娘たちをあなたが私から奪い取りはしないかと思って、恐れた」
 - ① ヤコブはラバンを全く信用していなかった。
- (2) 「あなたが、あなたの神々をだれかのところで見つけたなら、その者を生かしてはおきません。私たちの一族の前で、私のところに、あなたのものがあつたら、調べて、それを持って行ってください」
 - ① ヤコブは、ラケルがテラフィムを盗んだのを知らなかった。
 - ② この誓いによって、ラケルが殺される可能性が出てきた。

4. ラバンの捜し物

- (1) 「そこでラバンはヤコブの天幕と、レアの天幕と、さらにふたりのはしための天幕にも入って見たが、見つからなかったので、レアの天幕を出てラケルの天幕に入った」

- ① 最後に残ったのは、ラケルの天幕だけである。
- ② ラバンが自分の娘を殺さないという保証はない。
- (2) 「ところが、ラケルはすでにテラフィムを取って、らくだの鞍の下に入れ、その上にすわっていたので、ラバンが天幕を隅々まで捜し回っても見つからなかった」
 - ① 残されているのは、らくだの鞍の下だけである。
 - ② ラケルが立ち上がらない限り、鞍の下を見ることはできない。
- (3) 「父上。私はあなたの前に立ち上がることができませんので、どうかおこらないでください。私には女の常のことがあるのです」
 - ① 月のものによる痛みがあるので、立ち上がれないというのである。
 - ② その期間、女は立ち上がらなくてもよいというのが、この地の習慣である。
 - ③ もし本当なら、テラフィムはその血に触れたので、汚れたものとなっている。
 - ④ これは、恐らく嘘であろう。
- (4) ラバンはかつてその地の習慣を使って、ヤコブを騙した(29:26)。
 - ① 今彼は、その地の習慣によって欺かれている。
 - ② 呪いには、同じ種類の呪いが返って来る。
- (5) ラバンは、テラフィムを見つけることができなかった。

5. ヤコブの怒りに満ちた応答

- (1) 盗んだという証拠があるなら、それを見せて欲しい。
 - ① 証人がこんなにいる。
- (2) ヤコブは自分の過去の行為を振り返っている。

「私はこの二十年間、あなたといっしょにいましたが、あなたの雌羊も雌やぎも流産したことはなく、あなたの群れの雄羊も私は食べたことはありませんでした。野獣に裂かれたものは、あなたのもとへ持って行かないで、私が罪を負いました。あなたは私に責任を負わせました。昼盗まれたものにも、夜盗まれたものにも。私は昼は暑さに、夜は寒さに悩まされて、眠ることもできない有様でした」

 - ① あなたの雌羊も雌やぎも流産したことはなく
 - ② あなたの群れの雄羊も私は食べたことはありません。
 - * 当時の羊飼いたちがよく行っていた行為
 - ③ 野獣に裂かれたものは、あなたのもとへ持って行かないで私が罪を負いました。
 - * 持っていけば、責任はない。
 - ④ あなたは私に責任を負わせました。昼盗まれたものにも、夜盗まれたものにも。
 - ⑤ 私は昼は暑さに、夜は寒さに悩まされて、眠ることもできない有様でした。
- (3) 以上から、羊飼いの生活の厳しさがよく分かる。
- (4) ハムラビ法典の規定

- ① 羊飼いは、預かった頭数の受領書を出す。
- ② 妥当な頭数の増加を達成する義務がある。
- ③ 何頭かは自分の食用にすることが許されていた。
- ④ ライオンや、落雷などで死んだものは、免責となる。
- ⑤ しかし、不注意で死なせた場合は、10倍にして弁済する責任があった。
- (5) ヤコブは、法律で保障されていた権利を行使しなかった。
- (6) ラバンの不誠実を指摘

「私はこの二十年間、あなたの家で過ごしました。十四年間はあなたのふたりの娘たちのために、六年間はあなたの群れのために、あなたに仕えてきました。それなのに、あなたは幾度も私の報酬を変えたのです」

 - ① 14年間はふたりの娘のために。最初は、ラケルのために7年間の約束であった。
 - ② 6年間はラバンの群れのために、ラバンに仕えた。
 - ③ 「しかも、あなたはわたしの報酬を十回も変えました。」(新共同訳)
- (7) 神の介入

「もし、私の父の神、アブラハムの神、イサクの恐れる方が、私についておられなかったなら、あなたはきっと何も持たせずに私を去らせたことでしょう。神は私の悩みとこの手の苦労とを顧みられて、昨夜さばきをなさったのです」

 - ① もし神の介入がなかったら、ヤコブは来た時のままで去っていたことであろう。
 - ② 神の御名：「イサクの恐れる方」は、ここと 31：53 にだけ出てくる。

IV. ギルアデの契約 (31：43～55)

1. ラバンの虚勢 (はったり)

「ラバンは答えてヤコブに言った。『娘たちは私の娘、子どもたちは私の子ども、群れは私の群れ、すべてあなたが見るものは私のもの。この私の娘たちのために、または娘たちが産んだ子どもたちのために、きょう、私は何ができよう』」

(1) 所有権の主張

(2) 力の主張：できるが、しようとは思わない。

- ① しかし彼は、神の命令によって、それができないことを知っていた。

2. ラバンの提案

「さあ、今、私とあなたと契約を結び、それを私とあなたとの間の証拠としよう」

(1) 互いに傷つけ合わないよう、契約を結ぼう。

(2) 証しとなるものを立てる。

3. ヤコブの同意

「そこで、ヤコブは石を取り、これを立てて石の柱とした。ヤコブは自分の一族に言った。

『石を集めなさい』。そこで彼らは石を取り、石塚を作った。こうして彼らは石塚のそばで食事をした」

(1) 契約の締結

- ① 石の柱 (マツエイヴァ)
- ② 石塚 (ガル)
- ③ 契約の食事をした。

(2) 場所に名前を付ける。

「ラバンはそれをエガル・サハドタと名づけたが、ヤコブはこれをガルエデと名づけた」

- ① 「エガル・サハ・ドタ」(アラム語)
- ② 「ガルエデ」(エデは、証し)
- ③ ともに、「証しの塚」という意味である。

(3) ラバンが名前の意味を解説。

「この石塚は、きょう私とあなたとの間の証拠である」

(4) さらに、もう一つの名が与えられた。

「またそれはミツパとも呼ばれた。彼がこう言ったからである。『われわれが互いに目が届かない所にいるとき、【主】が私とあなたとの間の見張りをされるように』」

- ① ミツパとは、見張りの塔という意味である。
- ② この言葉は、警告の言葉である。
- ③ 互いに信頼し合っていない者同士の契約には、警告が必要となる。
- ④ 石の柱と石塚とは、境界線となる。
- ⑤ 互いにその境界線を越えないという約束。
- ⑥ ラバンは、ヤコブがテラフィム持参で帰還し、財産を要求することを恐れた。

4. ラバンの脅し

「もしあなたが私の娘たちをひどいめに会わせたり、もし娘たちのほかに妻をめとったりするなら、われわれのところにだれもいなくても、神が私とあなたとの間の証人であることをわきまえていなさい」

- (1) ヤコブがラバンの娘たちを虐待した場合
- (2) ほかに妻をめとった場合
- (3) 人間の証人がいなくても、神が証人である。

5. 神の御名によって契約が結ばれる。

「どうかアブラハムの神、ナホルの神——彼らの父祖の神——が、われわれの間をさばかれますように」

- (1) ナホルは偶像礼拝者であったが「アブラハムの神、ナホルの神」となっている。
- (2) 「ヤコブも父イサクの恐れる方にかけて誓った」

- ① ヤコブがこの境界線を越えると、テラフィムの法的効力はなくなる。
- ② ヤコブは、ラケルがテラフィムを盗んだことを知らない。
- ③ 従って、彼には関係のないことである。

6. 契約の食事

「そうしてヤコブは山でいけにえをささげ、一族を招いて食事を共にした。食事をしてから彼らは山で一夜を明かした」

- (1) これは、子どもたちも食する契約の食事である。
- (2) この契約の効力は、子どもたちにも及ぶ。
- (3) ヤコブの子どもたちは、パダン・アラムに嫁を探しに行くことはなくなった。

7. 別離

「翌朝早く、ラバンは子どもたちと娘たちに口づけして、彼らを祝福した。それからラバンは去って、自分の家へ帰った」

- (1) ヘブル語聖書では、32：1 になっている。
- (2) ラバンは、ヤコブを無視している。29：13 とは大違いである。
「ラバンは、妹の子ヤコブのことを聞くとすぐ、彼を迎えに走って行き、彼を抱いて、口づけした。そして彼を自分の家に連れて来た」
- (3) これ以降、パダン・アラムの家族の記録は聖書から消え去る。

結論

1. 個人への適用：私は祝福から離れていないか。

- (1) 今までに、ロトの例を見てきた。
- (2) 富める青年（マタ 19：16～22）
「『もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい』。ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである」
- (3) 最初から救われていない人（マタ 7：21）
「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです」

2. 教会への適用：今のキリスト教は祝福から離れていないか。

- (1) アブラハム契約の祝福
- (2) 異邦人は、その祝福に接木された。
- (3) 根なし草のキリスト教には、困難を乗り越える力がない。

【創世記46】 創世記32章1節～33章17節

「ヤコブとエサウの再会」

イントロ：

1. ヤコブの一家が、パダン・アラムからカナンに向かっている。
 - (1) ラバンとの関係も決着がついた。
 - (2) ギルアデの契約で、境界線を越えないという約束ができた。
 - (3) カナンの地は目前である。
2. 次の問題は、兄のエサウとの再会である。
 - (1) かつてエサウは、ヤコブを殺そうとしたことがある。
 - (2) 20年後、エサウの憎しみが消えているかどうか分からない。
 - (3) ヤコブの心に大きな恐れがあった。
3. きょうの箇所
 - (1) 再会する前の状況(起)
 - (2) ヤコブの対策(承)
 - (3) 神の対策(転)
 - (4) 再会(結)
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 恐れにどのように勝利するか。
 - (2) 改名するほどの体験をどのようにして手に入れるか。
*ヤコブからイスラエルへ

このメッセージは、恐れに勝利し、画期的な人生経験を手に入れる方法を学ぼうとするものである。

I. 再会する前の状況(32：1～6)

1. 良い知らせ(1～2節)
 - (1) ヤコブは旅を続けていた。
 - (2) ギルアデの山地を南下している。ヨルダン川の東側の高地。
 - (3) 神の使いたち(天使たち)が彼に現れた。
 - ① 創28：12 ベテルでの体験
「そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしを上り下りしている」
 - ② 約束の地を出る時と、そこに入る時に、天使たちの守りがあった。

(4) ヤコブはその地に名前を付けた。

①「ここは神の陣営だ」→ マハナイム

② 宿営は、マハネ。その双数形がマハナイム。「2つの宿営」

③ エルサレムの「マハネ・イエフダ」という市場がある(民2:3、9)。

④ ヤコブの宿営と、神の宿営(天使たちがいる)の2つが並んでいるということ。

(5) 私たちもまた、出入りに際して、マハナイムの体験をする必要がある。

2. 悪い知らせ(3～6節)

(1) 兄のエサウに前もって使者を送る。

① セイルの地とは、ギルアデの南側にある高地。今ヤコブはここにいる。

② エドムの野とは、セイルがあった地区のこと。

(2) メッセージの内容(恐れのためにこのような内容になっている)

① 私の主人エサウ

② あなたのしもべヤコブ

③ ラバンのもとに寄留していた。

④ 牛、ろば、羊、男女の奴隷を所有している。

⑤ あなたのご好意を得ようとして。

(3) 使者の報告

① エサウは400人を引き連れてやって来る。

② 理由は、分らない。

③ 確実なことは、ヤコブがそれを聞いて非常に恐れたということ。

④ その恐れが、神との戦いを生み出す原動力になった。

⑤ 神は、私たちの霊性を高めるために、恐れを経験を与えることがある。

II. ヤコブの対策(32:7～21)

1. 人間的工夫(7～8節)

(1) いっしょにいる人々や、家畜の群れを、2つの組に分けた。

(2) エサウが来て1つの組を打っても、残りの1つの組は逃れられる。

2. 祈り(9～12節)

(1) 呼びかけ。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ」。契約の御名。

(2) 神の命令によってカナンのに帰ろうとしているとアピール。

(3) 過去の恵みへの感謝

① 自分は、今まで受けてきたすべての恵みを受けるに値しない。

② 杖一本だけでヨルダン川を渡ったが、今は、2つの宿営を持つようになった。

(4) 救助の願い

① エサウが家族を殺しはしないかと恐れている。

② 願いの根拠は、ベテルでの神の約束

「あなたはかつて『わたしは必ずあなたをしあわせにし、あなたの子孫を多くて数えきれない海の砂のようにする』と仰せられました」

(5) 以上の祈りの要素は、私たちの祈りにも取り入れるべき内容である。

3. 贈り物 (13～21)

(1) 翌日の行動である。

(2) 贈り物の内容 (合計 580 頭)

① 雌やぎ 200 頭、② 雄やぎ 20 頭、③ 雌羊 200 頭、④ 雄羊 20 頭

⑤ 乳らくだ 30 頭とその子 (30 頭)、⑥ 雌牛 40 頭、⑦ 雄牛 10 頭

⑧ 雌ろば 20 頭、⑨ 雄ろば 10 頭

(3) これは、ヤコブの財産の一部である。彼は裕福になっていた。

(4) 一群れずつを分けて、その間に距離を置く。

① 一挙にではなく、順番にエサウへの贈り物を見せる。

② これによって、エサウをなだめようとした。

(5) この作業に一日かけて、彼自身は、宿営地でその夜を過ごした。

① それでもヤコブの不安は去らなかった。

III. 神の対策 (32:22～32)

1. 夜のうちの出来事

(1) 家族を連れてヤボク川を渡った。次に家畜も渡らせた。

(2) ギルアデとアモンの境界線を東西に流れ、ヨルダン川に注ぎ込む川。

(3) その川を渡ると、カナンの地は目前である。

(4) ヤコブだけがひとりで戻った。ヤボク川の南岸に家族が、北岸にヤコブがいる。

(5) ヤコブがひとりになったことで、神との格闘の舞台ができた。

(6) 究極的な試練は、人間の本質を暴き出す。

2. ある人の登場

「すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した」

(1) 「ある人」とあるのは、神が人間の姿を取って現れたから。

① 実態は、主の御使いである。第2位格の神 (受肉前の子なる神)。

(2) 「格闘した」は「ヤアベク」。

① 「アバク」は泥まみれになるという動詞。ここにしか出てこない珍しい言葉。

② ヤボク川との言葉遊び。永遠の記憶として残すために。

② ヤコブは、ヤボク川で、神とヤアベクした。

3. 格闘の内容

(1) 夜明けまで格闘が続いた。

- ① 決着のつかない激しい戦い。
- ② ヤコブにとっては、意味不明の戦い。火事場の馬鹿力を発揮した。

(2) その人は、ヤコブに勝てないのを見てとった。

- ① 天使は人間よりも強い。
- ② この場合は、普通の天使ではなく、主の御使いである。
- ③ 神がご自身の力を制限されたので、ヤコブは持ちこたえることができた。

I コリ 10:13 「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」

(3) その人は、ヤコブのもものつがい（股関節）を打った。

- ① 「イガ」という動詞は、触れたとも、打ったとも、訳せる。
- ② どちらでも同じこと。これは、超自然的な神の働きである。
イザ6:7 「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた」
- ③ その結果、ヤコブのもものつがいがはずれた。
- ④ それでも、ヤコブは諦めないで頑張っている。
- ⑤ 相手が超自然的な人物であるとの認識が生まれてきている。

4. 新しい名前

(1) その人は、格闘の終結を願う。

- ① 理由は、「夜が明けるから」
- ② 人間は、神の顔を見たなら、生き続けることはできない。

(2) ヤコブはなおも食い下がる。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださるなければ」

- ① 格闘している相手が神であるとの認識ある。
- ② ヤコブは、最も恐るべき方と格闘している。
- ③ 信仰による熱心な祈りには、力がある。

(3) その人からの質問「あなたの名は何というのか」

(4) ヤコブの回答「ヤコブです」

- ① 誕生の時に与えられた名前。かかと（アケブ）をつかんでいた（創 25:26）。
- ② 人と戦ってきた人生であったとの認識
- ③ しかし、本当は神と戦ってきたことに気づいた。

(5) その人の回答「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。あなたは神と戦い、人と戦って、勝ったからだ」

① ヤコブという名がなくなるわけではない。神の恵みを記憶する名である。

② それよりも恵みにあふれた名が与えられた。

③ 「イスラエル」は、「サラ」(戦う、支配する)と「エル」(神)の合成語。

④ その意味は、「神と戦った人」、「神は戦われる」など。

⑤ ヤコブは、神と戦い、人と戦い、勝った。

ホセ 12: 3、4 「彼は母の胎にいたとき、兄弟を押しのかた。彼はその力で神と争った。彼は御使いと格闘して勝ったが、泣いて、これに願った。彼はベテルで神に出会い、その所で神は彼に語りかけた」

⑥ イスラエルの基本的な意味は、これである。

「ヤコブのために戦って来られた神は、これからはイスラエルのために戦われる」

⑦ これは、兄のエサウに直面しようとしているヤコブにとって慰めとなった。

⑧ イスラエルという名は、神の守りを証言する名となった。

5. 祝福を獲得したヤコブ

(1) ヤコブはその人の名を尋ねる。

(2) 「いったい、なぜ、あなたはわたしの名を尋ねるのか」

① 考えれば分かるだろう。

② すでに分かっているだろう。

(3) 「その場で彼を祝福した」

① 神として彼を祝福した。

② ヤコブは祝福を得るために格闘して、願ったものを得た。

(4) その所にペヌエルという名を付けた。

「私は顔と顔とを合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」

(5) 勝利を得たヤコブ

「彼がペヌエルを通り過ぎたころ、太陽は彼の上に上ったが、彼はそのもものために足を引きずっていた」

① 太陽は彼の上に上った。

② 足をひきずっていた。

* イスラエルはもものつがいの上の腰の筋肉を食べない。

* 後のユダヤ教は、これを食物規定の中に含めなかった。

6. まとめ

(1) 兄のエサウよりも恐るべきお方と対面し、祝福を勝ち取った。

(2) ヤコブのために戦われた神が、これからはイスラエルのために戦われる。

(3) これで、兄のエサウに再開する準備が整った。

IV. エサウとの再会 (33: 1 ~ 17)

1. あっけない結果

- (1) エサウは 400 人の者を引き連れてやって来た。
- (2) ヤコブは家族の先頭に立ち、地に 7 回もひれ伏して兄を迎えた (当時の儀礼)。
- (3) エサウは、儀礼を無視して行動した。
「エサウは彼を迎えに走って来て、彼をいだき、首に抱きついて口づけし、ふたりは泣いた」
- (4) 家族をエサウに紹介した。
- (5) 贈り物を差し出した。
- (6) エサウは断った (彼もまた裕福になっていた)。
- (7) ヤコブが言い張るので、エサウはそれを受け取った。

2. エサウが道案内を申し出た。

- (1) ヤコブはそれを断った。
- (2) エサウの住み家であるセイルへ行くと言ったが、そこへは行かなかった。
- (3) ヤコブはスコテに移動した。カナンの地に近いが、まだ入っていない。
 - ① 彼はそこに家を建て、家畜のために小屋を作った。
 - ② ラビ的伝承では、一年、あるいは、1 年半そこに住んだとされる。
 - ③ スコテとは、小屋 (仮庵) の意味。(スカーの複数形)
 - ④ 仮庵の祭りは、スコットと呼ばれる。
- (4) スコテからカナンの地に入ってから、ヤコブはすぐにはベテルに行かない。
 - ① シェケムに長期滞在する。
 - ② それが、次のディナ事件を産む原因となる。

結論

1. 恐れにどのように勝利するか。
2. 改名するほどの体験をどのようにして手に入れるか。
 - (1) 恐れの原因は、「闘争心」にある。
 - (2) ヤコブは、人 (エサウ、ラバン) と戦い負けることはなかった。
 - (3) しかしそれは、本質的には神との戦いであった。
 - (4) 「自分はヤコブ (押しのける者) である」との告白が、祝福を受ける鍵となる。
 - (5) 告白に続いて、神の祝福が来る。
 - (6) ヤコブは、熱心な祈りによってそれを獲得した。
 - (7) 自分が闘うという人生観から、神が闘ってくださるという人生観への変化。

【創世記47】 創世記33章18節～34章31節

「ディナ事件」

イントロ：

1. パダン・アラムを出たヤコブ一家が、いよいよカナンの地に入る。
 - (1) ヤコブは、ペヌエルで祝福を求めて神と戦い勝利した。
 - (2) ヤコブは、長年恐れていた兄のエサウと平和的に再会した。
 - (3) しかし、彼はカナンの地の直前でスコテに1年半ほど滞在した。
2. きょうの箇所、ヤコブの一家はカナンの地に入る。
 - (1) しかし彼は、ベテルに到着する前にシェケムにとどまった。
 - (2) そこが悲劇の舞台となる。
3. きょうの箇所
 - (1) 舞台設定－シェケム到着 (33：18～20)
 - (2) 事件－辱めを受けるディナ (34：1～7)
 - (3) 調停－ディナをめぐる交渉 (34：8～24)
 - (4) 復讐－シメオンとレビの残忍な行為 (34：25～31)
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) なぜ信者に悲劇が起こるのか。
 - (2) 神は愛する者を懲らしめる、とはどういうことか (ヘブ12：5～6)。
 - (3) 聖書を読む際の注意点
 - ① その箇所が今の私たちに語られたものかどうか、考える。
 - ② どの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。

このメッセージは、なぜ信者に悲劇が起こるのかを学ぼうとするものである。

I. 舞台設定－シェケム到着 (33：18～20)

1. カナンの地に到着
 - (1) シェケムはカナンの地の内側
 - (2) 「無事に着き」とは、創28：15、31：3の成就（神がともにいる）。
 - (3) 「町の手前で宿営した」
 - ① 当時のカナン人の共同体は、都市国家である。
 - ② 市民でない遊牧民は、町の外に住む。
 - * アブラハム、イサクの生活パターン
 - * ソドムの住民になる前のロトの生活パターン

2. 土地の購入

- (1) 天幕を張った野の一部を購入。
- (2) 売り手は、ハモルの息子たち（ハモルはシェケムの父親）。
- (3) 価格は、100 ケシタ。
 - ① どれくらいの貨幣価値かは不明。
 - ② ケシタは「羊の刻印のある貨幣」と考える人もいる。羊 100 頭分か。
- (4) シェケムのその後
 - ① ヨセフの骨が埋葬された（ヨシ 24：32）。
 - ② スカルの町のヤコブの井戸（ヨハ 4 章）
- (5) ユダヤ人が売買契約によって買った土地
 - ① ヘブロン（アブラハムがエフロンから買った）
 - ② シェケム（ヤコブがハモルの息子たちから買った）
 - ③ エルサレム（ダビデがエブス人アラウナから買った）

3. 祭壇の建設

- (1) 族長たちの習慣に則り建設した。
- (2) 感謝のいけにえを捧げるため
 - ① 寄留生活の終了と神の守りへの感謝
 - ② ヤコブが信仰者であったことが証明されている。
- (3) 「エル・エロヘ・イスラエル」という名称
 - ① 「神、イスラエルの神」という意味。
 - ② ヤコブの新しい名（イスラエル）が初めて使われている。

4. 疑問

- (1) なぜ、スコテに滞在したのか。
- (2) なぜ、すぐにベテルに行かないで、シェケムに滞在したのか。
- (3) なぜ、土地を買う必要があったのか。
 - ① 神からカナンの地の所有権が約束されていたが、まだその時ではない。
 - ② アブラハムやイサクがしなかったことをヤコブはしている。
- (4) ヤコブの中に、まだイスラエルという名にふさわしい実質が育っていない。

II. 事件－辱めを受けるディナ（34：1～7）

1. ディナはレアの娘である。
 - (1) シメオンとレビは、同じ両親から生まれた兄たち。
 - (2) ユダヤ人の娘がカナン人と交流を持つ最初のケースである。
 - (3) 天幕を張っている野から、町へ行った。

2. シェケム

- (1) その土地の族長のヒビ人ハモルの息子
- (2) ハモルは、都市国家の王である。
- (3) シェケムは、ディナをレイプした。
- (4) 彼はディナに心をひかれ、妻にして欲しいと父のハモルに願った。
 - ① ダビデの息子アムノンは、妹のタマルをレイプした(Ⅱサム13:14～15)。
 - ② アムノンの場合は、行為の後、憎しみが生まれた。

3. ヤコブ

- (1) ディナがレイプされた(汚された)ことを聞いた。
 - ① 恐らく同行した女奴隷からであろう。
- (2) 息子たちが帰るまで待った。
 - ① 息子たちを決定のプロセスに含めるのが当時の習慣である。

4. シェケムの父ハモル

- (1) 彼が仲介者であり、調停役である。

5. ヤコブの息子たち

- (1) 心を痛め、ひどく怒った。
- (2) 「イスラエルの中で」という言葉
 - ① イスラエルという言葉が、ヤコブの一家全体を指す最初の例である。
 - ② イスラエルは他の民族から分離した特別な民であるとの意識が生まれている。
 - ③ イスラエルの中で、恥ずべきこと(レイプ)を行ったからである。
 - ④ タマルの言葉。「いけません。兄上。乱暴してはいけません。イスラエルでは、こんなことはしません。こんな愚かなことをしないでください」

Ⅲ. 調停－ディナをめぐる交渉(34:8～24)

1. ハモルの提案

- (1) 息子のシェケムはディナを恋慕している。
- (2) 彼女を息子の嫁にして欲しい。
- (3) 互いに縁を結ぼう。
 - ① 市民権の提供を示唆している。
 - ② これは、遊牧民が欲しがっていたものである。
 - ③ ロトはソドムでそれを手に入れた。
- (4) さらに、土地の所有権まで示されている。
- (5) ヤコブは、アブラハムやイサクでさえも経験しなかった提案を受けている。

2. シェケムの補足説明

- (1) 「ご好意にあずかりたい」とは、罪を赦して欲しいということ。
- (2) ディナを妻に迎えられるなら、いかなる犠牲も払う。
- (3) カナン人の道德水準は低いが、シェケムの提案は非常に気前がいい。

3. ヤコブの息子たちの逆提案

- (1) 息子が交渉者になるのは珍しいことではない。
- (2) 彼らは、罍を用意している。
 - ① 無割礼の者に、妹はやれない。
 - ② 割礼を受けることが条件
 - * シェケムだけではない。
 - * 町の住民全員が割礼を受ける。
 - ③ 割礼を受けないなら、ここを去る。

4. ハモルと息子シェケムの同意

- (1) 彼らは、ヤコブの息子たちの提案に同意し、すぐにそれを実行に移す。
 - ① 割礼の痛みをこらえるのは、ディナへの愛のゆえである。
- (2) 「シェケムは…、父の家のだれよりも彼は敬われていた」
 - ① ロイヤルファミリーの中で、一番人気があった。
 - ② これが、市民が割礼に同意するベースになっている。

5. 市民の説得

- (1) 町の門：公の裁判、商取引の場所である。
- (2) 説得の内容
 - ① 「あの人たちは私たちと友だちである」。平和な人たちだ。
 - ② 彼らを市民として迎えよう。
 - ③ 彼らと婚姻関係を結ぼう。
 - ④ 条件は、すべての男子が割礼を受けることである。
 - ⑤ そうすれば、彼らの財産は自分たちのものになる（ヤコブへの説明と異なる）。
- (3) 説得の結果
 - ① 市民全員が割礼を受けた。

IV. 復讐－シメオンとレビの残忍な行為（34：25～31）

1. シェケム大虐殺

- (1) 時は、割礼を受けて3日目。
 - ① 傷が最も痛む時。
 - ② 患部が急所なので、痛みはさらに激しい。

(2) ディナの兄のシメオンとレビが犯行に及んだ。

- ①「難なくその町を襲い、すべての男子を殺した」
- ② ディナを救出した。
- ③ 婦人や子ども、また、町の財産を略奪した。

2. 父ヤコブの抗議

- (1) 私に困ったことをしてくれた。
- (2) 「私をこの地の住民カナン人とペリジ人の憎まれ者にしてしまった」
- (3) 自分の一家が、虐殺される可能性が出てきた。

3. 息子たちの回答

- (1) 「私たちの妹が遊女のように取り扱われてもいいのですか」
- (2) 花嫁料を受け取るなら、まさにディナは遊女のようにになる。
- (3) 彼らの問題は、「過剰防衛」、「やり過ぎ」である。
- (4) 創49：5～7
 - ① シメオン族は、ユダ部族の中に点在した町々を得ただけ。
 - ② レビ族は、土地がない。

結論

1. 躊躇するヤコブ

- (1) ヤコブは、熱心な祈りによって神の祝福を勝ち取った。
- (2) しかし、彼はいまだにヤコブであり、イスラエルにはなり切っていない。
- (3) ヤコブには、ベテルに上るだけの霊的準備がなかった。
 - ① 地上のもの(土地)へのこだわり
 - ② 家庭内にある偶像
 - ③ 荒削りの息子たち
- (4) 先に進まない信仰者は、神を見失う。
 - ① 創34章には、「神」という言葉が出てこない。
 - ② 神はともにいてくださるが、その祝福を味わうことができなくなる。

2. 神の押し出し

- (1) イスラエル(民族として)がカナン人と同化する危険性が出てきた。
- (2) 神は、ディナ事件が起こることを許された。
- (3) ヤコブに大いなる恐れを与えることによって、彼の背中を押された。
- (4) 創35章は、神の語りかけで始まる。
 - ① 神という言葉が、11回出てくる。
 - ② それ以外の神の御名も出てくる。

【創世記 48】 創世記 35 章 1 節～ 29 節

「ベテルへの帰還」

イントロ：

1. 創世記は 11 のトルドット（歴史、経緯）に分かれる。
 - (1) 今私たちは、第 8 番目のトルドットにいる。
 - (2) 創 25：19～35：29 「これはアブラハムの子イサクの歴史である」
 - (3) きょうの箇所で、第 8 番目のトルドットが終了する。
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヤコブの安心（ラバンやエサウとの葛藤が終了した）
 - (2) それが危険をもたらす（ディナ事件）
 - (3) 私たちもまたシェケムにとどまるようなことがあるが、それは危険である。
 - ① 神に頼らなくなる。
 - ② 神への義務（約束）を忘れてしまう。
 - (4) ディナ事件は、神がヤコブの背中を押した事件である。
3. きょうの箇所
 - (1) 義務（約束）の履行（35：1～8）
 - (2) 更なる祝福（35：9～15）
 - (3) 更なる訓練（35：16～22a）
 - (4) 「イサクのトルドット」の終結
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 聖書を読む際の注意点
 - ① その箇所が今の私たちに語られたものかどうか、考える。
 - ② どの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。
 - (2) 地上生涯における祝福と訓練について学ぼうとしている。

このメッセージは、地上生涯における祝福と訓練について学ぼうとするものである。

I. 義務（約束）の履行（35：1～8）

1. 神からの直接的啓示（4 回目の直接的啓示である）。2 つの命令
 - (1) 「立ってベテルに上り、そこに住みなさい」
 - ① 強い決断を促している。
 - ② ある期間、ベテルに住めという命令。

(2) 「そしてそこに、あなたが兄エサウからのがれていたとき、あなたに現れた神のために祭壇を築きなさい」

① 創 28 章のベテルの体験

② ヤコブは「この石は神の家となり、…10 分の 1 を必ずささげます」と言った。

③ 神はその履行を迫っておられる。

④ これまで族長たちは自発的に祭壇を築いてきたが、ここでは命令が下っている。

2. ヤコブの呼びかけ(家族と、彼といっしょにいたすべての人に)

(1) 「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き」

① ラケルが盗んできたテラフィムがあった(ヤコブは知らなかったか?)。

② シェケムで手に入れた奴隷たちは、偶像礼拝者であった。

(2) 「身をきよめ、着物を着替えなさい」

① とともに、清めの儀式を指している。

② シェケムの奴隷たちは清めを必要としていた。

③ シメオンとレビの手と衣は、血に染まっていた。

(3) 「そうして私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこで、私の苦難の日に私に答え、私の歩いた道に、いつも私とともにおられた神に祭壇を築こう」

① 「私の苦難の日」とは、ラバンとエサウとの葛藤の日々を指している。

② ヤコブの一家にリバイバルが起きている。

3. 一家の霊的清め

(1) 手にしていたすべての異国の神々をヤコブに渡した。

(2) 耳につけていた耳輪も渡した。

① この文脈では、「耳輪は偶像礼拝と関係がある」と理解すべき。

② ホセ 2 : 13 参照

(3) 「ヤコブはそれらをシェケムの近くにある櫟の木の下に埋めた」(新共同訳)

① 「隠した」(新改訳)よりも、「埋めた」の方がよい。

② 偶像は死んでいるので埋葬することができる。

4. 旅立ち

(1) カナン人たちは後を追わなかった。

(2) 2人でここまでできるのだから、11人が協力したら恐ろしい。

(3) 神が彼らに恐怖を与えた。

5. ベテル到着

(1) 以前はルズと呼ばれた。

(2) ヤコブは祭壇を築き、「エル・ベテル」と呼んだ。「ベテルの神」という意味。

(3) 「それはヤコブが兄からのがれていたとき、神がそこで彼に現れたからである」

① エロヒムという言葉(神の複数形)

* 偶像を指す場合(動詞、形容詞なども複数形)

* 真の神を指す場合(動詞、形容詞は単数形)

② ここは例外的用法

* エロヒムに動詞の複数形(現れた)が使われている。

* ラビたちは、天使であるとする。

* 三位一体の暗示である。

6. リベカのうばデボラの死

(1) 想像できるシナリオ：リベカが死んで以降、デボラはパダン・アラムに住んだ。

(2) ベテルの下手にある榎の木の下に葬られた。

(3) その木の名は「アロン・バクテ」(嘆きの榎)と呼ばれた。

(4) リバイバルの進行と同時に、悲しいことが起こっている。

(5) いかなることが起こっても、目的地に向かって前進せよ。

II. 更なる祝福(35：9～15)

1. 神からの直接啓示の5回目

(1) ヤコブが追い求めてきた祝福が彼のものとなる。

(2) アブラハム契約の2度目の確認。

2. 名前の変更

(1) ヤコブからイスラエルへ。再確認である。

(2) 「あなたの名は、もう、ヤコブと呼んではならない」

① これは、「ヤコブという名だけではない」という意味。

② これ以降神は、彼をヤコブとイスラエルの2つの名で呼ぶ。

3. 神の御名

(1) 「わたしは全能の神である」

① エル・シャダイ

② 創17：1 アブラハムが99歳の時に神はこの御名で現れた。

4. 神の命令と約束

(1) 「生めよ。ふえよ」

① ヤコブの子どもたちへの命令。

(2) 「一つの国民、諸国の民のつどいが、あなたから出て」

① 一つの国民とは、イスラエルの民のこと。

② 諸国の民のつどいとは、12部族のこと。

(3) 「王たちがあなたの腰から出る」

① これは、創 17：6 でアブラハムに与えられた約束である。

② 創 17：16 でサラに与えられた約束。

(4) 「わたしはアブラハムとイサクに与えた地を、あなたに与え、あなたの後の子孫にもその地を与えよう」

① ヤコブの子孫への約束

② ヤコブ個人への約束。

③ これが成就するのは、メシア的王国（千年王国）においてである。

5. ヤコブの応答

(1) 記念の石の柱を立てた。

(2) その上に油を注いだ。

(3) 以上のことは、創 28：18～22 の行為の繰り返しである。

① 注ぎのぶどう酒を注ぐのは、新しい要素。

② ベテルが文字通り「神の家」（礼拝の場）となった。

(4) 「ヤコブは、神が自分と語られたその所をベテルと名づけた」

① 繰り返しの行為である。

② 今やここが、名実ともにベテル（神の家）となった。

III. 更なる訓練 (35：16～22a)

1. ベニヤミンの誕生と、ラケルの死

(1) エフラテは、ベツレヘムの近辺にある。

(2) エフラテへの途上、ラケルは産気づいた。

① サマリヤの山地、ユダの山地を南北に通過する道がある。

② この事件は、エルサレムの北、ラマで起こった。

(3) 創 30：24 で、彼女はもう一人の子が生まれることを期待した。

① ベニヤミンは、約束の地で誕生した唯一の子。

② 子が与えられなければ死ぬと言ったラケルが、子が誕生する時に死んでいる。

(4) 息子の命名

① 助産婦の励まし

② ラケルは、「ベン・オニ」（私の苦しみの子）と命名した。

③ ヤコブは、「ベニヤミン」（私の右手の子）と改名した。

(5) ラケルの埋葬

① 現在、ラケルの墓は、ベツレヘム郊外にあるが、これは後代の伝承である。

② 墓の上に石の柱を立てた。今日に至っている。

* モーセがこれを書いた時には、まだ残っていた。

* サムエルの時代にも墓はあった。Ⅰサム 10：2

2. ミグダル・エデルの事件

(1) ルベンは、父のそばめ（ラケルの女奴隷）と寝た。

① 長子が、父の権威を奪おうとしている。

② 王のそばめと寝ている例。Ⅱサム 3：7、12：8、16：20～22

(2) ヤコブの沈黙

① 後に呪いの言葉が出てくる。

② 創 49：3～4。ルベンは長子の権を失った。

3. その後、ヨセフを失う。

IV. 「イサクのトルドット」の終結

1. ヤコブの12人の息子

(1) レアの息子たち

(2) ラケルの息子たち

(3) ラケルの女奴隷ビルハの息子たち

(4) レアの女奴隷ジルパの息子たち

2. イサクとヤコブの再会

(1) 約30年ぶりの再会

(2) ヤコブは1人で出て行き、民族として帰ってきた。

3. イサクの埋葬

(1) 180歳で死んだ。

(2) この時のヤコブは、120歳。

(3) ヤコブは130歳でエジプトに下る。創 47：9

(4) イサクの死をここで出しているのは、このトルドットを終えるため。

① イサクは、ヨセフを失ったヤコブの悲しみを目撃している。

② イサクは、ヨセフがエジプトにいる間に死んだ。

③ ヨセフは17歳でエジプトへ。

④ ヨセフが39歳の時に、ヤコブは130歳でエジプトへ。

⑤ つまり、ヨセフがエジプトに売られたのはヤコブが108歳の時である。

⑥ この時イサクは、168歳でまた生きている。

(5) エサウとヤコブが、イサクを葬った。

結論

1. 神の訓練法

- (1) 義務（約束）の履行
- (2) 更なる祝福
- (3) 更なる訓練

2. 人生は、箴言 15：15

- (1) 悩んでいる者の日々はことごとくつらく、心の楽しい人は常に宴会をもつ。（口語訳）
- (2) 悩む者には毎日が不吉の日であるが、心に楽しみのある人には毎日が宴会である。
（新改訳）
- (3) 貧しい人の一生は災いが多いが／心が朗らかなら、常に宴会にひとしい。（新共同訳）

【創世記 49】 創世記 36 章 1 節～ 37 章 1 節

「エサウのトルドット」

イントロ：

1. 創世記は 11 のトルドット（歴史、経緯）に分かれる。
 - (1) きょうは、第 9 番目と第 10 番目のトルドットを扱う。
 - (2) 36：1 「これはエサウ、すなわちエドムの歴史である」
 - (3) 36：9 「これがセイルの山地にいたエドム人の先祖エサウの系図である」
 - (4) 37：2 第 11 番目のトルドットが始まる。「これはヤコブの歴史である」
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヤコブの物語からヨセフの物語に移行する際の、挿入句のような箇所。
 - (2) 私たちには無味乾燥な箇所。
3. きょうの箇所
 - (1) エサウのトルドットが記録されている理由
 - (2) 第 9 番目のトルドットの内容
 - (3) 第 10 番目のトルドットの内容
 - (4) エサウのトルドットが短い理由
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 聖書のどの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。
 - (2) 骨太の信仰とはなんであるかを学ぶ。

このメッセージは、エサウのトルドットから霊的教訓を学ぼうとするものである。

I. エサウのトルドットが記録されている理由

1. アブラハムへの約束の成就を示すため
 - (1) 創 17：1～6（特に 4 節）

「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる」
 - (2) アブラハムからイシュマエルが誕生し、その子孫がアラブ人となった。
 - (3) ここでは、エサウの子孫がエドム人となる。
2. リベカへの約束の成就を示すため
 - (1) 創 25：21～23（特に 23 節）

「すると【主】は彼女に仰せられた。『二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える』」

- (2) リベカから、エサウとヤコブが誕生した。
- (3) エサウはエドム人の先祖となる。
- (4) ヤコブはイスラエル人の先祖となる。
 - ① アブラハムの子孫だと言うだけでは、ユダヤ人とは言えない。
 - ② ユダヤ性はアブラハムによってではなく、ヤコブによって規定される。

3. 神は約束を守るお方であることを示すため

- (1) 聖書が書かれた目的は、「人類の救い」ではなく、「神の栄光」である。
- (2) 神が約束されたことは、ことごとく成就する。

II. 第9番目のトルドット (36:1～8)

「これはエサウ、すなわちエドムの歴史である」

1. 妻と息子を列挙している。

- (1) 3人の妻と5人の息子

2. エサウの移住 (6節)

- (1) アブラハムとロトの分離に似ている。
 - ① 都市国家の隙間にある土地は狭くて共存できない。
- (2) エサウは、ヤコブが帰還する前からセイルの山地に住み着いた。
 - ① かつて長子の権を求めて争ったが、自分の居場所を見つけた。
- (3) エドムは地名である。
 - ① 申2:5 「彼らに争いをしかけてはならない。わたしは彼らの地を、足の裏で踏むほども、あなたがたには与えない。わたしはエサウにセイル山を彼の所有地として与えたからである」
 - ② ヨシ24:4 「わたしは、イサクにヤコブとエサウを与え、エサウにはセイルの山地を与えて、それを所有させた。ヤコブと彼の子らはエジプトに下った」

III. 第10番目のトルドット (36:9～37:1)

「これがセイルの山地にいたエドム人の先祖エサウの系図である」

1. 焦点は、セイルの山地 (エドム) に合わさる。

- (1) 第9番目のトルドットは、カナンで誕生した息子たちに関するもの。

2. エサウの息子たちと孫たち (36:9～14)

- (1) 息子は5人、孫は10人
- (2) 合計15人

3. 首長たち (36:15 ~ 19)

- (1) 息子と孫を合わせて 15 人。
- (2) そこから 13 人の首長が起こされる。
- (3) つまり、エサウから 13 の氏族 (部族) が出たということ。

4. この地の住民ホリ人セイルの子 (36:20 ~ 30)

- (1) ホリ人は、セイルの山地の先住民である。
- (2) 一般的にはフリル人と言われる。
- (3) ホリ人はエドム人に征服される。
- (4) エドム人とホリ人の雑婚が起こる。
 - ① 文化的、宗教的には、ホリ人がエドム人を征服したと言える。

5. エドムの王たち (36:31 ~ 39)

- (1) 8 人の王たちが列挙されている。
 - ① 世襲制ではなく、選挙で選ばれた。
- (2) ヤコブの子孫から王たちが出るという約束があったが、エサウの方が早い。

6. エサウから出た首長 (族長) たち (36:40 ~ 43a)

- (1) 支配していた土地に強調点がある。
- (2) 同時代に生きていたと思われる。

7. エサウとヤコブの分離 (36:43b ~ 37:1)

- (1) これ以降、エサウは聖書の記録から消え去る。

IV. エサウのトルドットが短い理由

1. エサウは支流であるから。

- (1) 先に支流を扱い、その後で本流に戻る。

2. エドムという名前

- (1) 土地の名前
- (2) 「赤い」という意味でもある。創 25:30

「エサウはヤコブに言った。『どうか、その赤いのを、そこの赤い物を私に食べさせてくれ。私は飢え疲れているのだから』。それゆえ、彼の名はエドムと呼ばれた」

- (3) その名前は、長子の権利を軽んじたことをいつまでも記念するものとなった。

結論

1. 聖書のどの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。
 - (1) 神の約束は、必ず成就する。
 - (2) エサウの名前は、反面教師である。
2. 骨太の信仰とはなんであるかを学ぶ。
 - (1) エサウへの約束は、早く成就している。
 - ① 彼は、自分が所有する土地を早々と得た。
 - ② 彼から王たちが出てきた。
 - (2) ヤコブへの約束は、なかなか成就しない。
 - ① ヨセフ物語が続く。
 - ② ヤコブとその息子たちは、エジプトに下る。
 - ③ そこで400年間苦しむ。
 - ④ 出エジプトの体験をする。
 - ⑤ カナンの地に定住するが、約束の地をすべて所有することはなかった。
 - ⑥ 王たちは、士師記の時代の後に出てくる。
 - ⑦ ヤコブ個人への土地の約束は、メシアの再臨を待たねばならない。
 - (3) クリスチャン生活の感謝
 - ① 日々の喜び
 - ② 日々のチャレンジ
 - ③ 変わることのない希望

【創世記 50】 創世記 37 章 2 節～ 36 節

「夢見る人ヨセフ」

イントロ：

1. 創世記 37 章～ 50 章は第 11 番目のトルドット（歴史、経緯）である。
 - (1) 38 章はユダの物語
 - (2) それ以外の 13 章はすべてヨセフの物語
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヤコブは 12 人の息子たちとともに、約束の地に住むようになった。
 - (2) アブラハム契約の条項が、次にどのような展開を見せるのか。
 - (3) これからの物語は、ヨセフを中心に回り始める。
 - ① ヨセフ物語は、「ヤコブ一家」から「イスラエル民族」へのリンクとなる。
 - (4) ヨセフについて
 - ① ヨセフはヤコブの最愛の妻ラケルから生まれた。
 - ② 不妊の女から生まれた子が重要な役割を果たすようになる例が多くある。
 - ③ イサク（サラ）、ヤコブ（リベカ）、サムソン（マノアの妻）、サムエル（ハンナ）
 - (5) ヨセフとキリストの関係
 - ① 新約聖書には、ヨセフはキリストの型だと教えている箇所はない。
 - ② しかし、ヨセフとキリストの間には類似点が多くある。
 - * 辱めを受ける（37 章、39～40 章）。
 - * 上に引き上げられる（41 章）。
3. きょうの箇所
 - (1) 第 1 のステップ 正直な性格
 - (2) 第 2 のステップ 父の偏愛
 - (3) 第 3 のステップ 2 つの夢
 - (4) 第 4 のステップ 父の使い
 - (5) 第 5 のステップ 隊商の通過
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフに起こったことはキリストにも起こる。
 - (2) キリストに起こったことは私たちにも起こる。
 - (3) つまり、ヨセフに起こったことは私たちにも起こるのである。

このメッセージは、ヨセフとキリストに起こったことは私たちにも起こることを学ぼうとするものである。

I. 第1のステップ 正直な性格（2節）

1. ヨセフは17歳

- (1) ビルハの子ら（ダン、ナフタリ）
- (2) ジルパの子ら（ガド、アシェル）
- (3) ヤコブは、レアの子ら（ルベン、シメオン、レビ、ユダ）を警戒したのであろう。
- (4) 「手伝い」とは、羊飼いの仕事を教えてもらうこと。

2. 「彼らの悪いうわさを父に告げた」

- (1) 正直な性格は、悪を見逃すことができない。
- (2) 「悪いうわさ」「悪い報告」とは何か。
 - ① 想像するしかない。いじめ、仲間内の喧嘩。
 - ② 羊に害を与えるような行動。生きたまま食べる。
- (3) 兄たちは年上なので直接抗議するのが難しい。
- (4) そこで、父ヤコブに報告した。
- (5) 兄たちはヨセフに恨みを抱くようになった。

3. イエスがユダヤ人の指導者たちから攻撃された理由

- (1) イエスが真理を語ったから
- (2) 彼らが闇の中にいたから。

「あなたがたのうちだれか、わたしに罪があると責める者がいますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか」（ヨハ 8：46）

II. 第2のステップ 父の偏愛（3～4節）

1. 「イスラエルは、彼の息子たちのだれよりもヨセフを愛していた」

- (1) 理由：「ヨセフが彼の年寄り子であったからである」
- (2) 愛の表現：「それで彼はヨセフに、そでつきの長服を作ってやっていた」
- (3) 結果：「彼の兄たちは、…彼を憎み、彼と穏やかに話すことができなかった」

2. 「そでつきの長服」の意味

- (1) 「ケトニム・パシム」。「パス」は「手のひら」。そでが手の先まである長服
- (2) これは、長子に着せる服である。

(3) 後継者選び

- ① アブラハムの場合：イシュマエルかイサクか。
- ② イサクの場合：エサウかヤコブか
- ③ ヤコブの場合：12人の中から選ばねばならない。

(4) レアの最初の4人の子ら

- ① ルベンは 35：22 で罪を犯した。
- ② シメオンとレビは、ディナ事件で暴虐を働いた。
- ③ ユダは、墮落している。

(5) ビルハとジルパはそばめであるので、その子たちは除外される。

(6) そうなると、候補としては、最愛の妻ラケルの長子であるヨセフしかない。

(7) 兄たちの怒りの原因は、ヨセフが後継者候補になっていることにもある。

3. イエスが裁判にかけられた理由

(1) イエスに対するねたみ (マタ 27：18)

「ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことに気づいていたのである」

Ⅲ. 第3のステップ 2つの夢 (5～11 節)

1. 最初の夢

(1) 内容

- ① ヨセフの麦の束がまっすぐに立ち上がった。
- ② 兄たちの麦の束が、その周りに来ておじぎをした。
- ③ 意味はすぐに分かった。

(2) ヨセフには悪意はない。ただ、判断が幼い。

(3) 兄たちは、ますますヨセフを憎むようになった。

2. 次の夢

(1) 内容

- ① 太陽と月と 11 の星がヨセフを伏し拝んでいる。
- ② 太陽とは父、月とは母 (ビルハ)、11 の星とは 11 人の兄弟たち

(2) ヤコブは兄たちの怒りを静めるために、ヨセフを叱責した。

(3) しかし、これを心に留めていた。

- ① ルカ 2：51 でのマリヤの状態と同じ。

3. なぜ神はこの時点で、ヨセフに 2 つの夢を見させたのか。

- (1) アブラハム、イサク、ヤコブは、神からの直接的な語りかけを受けている。
- (2) ヨセフには直接的な語りかけはない。2 つの夢が与えられているだけである。
- (3) 2 つの夢は、幾多の困難に立ち向かおうとしているヨセフへの励ましである。

4. イエスが十字架を忍ぶことができた理由

「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました」（ヘブ 12：2）

IV. 第 4 のステップ 父の使い（12 ～ 24 節）

1. ヤコブがヨセフを使いに出す理由

- (1) シェケムで羊の群れを飼う息子たちのことを心配した。
- (2) シェケムは、かつてディナ事件が起こった場所
- (3) 兄たちの安否を確かめるために、ヨセフが送られる。
- (4) ヤコブもヨセフも、兄たちの怒りがどの程度のものであるか認識していない。

2. ヘブロンからシェケム、そしてドタンへ

- (1) およそ 100 キロの距離。足早に歩いて 3 日。
- (2) 兄たちはシェケムからさらに北に 22 キロほど移動したドタンにいた。

3. 兄たちの殺意

- (1) ヨセフがまだ遠くにいる時から、殺害を計画した。
- (2) 動機は何か
 - ① 「夢見る者」という言葉
 - ② 「あれの夢がどうなるか見ようではないか」という言葉
 - ③ ヨセフの前にひざまずきたくないというのが、最大の動機である。

4. 神の摂理的守り

- (1) ルベンの介入
 - ① ルベンは長子であるので、ヨセフを一番憎んでもおかしくない。
 - ② しかし彼は、ヨセフを助ける側に立つ。
 - ③ 血を流すことを退けた。

④ 穴(水だめ)に投げ込むことを提案した。

* 餓死するなら、誰か特定の人物が直接手を下したことになる。

* 穴に水がなかったのは、神の摂理である。

⑤ 後で父にヨセフを返すつもりでいた。

(2) ドタンにいた。

① ヴィア・マリスは、ドタンで西に折れて海岸平野に出る。

② そこから南に向かいエジプトに至る。

③ ドタンは隊商街道の要衝の地である。

(3) イシュマエル人の隊商が通りかかった。

5. イエスもまた自分の兄弟たちから拒否された。

(1) 父なる神から送られてきた。

(2) しかし、拒否された(ヨハネ 1:11)。

「この方はご自分のくにに來られたのに、ご自分の民は受け入れなかった」

V. 第5のステップ 隊商の通過 (25～36節)

1. イシュマエル人とミデヤン人

(1) イシュマエル人はイシュマエルの子孫で、アラビア半島に定住した。

(2) ミデヤン人は、アブラハムとケトラの子孫で、ミデヤンの地に定住した。

(3) イシュマエル人がミデヤン人を征服し、雑婚関係ができた。

2. 隊商は、ギルアデの産物(樹膠、乳香、没薬)をエジプトに運んでいた。

(1) エジプトには育たない産物である。

3. ユダの思いつき

(1) 殺すよりは、利益を得る方がいい。

① 兄弟たちは、良心の呵責からそれに同意した。

② ヨセフの夢を妨害するという最初も目的は達成される。

(2) ヨセフを穴から引き上げ、イシュマエル人に売った。

① 銀 20 枚。

② ユダヤ人の伝承では、各人が 2 シェケルを得て、それで靴を買ったとされる。

③ ヨセフの状態は、創 42:21 に描かれている。

4. イエスはイスカリオテのユダに銀貨 30 枚で売られた。

5. その後の結末

- (1) ルベンの驚きと失望
- (2) 事件を隠すための工作
- (3) ヤコブの悲しみ
- (4) ヨセフは、パロの廷臣、その侍従長ポティファルの家に売られた。

結論

1. 5つのステップすべてが、最後に上げられるための準備となっている。

- (1) 兄たちは、これでヨセフの夢はついていたと考えた。
- (2) しかし、神の摂理がヨセフを導いた。

2. ヤコブの痛みは、父なる神の痛みに共通する部分がある。

- (1) アブラハムはイサクを捧げ、彼を取り戻した。
- (2) ヤコブはヨセフを亡くしたが、やがて取り戻すようになる。
- (3) 父なる神は御子を十字架に付けたが、次に高く上げた。

3. ヨセフを支えたのは2つの夢であった。

- (1) 私たちも、患難を通過して高く上げられる。
- (2) 老いと死の先に、栄光の体が待っている。
- (3) II コリ 4：16～18「ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです」

【創世記 51】 創世記 38 章 1 節～ 30 節

「ユダの物語」

イントロ：

1. 創世記 37 章～ 50 章は第 11 番目のトルドット（歴史、経緯）である。
 - (1) 38 章はユダの物語
 - (2) ヨセフの物語が始まった直後にこれが入る。著者モーセの意図を考える。
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフ物語は、「ヤコブ一家」から「イスラエル民族」へのリンクとなる。
 - (2) 創 38 章の主要な目的は 2 つある。
 - ① なぜヤコブの一家がエジプトに下らねばならないのか。
 - ② メシアの家系はどのように発展していくのか。
 - (3) この章は、20 年以上の期間を扱っている。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) ユダの墮落の始まり（38：1～11）
 - (2) ユダの墮落の極み（38：12～26）
 - (3) ユダの墮落の結果（38：27～30）
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヤコブの一家がエジプトに下らねばならなかった理由を考える。
 - (2) メシアの系図の中にタマルの名が入っていることの意味を考える。

このメッセージは、キリスト論的に創 38 章を解説しようとするものである。

I. ユダの墮落の始まり（1～11 節）

1. 地理的移動

- (1) そのころのことであった。ヨセフが 17 歳の頃のこと。
- (2) ユダは兄弟たちから離れて下って行った。
 - ① 地理的には、山地から低地（シェフェラー）に移住した。
 - ② 場所は、アドラムという町。
- (3) ユダの墮落は、いるべき場所（家族）から離れることから始まった。

2. 人的交流

- (1) ヒラというアドラム人（カナン人）との交流が始まった。
- (2) カナン人でシュアという人の娘を見染め、結婚した。

(3) アブラハム、イサク、ヤコブの時代には、カナン人との雑婚を避けた。

① ユダの場合は、あっさりとかナン人と結婚している。

② 契約の民の中以外から妻を迎えた場合の問題点は、エサウの例で実証済み。

3. ユダに 3 人の息子が生まれた。

(1) エル

(2) オナン

(3) シェラ

(4) 「彼女がシェラを産んだとき、彼はケジブにいた」（5 節）

① ユダは低地に定住している。

4. タマルの登場

(1) 長子エルの嫁。カナン人。なつめやしの木の意。

(2) エルの死

「しかしユダの長子エルは主の前に悪い者であったので、主は彼を殺された」（口語訳）

① 「悪い者」はヘブル語で「ラー」。

② 創 6：5 参照

(3) 兄が死んだ場合、弟が兄嫁と結婚し兄に子を残す。

① ハムラビ法典にある決まり

② 後にモーセの律法にも採用された（申 25：5～10 参照）。

③ そこでオナンがタマルをめとる。

④ 「兄嫁のところにはいると、地に流していた」

*これが神の怒りに触れ、彼も死ぬ。

*彼の罪は、弟としての務めを果たしていないこと。

*この罪がなければ、彼はメシアの系図に入っている。

5. ユダの対応

(1) ユダは、タマルのことを不吉な女だと思った。

① 問題の原因を誤解している。

② 子どもたちに悪影響が出ていることを理解していない。

(2) 末の息子のシェラが成人するまでの条件で、タマルを実家に送り返す。

① この時点で、シェラとタマルとは婚約関係に入っている（法的な夫婦）。

② タマルはユダの言葉をそのまま信じて、実家で待機している。

II. ユダの墮落の極み (12 ～ 26 節)

1. ユダの妻の死

- (1) 羊の群れの毛を切るためにティムナへ行った。
 - ① 羊の毛を切るのは、春の祭りのとき。性的な誘惑が強くなる時。
 - ② ティムナもまた低地の町。アドラム、ケジブ、ティムナと遠くなっていく。

2. タマルの策略

- (1) 義父ユダによって子を残そうとする。
- (2) やもめの服を脱ぎ、遊女の格好をしてユダを待つ。
 - ① ティムナへの道にあるエナイムの入り口にすわった。
 - ② 人目につくところに座るのは、まさに遊女のすることである。
- (3) ユダは彼女と肉体関係を結ぶ。
 - ① 彼女にしるし(印行とひも、そして、杖)を与えた。
 - ② 印行とは、中空の円筒印象のことで、ひもを通して首からぶら下げた。
- (4) タマルの罪は、姦淫(シェラが夫)と近親相姦である。

3. ユダの悔い改め

- (1) 友人に託して子やぎを送ったが、その女を見つけることができなかった。
- (2) 3か月後、タマルが姦淫によってみごもったという知らせが届いた。
 - ① ユダは「あの女を引き出して、焼き殺せ」と叫ぶ。
 - ② 自分も同じ罪を犯しながら、人を裁く。ロマ 2：1
- (3) タマルから送られたしるしの品を見た時、自分の罪を認めた。
- (4) 二度とタマルとは肉体関係を結ばなかった。結びませんでした。
- (5) タマルは、義父によって子をみごもったので、結婚の必要性がなくなった。

4. ユダヤ人の誇り

- (1) ユダとは、「ほめたたえる」という意味。
 - ① 神をほめたたえる。
 - ② 兄弟たちからほめたたえられる(創 49：8)。
 - ③ ユダヤ人という名前は、ユダから出ている。
- (2) しかし、ユダヤ人たちは自分の出自を誇れるものではない。
 - ① 彼らは、姦淫の結果生まれた民である。
 - ② ユダヤ人たちは自分たちの父はアブラハムであることを誇っていた。
 - ③ イエスとの論争。ヨハ 8：39～41

Ⅲ. ユダの墮落の結果（27 ～ 30 節）

1. タマルは双子の男子を産む。
2. 兄と弟の逆転
 - (1) 助産婦は長子の手で真赤な糸を結びつけた。
 - (2) しかし、弟が兄を押しつけて先に出てきた。
 - ① エサウとヤコブの出産を思い出させる状況
 - ② 先に出てきた方は、ペレッツ（割りこむ）と呼ばれた。
 - ③ 次がゼラフ（輝く：恐らく手に結びつけられた糸から出た名）と呼ばれた。
3. この双子のうち、メシアの家系につながるのは弟のペレッツである。
（ルツ 4：12、マタ 1：3、ルカ 3：33 参照）

結論

1. ヤコブの一家がエジプトに下らねばならなかった理由
 - (1) ユダの墮落と同時進行で、エジプトでのヨセフの高潔さが明らかになっていく。
 - (2) ロマ 5:20 「罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました」
2. メシアの系図の中にタマルの名が入っていることの意味（マタ 1 章の系図）
 - (1) タマルの罪：神の恵みの深さを示す型となった。
 - (2) ラハブの信仰（ヨシ 2 章）：信仰による救いの型となった。
 - (3) ルツの決断（ルツ記）：律法とは別に神の義が示されることの型となった。
 - ① 申 23：3 にあるモアブ人に関する律法が退けられた。
 - ② バテ・シェバ（II サム 11 章）：信者の罪の赦しの型となった。
 - ① 恐らく夫のウリヤと同様にヘテ人であろう。
 - ② しかし、イスラエル共同体の一員であった。
3. イエス・キリストの犠牲のゆえに、赦されない罪はない。

【創世記 52】 創世記 39 章 1 節～ 23 節

「ポティファルの僕となるヨセフ」

イントロ：

1. 創世記 37 章～ 50 章は第 11 番目のトルドット（歴史、経緯）である。
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフ物語は、「ヤコブ一家」から「イスラエル民族」へのリンクとなる。
 - (2) 37 章からヨセフの物語が始まった。
 - (3) 38 章でユダの物語が挿入された。ヤコブの一家がエジプトに下る理由。
 - (4) 39 章は、エジプトでのヨセフの生活を描いている。
 - (5) ヨセフとキリストの関係
 - ① 新約聖書には、ヨセフはキリストの型だと教えている箇所はない。
 - ② しかし、ヨセフとキリストの間には類似点が多くある。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) 僕となるヨセフ（39：1～6）
 - (2) 誘惑に会うヨセフ（39：7～12）
 - (3) 不当に非難されるヨセフ（39：13～23）
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフに起こったことはキリストにも起こる。
 - (2) キリストに起こったことは私たちにも起こる。
 - (3) つまり、ヨセフに起こったことは私たちにも起こるのである。

このメッセージは、キリスト論的に創 39 章を解説しようとするものである。

I. 僕となるヨセフ（39：1～6）

1. ヨセフはポティファルに売られる。（1 節）
 - (1) 創 37：36 と創 39：1 とがつながっている。
 - (2) 商人はヨセフを銀 20 枚で買い取った。
 - (3) いくらで売ったかは分からないが、大儲けをしたことは確かである。
 - (4) しかし、一番儲けたのはポティファルである。
2. ポティファルという人物
 - (1) パロの廷臣
 - ① ヘブル語「サリス」。通常は、宦官のこと。

② 彼には妻がいるので、宦官ではない。

③ パロの宮廷で仕える官僚のこと。

(2) 侍従長

① ヘブル語「サール・ハ・タバヒム」。ボディガードの長。衛兵隊の隊長

② 別訳は、死刑執行人の長。

(3) エジプト人

3. ヨセフの立場（2 節）

(1) ポティファルの奴隷である。

(2) しかし、「主が彼とともにおられた」。

① 「主」と訳された言葉は、「ヤハウエ（アドナイ）」である。

② これは、固有名詞であり、契約の神の御名である。

③ アブラハム契約の条項のゆえに、神はヨセフとともにいる。

④ 2 節、3 節（2 回）、5 節（2 回）、

(3) 長服を取られ、奴隷に売られても、残されたものがある。

① 高潔な人格

② 信仰

(4) 世界の文化の中心地エジプトの世界観よりも、ヨセフの世界観の方が大きい。

① ピラミッドが立てられていた時代。

② ヨセフはポティファルの家から逃亡することなく、そこで忠実に仕えた。

4. ヨセフの働き（3～6 節）

(1) 主がヨセフのすることをすべて成功させてくださった。

(2) ポティファルは、それがヘブル人の神によるものであることを認めた。

① ポティファルが、主を信じたわけではない。エジプト人は偶像礼拝者。

② 祝福の結果を見て、ヨセフの神の偉大さを認めたということ。

(3) ヨセフはポティファルから信頼された。

① 最初は、下働きから始まった。

② 小さなことに忠実であったので、大きなことを任された。マタ 25：21

③ ついに、側近の者となり、家の管理と全財産の管理を任された。

(4) アブラハム契約の条項

① ポティファルはヨセフを大切にした。

② 主はヨセフのゆえに、ポティファルの家を祝福された。

(5) ポティファルは、自分の食べる食物以外は、すべてヨセフに委ねた。

① エジプト人は、ヘブル人が用意した食事は食べない。

② 創 43：32 参照

II. 誘惑に会うヨセフ (39: 7～12)

1. ポティファルの妻の誘惑

(1) 「ヨセフは顔も美しく、体つきも優れていた」(新共同訳)

(2) ヨセフに命令した。

① 「わたしと寝なさい」(口語訳)

② 「私と寝ておくれ」(新改訳)

③ 「わたしの床に入りなさい」(新共同訳)

(3) これは強い誘惑である。

① 主人の妻からの命令である。

② 異国で孤独な生活を送っている。

③ 誰も見ていない。

(4) 背後にサタンがいる。

① もしこの誘惑に乗るなら、神の計画は破壊される。

2. 拒否するヨセフ

(1) 「あなた以外には、何も私に差し止めておられない」

① これは、エデンの園の「善悪の知識の木」と同じである。

② エバにとっては、ひとつだけ禁止されていることが、誘惑への力となった。

③ ヨセフにとっては、誘惑を拒否する力となった。

(2) 主人の信頼を裏切ることにはできない。

(3) 神を裏切れない。

① 兄弟たちから裏切られた。

② 神だけが信頼できるお方である。

③ 夢の実現へと進み始めている。

3. しつこく迫るポティファルの妻

(1) 誘惑が繰り返される。

(2) ヨセフは、最大限の努力をし、彼女に近寄らなかった。

(3) ある日、家の中に彼女しかいない状況が訪れた。

① 仕組まれた状況

② 彼女は、ヨセフの上着をつかんで、ヨセフに命令した。

(4) ヨセフは上着を彼女の手に残し、外に逃げた。

(例話) ビリー・グラハム博士から聞いた話

Ⅲ. 不当に非難されるヨセフ（39：13～23）

1. ヨセフを誘惑することは失敗に終わった。

2. 彼女は怒った。

（1）その家の者どもを呼び寄せた。

（2）夫を非難した。夫婦関係が疑われる状態である。

①「もてあそぶために」（新改訳）

②ヘブル語「ツァハク」。イシュマエルがイサクをからかった時の言葉。

③「わたしたちに戯れます」（口語訳）

④「わたしたちはいたずらをされる」（新共同訳）

（3）ヨセフを非難した。

①ヘブル人という言葉は、軽蔑を表す。

②上着が物的証拠となる。現実味のない証拠。

③ヨセフの上着が、嘘のための証拠として利用されるのは2度目である。

④義人が、罪もなく非難されることはよくある。

（4）彼女は、罪を恥じるのではなく、義人に復讐を図った。

3. ヨセフの投獄

（1）ポティファルは妻の言葉を信じた。

（2）神の摂理が働いている。

①ポティファルはヨセフを死刑にすることができた。

②彼の怒りは、途中でとどめられた（妻の証言への疑い、神の介入）。

③王の囚人が監禁されている監獄（最も厳しい監獄）に入れられた。

4. アブラハム契約の祝福

（1）主がヨセフとともにおられた。

①21節、23節（2回）

（2）ポティファルの家で起こったのと同じことが起こった。

①監獄の長の信頼を得た。

②すべての囚人の世話を委ねられた。

（3）獄中のヨセフの状態：詩篇 105：18～19

「彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中に入った。彼のことがそのとおりになる時まで、【主】のことばは彼をためした」

（4）ヨセフを支えたものは、2つの夢と、主がともにおられるという確信。

結論

1. 僕としてのキリスト

(1) キリストは、ローマ帝国に支配されていたユダヤに来られた。

(2) 僕としての生涯を歩まれた。

(3) しかし、神はともにおられた。マタ 1:23 参照。

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

(4) ローマ総督ピラトの前でイエスはこう言われた。ヨハ 18:36

「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません」

2. 誘惑に合うキリスト

(1) 荒野での誘惑

① メシアとして誘惑に合っている。

② もしその誘惑に乗るなら、神の計画は破壊される。

(2) サタンはしつこく迫った。

① ペテロの口を通して

② ゲツセマネの園で

③ 十字架から降りて来いという声で

3. 不当に非難されるキリスト

(1) イザ 53:4～6 の預言

(2) イザ 53:10 の預言

4. ヨセフに起こったことはキリストに起こり、私たちにも起こる。

【創世記53】 創世記40章1節～23節

「献酌官長と調理官長の夢」

イントロ：

1. 創世記37章～50章は第11番目のトルドット（歴史、経緯）である。
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフ物語は、37章から始まった。
 - (2) 39章で、ヨセフはポティファルの妻の怒りに触れ、投獄された。
 - (3) 40章で、ヨセフの希望はさらに碎かれる。
 - (4) ヨセフとキリストの関係
 - ① 辱めの階段を下る。
 - ② 栄誉への階段を上る。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) 上司の信頼を得よ。(40：1～4)
 - (2) 隣人に関心を示せ。(40：5～8)
 - (3) 神との生きた関係を育てよ。(40：9～19)
 - (4) 夢を捨てるな。(40：14～15)
 - (5) 神の時を待て。(40：20～23)
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフに起こったことは私たちにも起こる。
 - (2) 人生の最も暗い時に、どう忍耐するか。

このメッセージは、ヨセフの生き方から励ましを得ようとするものである。

I. 上司の信頼を得よ（40：1～4）

1. 神の摂理が働いている。
 - (1) 獄中のヨセフは監獄の長の信頼を得ていた。
 - (2) 献酌官と調理官が、ヨセフが投獄されていた監獄に拘留された。
 - (3) 神の摂理が働いていないなら、何も起こらない。
2. 献酌官と調理官
 - (1) 「給仕役と料理役」（新共同訳）
 - (2) 彼らは、献酌官長と調理官長である。

- (3) 献酌官長の仕事はぶどう酒を注ぐこと、調理官長の仕事は食事を用意すること。
- (4) 毒味の役割も負っていた。
- (5) 政治的相談役でもあった。

3. 彼らの罪とは何か。

- (1) 一番極端な可能性は、ぶどう酒とパンに毒を入れて暗殺しようとしたこと。
- (2) 軽微な可能性は、ぶどう酒の中に蠅が、パンの中に砂が混入したこと。
- (3) 人間の王に仕えるのは容易ではない。
- (4) 主イエスに仕えるのは、楽しいことである。
「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます」(マタ 11:28)

4. 上司の信頼

- (1) 侍従長はヨセフを彼らの付き人にした。
- (2) 侍従長とはポティファルのことである。
 - ① ヨセフの無罪を信じていたが、妻の手前投獄した。
 - ② 依然としてヨセフに信頼を置いている。
- (3) バプテスマのヨハネとヨセフの類似点
 - ① ヘロデ・アンテパスは、ヨハネが無罪であることを知りながら、投獄した。
 - ② 最後は、ヨハネを斬首した。
- (4) 地位や身分(外面的祝福)を失っても、信頼をなくさないことが大切。
 - ① 不当な扱いを受けた時、その上司はその程度の人なのだと思います。
 - ② 必ず見ている人がいる。神が見ておられる。

II. 隣人に関心を示せ(40:5~8)

1. 神の摂理が働いている。

- (1) 2人とも夢を見た。
 - ① 同じ夜に
 - ② それぞれ意味があった(隠されていた)。
- (2) 彼らは、それが神からの夢であることを認識した。

2. 他者への関心

- (1) ヨセフは、彼らの変化を読み取った。
 - ① いらいらしていた。
 - ② 顔色が悪かった。

(2) 通常必要とされる範囲以上の気配り

- ① 自分の問題から目を離して、他者を思いやる心
- ② 僕でありながら、自由人である。

(3) 自分から声をかける行動力

- ① それが彼らの心と口を開いた。
- ② 痛みを感じている人は、声をかけられるだけで励まされる。

3. ふたりの夢

(1) 「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない」

- ① エジプトには、夢を解き明かす専門家がいた。
- ② しかし、獄中にはそういう人はいない。

(2) 「それを解き明かすことは、神のなさることではありませんか。さあ、それを私に話してください」

- ① 神に栄光を帰している。
- ② 自分に栄光が来ないための予防線を張っている。
- ③ 自信を持って勧めている。
- ④ 異国の地で、異国の王のために夢を解き明かすのはヨセフとダニエルだけ。

* エジプトとバビロン

* ともに、呪術師、占い師がいた国である。

III. 神との生きた関係を育てよ。(40：9～19)

1. エジプトに売られて以来、神との関係が切れたことは一度もない。

2. 献酌官長の夢

- (1) 1本のぶどうの木に3本のつるがあった。
- (2) 短時間でぶどうが熟した。
- (3) ぶどうを摘んで、パロの杯の中に入れた。

3. 解き明かし

- (1) 3日のうちに、パロから呼び出される。
- (2) もとの地位に戻される。
- (3) パロの杯をその手に捧げるようになる。

4. 調理官長の夢

- (1) 頭の上にかごが3つあった。
- ① 「白いパンのかご」 口語訳

②「枝編みのかご」新改訳

③「編んだ籠」新共同訳

(2) 一番上のかごには、パロのための食べ物が入っていた。

(3) 鳥がそれを食べてしまった。

5. 解き明かし

(1) 3日のうちに、パロから呼び出される。

(2) 木につるされる（斬首された後、体が）

(3) 鳥に食われる。

6. ヨセフの忠実さを見よ。

(1) 示されたまま、相手に伝えている。

(2) 私たちには、神の計画やメッセージを「改善」することは許されていない。

(3) 人の死、死後の裁き、イエス・キリストという名の他には救われるべき名はない。

IV. 夢を捨てるな。(40:14～15)

1. 献酌官長への歎願

(1) 献酌官長はもとの地位に就くとの確信があった。

(2) パロに自分のことを話して欲しい。

2. 嘆願のベース

(1) 「ヘブル人の国」

① そこはカナン人の国である。

② ヨセフは、アブラハム契約を覚えているのである。

(2) 無罪の主張

① さらわれてきた。兄たちを批判していない。

② 投獄されるようなことは何もしていない。ポティファルの妻を批判していない。

V. 神の時を待て。(40:20～23)

1. 三日目はパロの誕生日

(1) すべての家臣がそれに出席した。

(2) 献酌官長と調理官長も呼び出された。

2. ヨセフの解き明かしが成就した。

(1) 献酌官長は、もとの地位に復帰した。

(2) 調理官長は、木につるされた。

3. 献酌官長はヨセフのことを忘れた。

(1) この献酌官長は、恩知らずである。

① ヨセフの世話になった。

② 夢の解き明かしを受けた。

③ 私たちも、このような体験をした時に、落胆してはならない。

(2) 神の視点からは、計画が進展しているのである

4. ヨセフとイエスの相関関係

(1) ヨセフと2人の囚人。イエスと2人の囚人。

(2) ヨセフは、「私を思い出してください」と言ったが、忘れ去られた。

(3) 囚人の一人は、「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください」（ルカ 23：42）と言った。

(4) イエスは、私たちのことを決して忘れてはおられない。

結論

1. 地位や身分はなくてもいいが、信用はなくすな。

2. 自分の問題に集中するのではなく、隣人に関心を示せ。

(1) それは、摂理の門をノックすることである。

3. 試練の中でこそ、神との生きた関係を育てよ。

4. 現実がいかに厳しくても、神から与えられた夢を捨てるな。

5. 自分の計画を捨て、神の時を待て。

【創世記 54】 創世記 41 章 1 節～ 57 節

「パロの夢」

イントロ：

1. 創世記 37 章～ 50 章は第 11 番目のトルドット（歴史、経緯）である。
2. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフ物語は、37 章から始まった。
 - (2) 39 章で、ヨセフはポティファルの妻の怒りに触れ、投獄された。
 - (3) 40 章で、ヨセフは献酌長官から忘れ去られる。
 - (4) 41 章で、栄誉への階段を上る。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) 歴史の文脈
 - (2) 神の時
 - (3) 神の方法
 - (4) 無私の心
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 日本は激変しつつある。
 - (2) 日本のリバイバルへの準備を始めよう。

このメッセージは、ヨセフの生き方からリバイバルに備える方法を学ぼうとするものである。

I. 歴史の文脈

1. 大きな文脈
 - (1) ヒクソス王朝の時代（前 1750 ～ 1550 年）。「外国の支配者」「侵略者」の意。
 - (2) 第 15 王朝～第 17 王朝（第 16 王朝は確実である）
 - (3) ハム系（エジプト人）ではなく、セム系の王朝である。
 - (4) 恐らく、エジプトに移住したセム人が革命によって支配権を握ったのであろう。
 - (5) 馬、戦車、各種の武器、皇帝の専制政治などは、ヒクソスの影響である。
 - (6) ヨセフの登用はこのような背景の下で実現した。
2. 中規模の文脈
 - (1) ヤコブの一家が、民族として成長する必要があった。
 - (2) しかし、カナンの地では危険性が余りにも大きかった。
 - (3) 神の選びの民が純粹培養される地は、エジプトである。

(4) ヨセフは、カナンの地からエジプトに移住するための架け橋となる。

3. 個人的な文脈

(1) ヨセフには 2 つの夢が与えられた。

(2) その夢の実現のためには、2 段階を通過する必要あり（キリストとの類似）。

① 辱めの段階

② 上に引き上げられる段階

II. 神の時

1. ヨセフの年齢

(1) 17 歳でエジプトに売られた。

(2) 30 歳でパロに仕えるようになった（41：46）。

(3) それから 9 年後に兄たちと再会する。

2. 神の時が来るまでは、信仰と忍耐とが試される。

(1) 詩篇 105：18～19

「彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中に入った。彼のことがそのとおりになる時まで、【主】のことは彼をためした」

(2) 苦難に耐えること、無意味と思える状態に耐えること。

3. ヨセフを支えたものは何か。

(1) 文脈の理解。すでに 3 つの文脈を確認した。

(2) 2 つの夢と主がともにおられるという確信。

4. キリスト来臨の時

(1) 創 3：15 で、最初のメシア預言が与えられた。

(2) 創 12：1～3 で、アブラハムの子孫からメシアが誕生することが預言された。

(3) 創 49：10 で、ユダの子孫からメシアが誕生することが預言された。

(4) メシアは、ローマ帝国がユダヤを支配していた時代に誕生した。

① ギリシア語という言語

② ローマによる平和

③ 帝国内に張り巡らされた道路網

④ ユダヤ人の離散とシナゴグの存在

⑤ 霊的渇き

(5) 「しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました」（ガラ 4：4）

5. 神の時の特徴

- (1) 人間には遅れているように見えるが、実現すると最善であったことが分かる。
- (2) 教会の携挙やキリストの再臨も同じである。

「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」(Ⅱペテ3:9)

Ⅲ. 神の方法

1. パロの夢

- (1) パロが立っている位置が重要。ナイルのほとり。
- (2) 肥えた7頭の雌牛と、やせた7つの雌牛
 - ① 牛は水の中に入って熱と蠅を避ける。
 - ② やせた雌牛が肥えた雌牛を喰い尽した。
- (3) 肥えた7つの穂と、しなびた7つの穂
 - ① 東風(エジプトではハムシンと呼ぶ)で焼け、しなびた穂。
 - ② しなびた穂が、肥えた穂をのみこんでしまった。

2. 呪法師と知恵ある者たちの無力

- (1) 呪法師(ハルトム)、魔術師(口語訳、新共同訳)
 - ① 象形文字を解読する人たち。
- (2) 知恵ある者(ハハム)、知者(口語訳)、賢者(新共同訳)
 - ① 魔術的儀式の文献を解説する人たち。

3. 献酌官長の告白

- (1) 彼は忘れてはいなかった。神の摂理が働いている。
- (2) ヘブル人の若者をパロに推薦する。

4. 監獄から呼び出されるヨセフ

- (1) ひげをそっている。エジプト人にはひげはない。
- (2) 囚人服を脱いで、フォーマルな服を着る。

5. パロの前に立つヨセフ

- (1) 王対奴隷ではなく、真の神を知らない者と知る者の対面である。
- (2) ヨセフは神に栄光を帰している。

(3) 創41:16

- ①「私ではありません。神がパロの繁栄を知らせてくださるのです」(新改訳)
- ②「いいえ、わたしではありません。神がパロに平安をお告げになりましょう」(口語訳)
- ③「わたしではありません。神がファラオの幸いについて告げられるのです」(新共同訳)
- ④ その意味は、パロは夢に解き明かしによって満足すること。

(4) パロによる夢の説明

- ① 19b は、新しい情報。
- ② 21a も、新しい情報。

6. ヨセフによる夢の解き明かし

- (1) 2つの夢は同じ意味
- (2) 異教の王に神が啓示を与えた(ダニ2章のネブカデネザルと同じ)。
- (3) 7年の豊作と、7年のききん。
- (4) 2度夢を見たのは、神が確実にこれを行うから。
- (5) エジプトの偶像神の辱め
 - ① パロはナイル川のほとりにいた。エジプトのききんは、ナイル枯渇により起こる。
 - ② オシリス(雄牛の姿)はナイルの守り神。
 - ③ イッシス(雌牛の姿)は豊穡の神。

7. ヨセフによる提案

- (1) 行政の長を任命するようにとの助言
「それゆえ、今、パロは、さとくて知恵のある人を見つけ、その者をエジプトの国の上に置かれますように」
- (2) 新しい食物政策を実施するようにという助言
「また、国中に監督官をお立てになり、豊作の七年の間、エジプトの国の産物の五分の一を徴収なさいますように」
 - ① 20パーセントの徴税をするように。
 - ② ききんに備えて貯蔵するように。

8. ヨセフの登用

- (1) パロとすべての家臣の同意
「神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか」
 - ① 正しくは、「神々の霊」(ルアハ・エロヒム)である。
 - ② パロは偶像礼拝者である。

(2) ヨセフはエジプトでNO. 2になった。

① ポティファルの家でそれが起こった。

② 監獄でもそれが起こった。

(3) パロの代行

① 指輪（勅令を出せる）

② 亜麻布の衣服（総理大臣の衣装）

③ 金の首飾り

④ 第2の戦車

⑤ 公の宣言

(4) パロから新しい名前と妻を与えられた。

① 「ツァフェナテ・パネアハ」（秘密を明らかにする者）

② 妻を与えることは、主人が奴隷にすること（ヨセフには選択権がなかった）。

③ 「オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテ」

* オンは太陽神礼拝の地。後のヘリオポリス。カイロの北約10キロの地。

9. 神の時に関する印象

(1) すべてが無理なく、順調に進む。

(2) 忍耐は、神の時が来るまでにするもの。

IV. 無私の心

1. 30歳から総理大臣として活動を開始する。

(1) イエスもまた、30歳から公生涯を開始した。

2. 具体的活動

(1) 調査

(2) 20パーセントの税を蓄える。

(3) 地産地消。計測不可能なほどの蓄えができた。

3. 私生活

(1) 長子がマナセ

① 「忘れる」という意味。傷がいやされたことを意味する。ヘブル名である。

(2) 次男がエフライム

① 「実り多い」という意味。これもまた、ヘブル名である。

「神が私の苦しみので私を実り多い者とされた」

② ヨセフはカナンの地のことを忘れていない。

結論

1. 歴史の文脈

- (1) 1948 年のイスラエル建国
- (2) メシアニック・ジュー運動の進展
- (3) イスラム原理主義の台頭
- (4) 米国の対イスラエル政策の変化
- (5) 日本が変わる時（百数十年に一回の変化が来ようとしている）

2. 神の時

- (1) 携挙と再臨は必ず来る。
- (2) 日本のリバイバルも必ず来る。

3. 神の方法

- (1) 神に用いられる準備をしておく。
- (2) 忍耐は神の時が来るまで。
- (3) 神の方法は、無理なく進展する。

4. 無私の心

- (1) 人を動かす原動力になる。
- (2) いかに祝された生活であっても、地上は「苦しみの地」である。
- (3) イエスのゲツセマネの園での祈りが究極の答えである（ルカ 22：42）。

「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください」

【創世記 55】 創世記 42 章 1 節～ 38 節

「兄たちを試す第一のテスト」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) 41 章で、ヨセフはエジプトの宰相となった。
 - (2) ついに、兄たちと再会する時がきた。
 - (3) その解説は非常に長い（42 章～ 45 章まで）。
 - ① 霊的教訓に満ちている。
 - ② ヤコブの一家がエジプトに下る背景を解説している。
2. ヨセフの視点からこの箇所を読みたい。
 - (1) 神の御心を知っていたヨセフ
 - ① 7 年のききんの 2 年目
 - ② やがてカナン の地からもエジプトに買い出しに来る。
 - ③ 家族は自分を伏し拝むようになる。
 - ④ 自分は、ヤコブの一家がエジプトに寄留するための架け橋となる。
 - (2) 兄たちとの和解を願うヨセフ
 - ① 神の許可のもとに起こった悲劇である。
 - ② 和解の前に、兄たちが罪を悔いているかどうかテストする必要がある。
 - ③ このテストは、2 段階で行われる。今回は第一のテストである。
 - ④ ヨセフがカナン の地にいる父を訪ねなかった理由は、恐らくここにある。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) エジプトへの買い出し（42：1～5）
 - (2) 第一のテスト（42：6～20）
 - (3) 罪責感に苦しむ兄たち（42：21～28）
 - (4) 悲しむ父ヤコブ（42：29～38）
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフが兄たちを見ている目は、キリストが私たちを見ている目である。
 - (2) 第一義的には、それはキリストがユダヤ人を見ている目である。
 - (3) ここでは、第二義的適用を行う。

このメッセージは、ヨセフが兄たちを見ている目を通して、キリストが私たちをご覧になっている目を学ぼうとするものである。

I. エジプトへの買い出し (42: 1～5)

1. 激しいききん

- (1) ヨセフはこの状況を知らない。
- (2) 類推するだけ。

2. 族長たちは全員、約束の地に住みながらききんを経験した。

- (1) 神への信仰を試すため
- (2) よりよい故郷を求めさせるため (ヘブ 11: 14～16)

3. ヤコブの決断

- (1) 10人の息子たちを送る。
 - ① 試練の時、絶望しているだけではだめ。
 - ② 自分から何か行動を起こすことが必要である。
- (2) ベニヤミンは残す。
 - ① 「わざわざが彼にふりかかるといけない」
 - ② 息子たちへの疑いの心？

II. 第一のテスト (42: 6～20)

1. ヨセフと兄たちの再会

- (1) 兄たちは、当時の習慣に従って、顔を地につけて彼を伏し拝んだ。
- (2) 22年経って、最初の夢が部分的に成就した。
 - ① 11人全員ではない。
 - ② 兄たちはそれがヨセフであることを認識していない。
- (3) ヨセフは通訳者を通して語り、自分がヨセフであることを伏せておいた。

2. 兄たちをテストするヨセフ

- (1) 兄たちを威嚇する荒々しい言葉
- (2) スパイ呼ばわり (あなたがたは間者だ)
- (3) 2度もスパイ呼ばわりをする。故郷 (カナンの地) の状況を確認するため。
 - ① なぜベニヤミンがいないのか。
 - ② 父の様子はどうか。

3. 兄たちの答え

- (1) 極めて率直で正直
- (2) 12人兄弟で、カナンの地にいるひとりの人の子
- (3) 末の弟は、今、父といっしょにいる。
- (4) もうひとりはいなくなった (死んだという意味)。

4. その答えの証明を迫るヨセフ

- (1) 3度目のスパイ呼ばわり。
- (2) 末の弟を連れて来い。
- (3) 1人が帰り、9人は残る。
- (4) 末の弟が来るまでは、エジプトを出ることはできない。
- (5) 3日後のプランの変更
 - ① 理由は、「神を恐れる」。権威の行使に対するチェック。
 - ② 9人が帰り、1人は残る。

III. 罪責感に苦しむ兄たち（42：21～28）

1. 通訳を通して

- (1) 彼らはヘブル語で話ししているが、ヨセフにはそれが分からないと思っている。
- (2) それゆえ、自由に自分の考えを述べることができた。
- (3) ヨセフはそれを聞いていた。

2. 兄たちの後悔

- (1) 創 42：21 に、彼らの悔い改めの言葉がある。
- (2) 彼らもまた、「神を恐れる」ことを考慮に入れた。
- (3) 22年前の罪でも、新鮮に思い出される。
- (4) 傷つけた相手の痛みを感じることができるようになっている。

3. ルベンの慰め

- (1) 創 42：22 に、長子ルベンの言葉がある。
- (2) ルベンには、自分にできることをしたという確信があった。
- (3) 罪を犯さなかった者は、罪責感から解放されている。
 - ① 9人への叱責の言葉
 - ② 今の苦難は、「彼の血の報い」である。

4. ヨセフの反応

- (1) ヨセフは、自分が奴隷に売られた時の状況を理解した。
- (2) ルベンがこの悪行に関わっていなかったことを初めて知った。
- (3) まだ自分がヨセフであることを明かす段階ではない。
 - ① 兄たちはまだ完全には謙遜になっていない。
 - ② 第2のテストが待っている。
- (4) しかし、家族としての情愛は押しとどめ難い。
- (5) ヨセフは彼らから離れて、泣いた。

5. 計画の続行

(1) シメオンの投獄

- ① ルベンに責任がないので、シメオンが長子の立場に立っている。
- ② 他の9人に対して、事態の深刻さを教えるため。

(2) 9人を帰国させる。

- ① 袋に穀物を満たす。求めていた物を与えた。
- ② 代金の銀をめいめいの袋に返す（すぐには見つからないように）。
- ③ 道中の食料を与える。

* キリストは無代価で私たちに祝福をくださる。

- ④ 以上のことは、彼らに恵みを与えるために為されたことである。

(3) 帰宅途上で、9人の中のひとりが、自分の銀を発見した。

- ① 罪人は、祝福の出来事を悪く解釈する。
- ② 彼らは、神の御手をそこに見て、さらなる怖れにとらわれた。

IV. 悲しむ父ヤコブ (42:29～38)

1. 信じられない息子たちの報告

- (1) 自分たちは間者扱いされた。
- (2) しかし、事実を述べた。

- ① 12人兄弟
- ② 一人は死んだ。
- ③ 末の弟は今、カナンの地に父といっしょにいる。

(3) 正直者であることを証明するために

- ① 1人を残し
- ② 末の息子を連れて来い。
- ③ そうしたら、自由になり、エジプトに出入りすることができる。

2. さらに信じられないことが起こる。

- (1) 彼らの袋から、めいめいの銀の包みが出てきた。
- (2) その結果、彼らも父も驚いた。

3. ヤコブの応答

- (1) 息子たちを疑っている。

- ① エジプトでなにをしてきたのか。

- (2) ベニヤミンまで失うのではないか。

(3) ルベンの提案

- ① もしベニヤミンを連れて帰らなかったら、自分の2人の子を殺してもよい。

- ② ヤコブが孫を殺すことはあり得ないが、これはルベンの決意を示している。
- (4) ヤコブはその提案を拒否する。

結論：キリストが私たちに教えようとされている教訓

1. 地上は理想郷ではない。
 - (1) 約束の地は、信仰を試す地である。
 - (2) 試練は、より良い故郷を求めさせるためのもの。
2. 赦しは神の側の問題ではなく、それを受け取る私たちの側の問題である。
 - (1) 神の涙 エレ 31：20
 - (2) キリストの涙 ルカ 19：41
 - (3) 罪に留まり続ける生涯は、悲惨な生涯である。
3. 事実の解釈を間違えると、間違った結論を出すことになる。
 - (1) ヤコブは、ヨセフを失ったと思い込んでいる。
 - (2) また、ルベンも失ったと思い込んでいる。
 - (3) さらに、ベニヤミンまで失うと思い込んでいる。
 - (4) しかし、これら一切のことが益になるのである。

【創世記56】 創世記43章1節～34節

「ベニヤミンとの再会」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフと兄たちの和解の物語は、非常に長い(42章～45章まで)。
 - (2) 要約して語ろうかと思うが、聖書本文はそれを許していない。
 - ① 霊的教訓に満ちている。
 - ② ヤコブの一家がエジプトに下る背景を解説している。
 - (3) ヨセフは、シメオンだけを投獄して、ほかの9人を帰らせた。
 - ① 代金は、それぞれの袋に入れておいた。
 - ② ベニヤミンを連れてくるように命じた。
2. 前回同様、ヨセフの視点からこの箇所を読みたい。
 - (1) 神の御心を知っていたヨセフ
 - ① 兄たちを赦すことに決めていた。
 - ② 和解の前に、兄たちが罪を悔いているかどうかテストする必要がある。
 - ③ 兄たちは、ヨセフを奴隷に売ったことを深く悔いていた。
 - ④ さらなるテストを行う必要がある。
 - (2) この時点でのヨセフの心理状態
 - ① 兄たちはすぐにエジプトに来なかった。何かの議論があるのだろうと推察。
 - ② しかし、彼らは必ず来るとの確信があった。
 - * 来なければ餓死する。
 - * シメオンを助けるために来る。
 - * 父ヤコブの性質を知っていた。判断力と決断力がある。
 - (3) 兄たちを試す次のテストを用意している。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) 2度目のエジプトへの買い出し(43：1～14)
 - (2) ヨセフの邸宅への招待(43：15～25)
 - (3) 兄たちを試す小テスト(43：26～34)
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフが兄たちを見ている目は、キリストが私たちを見ている目である。
 - (2) 第一義的には、それはキリストがユダヤ人を見ている目である。
 - (3) ここでは、第二義的適用を行う。

このメッセージは、ヨセフが兄たちを見ている目を通して、キリストが私たちをご覧になっている目を学ぼうとするものである。

I. 2度目のエジプトへの買い出し (43: 1～14)

1. ヨセフは、兄たちの到着が遅れている理由を知らない。類推するだけ。
 - (1) 2度往復できたほどの時間が経過していた。
2. 激しいききん
 - (1) 主食の麦はないが、乾燥フルーツやナッツ（木の実）などはある。
 - (2) 麦の消費を最大限抑え、なんとか持ちこたえようとする。
 - (3) しかし、それにも限度がある。
3. ヤコブの要請
 - (1) 再度、9人の息子たちをエジプトに送る。
 - (2) しかし、ベニヤミンを同行させるつもりはない。
4. ユダの説得
 - (1) 事態の深刻さを父に説く。
 - ① エジプトの宰相は、本気である。
 - ② ベニヤミンを連れていけないなら、あの人に会えない（食糧を買えない）。
 - ③ ベニヤミンが行くという条件が満たされたなら、エジプトに下ろう。
 - (2) ヤコブの不平
 - ① なぜもうひとりの弟がいると言ったのか。
 - ② 被害者意識に満ちている。
 - (3) ユダの答え
 - ① 宰相の質問が、極めて具体的だった。
 - * 父はまだ生きているのか。
 - * 弟はいるのか。
 - ② それらの質問に正直に答えた。
 - ③ こういう事態になることを、予期していなかった。
 - (4) 保証人ユダ
 - ① 長兄ルベンに代わって、ユダが決意を表明する。
 - ② 保証人（請負人）になる。
 - ③ もしベニヤミンを連れ戻さなかったなら、父に対して生涯その罪を負う。
 - * ユダが所有している財産は、ヤコブのものになる。
 - * 息子としての相続権を放棄する。

④ ユダは、ヨセフを売るように提案した張本人である(創37:26～27)。

* 起こったことは取り返すことはできない。

* ヨセフの弟であるベニヤミンの命を救うことに全力を尽くす。

* これは、ユダの罪滅ぼしである。

* 彼が本気であることは、後に明らかになる。

5. 父イスラエルの決断

(1) イスラエルという名前が使われている。6、8、11節

① 42章では、ヤコブという名前が使われていた。

② 43章では、彼の新しい名前、イスラエルが使われている。

(2) 問題を直視し、それと格闘を始めたので、イスラエルと呼ばれている。

① 創世記32:28「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。あなたは神と戦い、人と戦って、勝ったからだ」

② 信仰者としての祈りの格闘を示す名前である。

③ さらに、神がともにいて戦ってくださることを示す名前でもある。

(3) 具体的な方策を考え始めている。

① 名産を贈り物にする

* この方策は、かつて兄エサウに対して用いたものである。

* 6つの産物：乳香、蜜、樹膠、没薬、くるみ(ピスタチオ)、アーモンド

② 2倍の銀を持っていく。

* 相場が高騰しているかもしれない。

③ さらに、返されていた銀も持っていく。

* 「それはまちがいったのだろう」

* 信仰による解釈

④ それらの用意を整えて、ベニヤミン連れていく。

(4) 祈りの言葉

① 「全能の神がその方に、あなたがたをあわれませてくださるように」

* 「エル・シャダイ」

* 「その方」とは、荒々しく語ったエジプトの宰相。

* 神は、いかなる人の心も支配しておられる。

② 「もうひとりの兄弟とベニヤミンとをあなたがたに返してくださるように」

* シメオンとベニヤミンの帰還を信じる。

③ 「私も、失うときには、失うのだ」

* あきらめの言葉ではない。

* 信仰者の言葉。御心への信頼。

* ルカ 22：42「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。

しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください」

6. 私たちへの適用

- (1) 現実逃避から、信仰によって現実を直視する姿勢への変更。
- (2) イスラエルとなって、信仰による格闘をする。
- (3) 最後は、神の御手に委ねる。

II. ヨセフの邸宅への招待（43：15～25）

1. 兄たちは、ヨセフの前に立った。

- (1) 贈り物を携え
- (2) 2 倍の銀を持ち
- (3) ベニヤミンを伴って

2. ヨセフは彼らを自分の邸宅に招いた。

- (1) ベニヤミンを連れてくるという条件が満たされた。
- (2) 個人的に兄たち、特にベニヤミンをもてなす。
 - ① 家の管理者に命じた。
 - ② 兄たちを邸宅に案内せよ。
 - ③ 宴会の準備をせよ。
 - ④ 自分は、彼らと昼食をともにするから。

3. 兄たちは恐れた。

- (1) 罪人は、善意を悪く解釈する。
 - ① 返されていた銀のゆえに、襲われる。
 - ② 奴隷として売られる（かつて自分たちがヨセフにしたこと）。
- (2) 家の入口のところで弁明をする。
 - ① 家の管理者に執りなしを期待する。
 - ② 袋に入っていた銀を返しに来た。
 - ③ 食糧を買うための銀を持って来た。
 - ④ だれが銀を袋の中に入れたのか、分からない。
- (3) 管理者の答え
 - ① 「安心なさい」（シャローム・ラヘム）（Peace be with you.）
 - ② すでに清算は終わっている（ヨセフが払っていた）。

③ 袋の中に宝が入っていたのは、神の摂理（神がヨセフにそのようにさせた）。

④ 「あなたがたの神、あなたがたの父の神」

* ヨセフによって、イスラエルの神を信じるようになっている。

⑤ さらに安心させるために、シメオンを連れて来た。

4. もてなし

(1) 家に入ると、水が与えられた。

① 足を洗った。

② ろばに飼料が与えられた。

(2) 昼食を宰相とともにすると聞かされたので、贈り物を用意しておいた。

III. 兄たちを試す小テスト (43:26～34)

1. ヨセフとの対面

(1) 兄たちは、贈り物を広げ、地にひれ伏して彼を拝した。

① 夢の部分的成就

(2) 父の安否を気づかうヨセフ

① ベニヤミンを送ることについて大いに心労があったことだろうと推察した。

② 贈り物を見て、父の性質が変わっていないことを確認する。

(3) 弟のベニヤミンへの語りかけ

① 22年ぶりに直接声をかける。

② 「わが子よ。神があなたを恵まれるように」

(4) ヨセフは泣いた。

① 弟への愛と懐かしさ

② はらわたが熱くなる。

③ そのままでいたなら、自分を明かしてしまう。

④ 奥の部屋：ひとりになれる部屋。泣き声を聞かれる可能性が少ない部屋。

⑤ ヨセフは5回泣いている。その2回目である。(創42:24、43:30、45:1～2、14～15、50:17)

2. 豪華な食事

(1) ヨセフは顔を洗い、自分を制して、食事を出させる。

(2) 3つの区分

① ヨセフ

② 兄たち

③ エジプト人たち

(3) その理由

- ① 兄たちとエジプト人の区分は、ヘブル人とエジプト人の区分。
- ② ヨセフと兄たちの区分は、エジプト人とヘブル人の区分。
- ③ ヨセフとエジプト人の区分は、ヘブル人とエジプト人の区分。

(4) 兄たちは、年令順に着座させられた。

(5) 客に敬意を示す方法は、主人の食卓から分け前を与えること。

- ① 兄たちに与えられた(通常は2倍)。
- ② ベニヤミンには5倍も与えられた。
- ③ これは兄たちを試すテストである。ベニヤミンに嫉妬するかどうか。

(6) 兄たちは、ヨセフとともに酒を飲み、酔いごちになった。

- ① 彼らはテストに合格した。
- ② エジプトの宰相と和解できたとの実感があった。
- ③ 久しぶりのごちそうを食べた。

(7) しかし、より厳しい期末試験が近づいていた。

結論：キリストが私たちに教えようとされている教訓

1. 代価は支払われている。

- (1) 兄たちが麦を買った代価は、すでにヨセフが支払っていた。
- (2) キリストは、私たちの罪のための代価を支払ってくださった。

コロ 2:14「いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました」

I コリ 6:20「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい」

2. 宴会に招かれている。

- (1) 資格のない兄たちが、ヨセフの宴会に招かれた。
 - ① 贈り物を持って来たからか。そうではない。
 - ② 兄弟だという理由だけで、招かれた。
- (2) 資格のない私たちが、キリストの宴会に招かれている。
 - ① 黙 19：7
 - ② マタ 22 章 礼服を着ていることが条件

3.3 区分された食卓

- (1) ヘブル人とエジプト人（異邦人）の間に、ヨセフが座っている。
- (2) ヘブル人から見ればヨセフはエジプト人。
- (3) エジプト人から見ればヨセフはヘブル人。
- (4) 新しいひとりの人（教会）の予表がある。

4. 兄たちを徹底的にテストするヨセフ

- (1) 和解と赦しは、ヨセフの側の問題ではなく、兄たちの側の問題である。
- (2) 赦しは神の側の問題ではなく、私たちの側の問題である。
- (3) 事務的に行うテストではなく、やむにやまれぬテストである。

① 自分を明かさないヨセフ

② 5回も泣くヨセフ

- (4) 神の涙を代弁するパウロ

Ⅱ コリ 5:20 「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい」

【創世記 57】 創世記 44 章 1 節～ 45 章 15 節

「兄たちを試す第二のテスト」

イントロ：

1. 文脈を確認する。

(1) ヨセフと兄たちの和解の物語は、非常に長い（42 章～ 45 章まで）。

① 霊的教訓に満ちている。

② ヤコブの一家がエジプトに下る背景を解説している。

(2) ヨセフの兄弟たち 11 人は、上機嫌で帰っていく。

① シメオンがいる。

② 何よりもベニヤミンがいる。

2. この時点でのヨセフの心理状態

(1) 兄たちを赦すことに決めていた。

(2) 和解の前に、兄たちが罪を悔いているかどうかテストする必要がある。

(3) 今回は、いわば期末テストである。

(4) もしこのテストに合格しなかったらどうなるのか。

① ベニヤミンだけがエジプトに留まる。

② ヨセフはただちにベニヤミンを登用する。

③ 父ヤコブを迎えにカナンの地に行く。

④ 10 人の兄たちは、カナンの地に残り、自らの罪の刈り取りをする。

3. メッセージのアウトライン

(1) ヨセフが兄たちに課した期末テスト（44：1～17）

(2) テストに合格した兄たち（44：18～34）

(3) 自分の身を明かすヨセフ（45：1～15）

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(1) ユダとキリストの関係（メシアを送り出す家系）

(2) ヨセフとキリストの関係（長子の権利）

このメッセージは、ユダとヨセフを通して、キリストを新しく発見しようとするものである。

I. ヨセフが兄たちに課した期末テスト (44: 1 ~ 17)

1. ヨセフは管理者(執事)に命令する。

- (1) 袋を運べるだけの食糧で満たす。
- (2) 銀をおのおのの袋の口に入れておく。
- (3) 「私の杯、あの銀の杯を一番年下の者の袋の口に、穀物の代金といっしょに入れておけ」
- (4) 執事は命じられた通りにする。

2. ヨセフの兄弟たちは明け方に、ロバとともに送り出された。

- (1) 食事のもてなしを受け、体力を回復した。ロバも元気になった。
- (2) ヨセフは朝早く起きて、兄弟たちの出発時間を観察していた。
- (3) 町を出てまだ遠くに行かないうちに、執事が送られた(単独ではない)。
- (4) 執事はヨセフの兄弟たちを糾弾する。
 - ① 主人が愛用している銀の杯
 - ② いつもまじないに使っている銀の杯(より罪を大きく見せるため)
 - ③ アッシリヤ人、カルデヤ人、エジプト人のまじない
 - * 銀の杯に水を入れ、その中に金や銀の破片、宝石を沈める。
 - * まじないの言葉で悪魔に呼びかけると、返事がある。
 - ④ しかし、ヨセフはまじないをしているわけではない。

3. 兄弟たちの応答

- (1) 絶対にあり得ないことである。
- (2) 間違って袋に入っていた銀でさえも返しに来た。
- (3) 犯人がいたら殺してください。残りの者は奴隷となってもいい(全体責任)。
- (4) これは言い過ぎである。自分たちの無罪を強く主張するため。

4. 執事の返事

- (1) 「お前たちの言う通りにしよう」(Let it be.)
- (2) 自己申告した刑罰を軽減する。
- (3) 犯人だけが私の奴隷となる(ヨセフの代弁者)。
- (4) 他の者は無罪となる。

5. 袋の吟味

- (1) 年長の者から調べ始めて、年下の者で終わった(食卓の席順を見ていた)。
- (2) 緊張感を高めるため
- (3) 杯はベニヤミンの袋から見つかった(執事は自分で隠したので知っていた)。

6. 彼らの反応

- (1) 着物を引き裂いた。
 - ① 驚がく、悲しみ、絶望、などの表現
 - ② 中近東の人々の習慣。エジプト人もこれを行った。
- (2) ロバに荷を負わせて町に引き返した。
 - ① ベニヤミンの身に起こることを心配している。
 - ② ベニヤミンを残して父のもとに帰ることはできない。

7. 家で待っているヨセフ

- (1) ヨセフは兄弟たちが帰って来るのを知っていた。
- (2) 「ユダと兄弟たち」となっている。
 - ① ユダが指導的地位に立っている。
 - ② ユダがベニヤミンの保証人となっている。
- (3) 彼らは、敬意を表するためではなく、権威者の憐みを求めて顔を地に伏せた。
 - ① 僕として。
 - ② 夢の成就。「私たちを支配しようとでも言うのか」。
- (4) 「あなたがたのこのしわざは何事ですか。わたしのような人は、必ず占い当てることを知らないのですか」(口語訳)

8. ユダの回答

- (1) 申し開き是不可能的。物証がある。
- (2) 神がしもべどもの咎をあばかれた(ヨセフを奴隷に売ったこと)。
- (3) 杯を持っているのを見つけた者を含めて全員が奴隷となる。

9. ヨセフの判決

- (1) 犯人だけが奴隷となればよい。
- (2) ほかの者は安心して父のもとに帰れ。
 - ① お前たちに罪はないのだから、安心して帰れ。
 - ② 故郷には自分の家族がおり、自分の家畜がいて、平穏な生活が待っている。
- (3) 兄たちがベニヤミンを見捨てて故郷に帰るかどうかをテストしている。

II. テストに合格した兄たち(44:18～34)

1. ユダが兄弟たちを代表して執りなしを行う。
 - (1) エジプトの宰相に近付いている。
 - (2) 勇気を奮った行為である。

(3) 対話ではなく、途切れることのない一方的な執りなしである。

① 時間と動きが止まったような雰囲気

2. 執りなしの内容

(1) 反論のない執りなし

① 義の主張はしていない。

② ただただ、権威ある者の憐みにすがっている。

③ 自分はあなたのしもべである。

④ あなたは、パロのようなお方である。

⑤ 神の前に立つ時の私たちの態度はかくあるべき。

(2) ベニヤミンに対する憐みをかきたてる執りなし

① あなたの要請により、末の弟を連れてきた。

② 最初父は、末の弟を送ることを躊躇した。

③ 私たちは、末の弟を連れて行かないと、大変なことになると告げた。

④ 父は、「妻が産んだ2人の子のひとり死んだ。もうひとりも死んだなら、あなたがたは、しらが頭の私を苦しみながらよみに下らせることになる」と言った。

(3) 父を案じる執りなし

① 末の弟がいなくて見たら、父は死んでしまう。

② 「あなたのしもべでしらが頭の父」。夢の成就。

③ しもべどもが父の死の原因を作ることになる。

(4) 捨て身の執りなし

① 自分は、末の弟の保証人となっている。

② 自分が奴隷となるので、あの子を帰らせて欲しい。

* ベニヤミンよりも自分の方が体力がある。

* ヨセフにとっても悪い提案ではない。

③ 父に起こるわざわざを見たくない。

3. A+の内容

(1) かつてヨセフを奴隷に売った首謀者であるユダが変化した。

(2) ベニヤミンを見捨てて、自分は助かろうとはしなかった。

(3) ベニヤミンを救うために、自分が身代わりとなるという提案をした。

Ⅲ. 自分の身を明かすヨセフ (45：1～15) (章が変わるのは残念なこと)

1. これ以上演技ができなくなる。
 - (1) 自分を制することができない。
 - (2) エジプト人は誰もいなくなった。
 - (3) 大声を上げて泣いたので、パロの家の者もそれを聞いた。
 - (4) ヨセフの家はパロの宮廷に近かった。
2. ヨセフの答え
 - (1) 44：18～34に及ぶユダの執りなしの言葉に対する答え
 - (2) 「私はヨセフです」「I am Joseph.」「アニ・ヨセフ(2語)」
 - (3) 「父上はお元気ですか」(父が健在なのは嬉しいことだ)
3. 兄弟たちは答えることができなかった。
 - (1) 復活したヨセフを目撃した。
 - (2) 自分たちの罪を思い出した。
 - (3) ヨセフの復讐を恐れた。
4. ヨセフの招き
 - (1) 「どうか私に近寄ってください」
 - ① 兄弟関係に戻る。
 - (2) 「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです」
 - ① 本当にヨセフであることの念を押している。
 - (3) 「今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです」
 - ① 神の計画の中で人間が演じる役割がある。
 - ② 神の御心は必ず成る。
 - ③ ヤコブの一家がエジプトで生き延びるのが神の御心である。
 - (4) ききんはまだ5年続く。
 - (5) 父にこれを伝え、すぐにエジプトに移住するように。
 - ① 場所はゴシェンの地。
 - ② 都に近く、羊を飼うには最適な地。
 - (6) ベニヤミンも自分の目でしかと見るように。
 - ① ベニヤミンの言うことなら、父も信じるだろう。
5. 口づけ
 - (1) ベニヤミンとは再会の抱擁と口づけ
 - (2) 兄たちとは和解の抱擁と口づけ

結論：ユダとヨセフを通して、キリストを新しく発見する。

1. ユダの捨て身の祈り

(1) イエスの十字架の祈りが響いてくる。

① カルトの教祖：俺は生きるから、お前は死ぬ。

② イエスの祈り：わたしは死ぬから、お前が生きるように。

(2) ユダの高潔な性質を見よ。

「ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ、あなたの手は敵のうなじの上にあり、あなたの父の子らはあなたを伏し拝む」(創49：8)

① ユダとは、「神をたたえる」、「兄弟たちからたたえられる」の意味。

② 12部族の中で優位に立つ。

③ ヨセフは長子の権利を得たが、ユダはメシアを生み出す家系になる。

2. ヨセフの自己開示

(1) ヨセフを奴隷に売った兄たちの前に、救出者として立つ。

(2) 兄たちの驚愕と涙

(3) ゼカ12：10の預言

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く」

(4) ロマ11：25～26

(例話) メシアニック・ジュー12人の証しを撮影してきた。

イエスが直接姿を現したという証が多い。

個人的レベルで起こっていることが、民族的レベルで起こる。

(5) 異邦人である私たちにも、主イエスの顕現があるように。

【創世記 58】 創世記 45 章 16 節～ 28 節

「パロからの招待」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフは、ヤコブの一家がエジプトに下るための架け橋となった。
 - (2) ヨセフと兄弟たちの和解が実現した。
 - (3) 次に、カナンの地に住むヤコブの一家のエジプト移住が実行に移される。
2. この時点でのヨセフの心理状態
 - (1) パロはどう反応するだろうか。
 - (2) 兄たちは、優先順位を間違えないだろうか。
 - ① 仲良くするだろうか。
 - ② 脱落する者は出ないか。
 - (3) 父ヤコブは納得してエジプトに下って来るだろうか。
 - ① 兄たちの報告を信じるだろうか。
 - ② 家系の中には、エジプトに下ることへの嫌悪感がある。
3. メッセージのアウトライン
 - (1) パロからの招待 (45：16～20)
 - (2) 兄たちを送り返すヨセフ (45：21～24)
 - (3) 元気を取り戻すヤコブ (45：25～28)
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) ヨセフの働きとキリストの働き
 - (2) ヤコブの姿とクリスチャンの姿

このメッセージは、ヨセフの働きとヤコブの決断を通して、クリスチャン生活の本質を学ぼうとするものである。

I. パロからの招待 (45：16～20)

1. パロへの報告
 - (1) 「ヨセフの兄弟たちが来た」
 - ① エジプト名はツァフェナテ・パネアハ (41：45)。
 - ② パロからもらった名である。
 - ③ ここでは、ヘブル人読者のために、ヨセフとなっている。

- (2) 伝えたのは、パロの家臣か。
- (3) パロと家臣は、喜んだ。
 - ① ヒクソク王朝だから起こったこと(セム系の王朝)
 - ② ヨセフを敬愛していた。
 - ③ ヨセフに恩返しができる。
 - ④ 奴隷ではなく、カナンの地の立派な家系の息子である。

2. ヨセフに対するパロの命令(1)

- (1) 兄弟たちは、ろばに荷を積んで、すぐにカナンの地に行け。
 - ① 道中の食糧
 - ② カナンの地にいる家族への食糧
- (2) 父と家族を連れて、できるだけ早く、私のもとに來い。
- (3) エジプトの最良の地を与える。
 - ① 最も肥沃な地
 - ② ゴシェンに地であることが後に分かる。
- (4) エジプトの最良の産物を与える。
 - ① 最良の小麦や果物(コシヒカリを食べさせる)
 - ② 最良の肉(松坂牛を食べさせる)

3. ヨセフに対するパロの命令(2)

- (1) 彼らに命じなさい。あなたは宰相なのだから。
- (2) エジプトから車を持ち出せ(牛車か)。
 - ① 通常は禁止されていたと思われる。
 - ② 子どもたちと妻たちのために
 - ③ 車は複数。必要なだけ。
- (3) あなたがたの父を乗せて來なさい。
- (4) 家財に未練を残さないように。
 - ① 道中が大変だ。
 - ② エジプトにはより良いものがある。
 - ③ それがみな、あなたがたのものである。

4. ヨセフとイエスの相関関係

- (1) エジプトは神に敵対する国として、象徴的に描かれる。ここではその逆である。
- (2) とともに良い場所を備えるために去り、用意が出来たら迎えに來る。
 - ① ヨハ 14:2
 - ② ヨハ 14:3

- (3) 所有している富は、その場に置いていくしかない。
 - ① 肉体も置いていく。
 - ② 地上のものは、すべて朽ちるもの。
- (4) 新しい場所には、より素晴らしい富が用意されている。
(例話) 海外生活での経験。物にとらわれない生活の体験。
(例話) 母親の介護の体験。

II. 兄たちを送り返すヨセフ (45:21 ~ 24)

1. パロの命令の実行

- (1) ヨセフは兄たちに、車と食糧を与えた。
- (2) 晴れ着をめいめいに与えた。
 - ① 着替え用に2着
 - ② 兄たちへの敬愛
 - ③ ヨセフの権勢を、家族に伝えるため。
 - ④ エジプトにきたなら、このようなものが用意されているという意味
- (3) ベニヤミンを特別扱い
 - ① 同じ母から生まれた兄弟
 - ② 銀300枚
 - ③ 晴れ着5着
- (4) 父への贈り物
 - ① エジプトの最良の物を積んだ10頭のろば
 - ② 穀物とパンと父の道中の食糧を積んだ10頭の雌ろば

2. 兄たちへの忠告

- (1) 「途中で言い争わないでください」
 - ① ヨセフを売ったことに関して
 - ② お互いを責め合い、憎しみの感情を育てるようなことをしない。
- (2) 優先順位を考えなさい。
 - ① 父を連れてエジプトに移住することが最優先されるべき。
- (3) ヨセフの言葉とキリストのことば
「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハ 13:34)
 - ① 同じ父の息子たちである。
 - ② 同じヨセフが共通の兄弟である。
 - ③ 同じ罪人である。

- ④ 同じ赦しを受けた。
- ⑤ 同じ場所に移住しようとしている。

Ⅲ. 元気を取り戻すヤコブ (45:25～28)

1. エジプトの産物を満載したロバと雌ろば、それに多数の車とともに帰還。
2. 兄たちの報告
 - (1) エジプトで起こったことの報告
 - (2) ヨセフは生きている。
 - (3) エジプトの支配者になっている。
3. ヤコブの反応
 - (1) シメオンとベニヤミンの帰還で満足している。
 - (2) それ以上の良き知らせを聞かされた。

「父はぼんやりしていた。彼らを信じるができなかったからである」(26節)

「父は気が遠くなった」(新共同訳)

 - ① 気絶したか、しそうになったか。
 - ② ヨセフは死んだと聞かされていた。
 - ③ それが生きているとは。
 - ④ 怒りと喜びの感動が入り混じった。
 - (3) ヤコブの反応の普遍性
 - ① 悲劇や悪い知らせはすぐに信じる。
 - ② 祝福や良い知らせは信じない。
4. 再度兄たちの報告
 - (1) ヤコブが落ち着いてから、詳細に話した。
 - (2) ヨセフが話したことを残らず話して聞かせた。
 - (3) 車はその証拠
 - ① 車は高価なものであった。
 - ② ルカ 24:41

(例話) タタ・モーターズ(インド)が10万ルピー(約20万円)のナノ発売。

(例話) 昭和30年代初頭のテレビ
5. ヤコブの反応
 - (1) ヤコブは元気づいた。車を見たから。
 - (2) イスラエルへの名前の変更(28節)
 - ① 信仰に基づく判断をし始めた。

②「それで十分だ。私の子ヨセフがまだ生きているとは」

③「死なないうちに彼に会いに行こう」

6. 私たちへの教訓

(1) 死の認識

(2) 死ぬ前に為すべきことの認識

結論：ヨセフの働きとヤコブの決断を通して、クリスチャン生活の本質を学ぶ。

1. 私たちはカナンの地（地上生涯）から、エジプト（天国）に移住しようとしている。

(1) ヨセフ（イエス）が架け橋となった。

(2) 今所有している物は、持っていけない。

(3) エジプト（天国）には、より素晴らしい物がある。

2. 私たちには、寄留者として優先させるべきことがある。

(1) 愛の命令

(2) 私たちには共通した要素と体験がある。

3. 私たちは死への備えをすべきである。

【創世記 59】 創世記 46 章 1 節～ 34 節

「エジプトへの移住」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) ヨセフは父の家族をエジプトに呼び寄せた。
 - (2) いよいよ、ヤコブの一家のエジプト移住が実行に移される。
 - (3) これから創 15：13～14 が徐々に成就していく。
 - (4) 歴史の歯車が回る瞬間である。
 - ① ヤコブの子孫たちに大きな影響を与える。
 - ② 全人類の歴史に大きな影響を与える。
 - (5) 日本も今、そういう瞬間を迎えている。
2. メッセージのアウトライン
 - (1) 恐れるヤコブ (46：1～7)
 - (2) 移住者のリスト (46：8～27)
 - (3) 出迎えるヨセフ (46：28～34)
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 決断力
 - (2) 本気力
 - (3) 洞察力

このメッセージは、時代の転換期に立つ私たちが、何に注目すべきかを教えるものである。

I. 恐れるヤコブ (46：1～7)

1. いけにえを捧げた。
 - (1) ヘブロンに住んでいたのであろう。
 - (2) ベエル・シェバまで来て、いけにえを捧げた。
 - ① ベエル・シェバは、カナンの地の最南端。
 - ② 父イサクの神に捧げた。
 - ③ アブラハムはここで公の礼拝をしている (創 21：33)。
 - ④ イサクもまた、ここで礼拝をしている (創 26：25)。

2. いけにえを捧げた理由

- (1) 神への感謝(ヨセフが生きていた)
- (2) 神との和解(平安の内にエジプトに行きたい)
- (3) 神の御心を求めた(エジプトに下るのを恐れた)。

3. 恐れ理由

- (1) 自分の年齢。130歳。「彼らはまた高い所を恐れ、道でおびえる」(伝 12:5)
- (2) 息子たちの将来
 - ① エジプト文化と同化する危険性
 - ② カナンの地を忘れる危険性
- (3) エジプトでの困難な生活
 - ① アブラハムに語られた預言(創 15:13)

「あなたはこの事をよく知っていないさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう」
- (4) カナンの地を離れる危険性
 - ① アブラハムの失敗(創 12:10)
 - ② イサクは神からの警告を受けた(創 26:2)。
 - ③ ヤコブは、パダン・アラムに逃れた(創 28:1～5)。
 - ④ これまでにカナンの地を離れることについて神からの許可はない。躊躇した。

4. 神の顕現

- (1) 夜の幻の中で語りかけた。6回目の顕現。
- (2) 「ヤコブよ、ヤコブよ」
 - ① ヤコブを謙遜にさせる。
 - ② 2度読んでいるのは、親愛の情から。
- (3) ヤコブの応答は「はい。ここにいます」

5. 神の語りかけの内容

- (1) 「わたしは神、あなたの父の神である」
 - ① アブラハム契約を結んだ神
 - ② ヤコブにその契約が継承されている。
- (2) エジプトに下ることを恐れるな。
 - ① そこで、あなたを大いなる国民とする。
 - ② その成就是、出 12:37 に書かれている。

「イスラエル人はラメセスから、スコテに向かって旅立った。幼子を除いて、徒歩の壮年の男子は約六十万人」

- ③ わたし自身があなたといっしょにエジプトに下る。
- ④ わたし自身が必ずあなたを再び導き上る。
 - * ヤコブはカナンの地に葬られた。
 - * ヤコブの子孫たちは、カナンの地に導かれた。
- ⑤ ヨセフの手はあなたの目を閉じてくれるであろう(平安な死)。

6. 本当の意味での旅立ち

- (1) ベエル・シェバを発った。
 - ① 境界線を越えた。引き返せない。
 - ② 家族全員を引き連れて。

7. 決断力はどうして生まれるのか。

- (1) 御心を確信する。
 - ① ヤコブのように神の顕現を期待すべきではない。
 - ② 日々聖書を読み、祈っていると、徐々に分かって来る。
- (2) 現状に安住しない。
 - ① 慣れ親しんだ方法や組織にこだわらない。
 - ② 神からの語りかけがあれば、年齢に関係なし。

II. 移住者のリスト (46: 8～27)

- 1. ヤコブの子孫全員がエジプトに移住した。
- 2. 合計 70 人とある。
 - (1) レアの息子たち (33 人)
 - ① ルベンと 4 人の息子たち (5 人)
 - ② シメオンと 6 人の息子たち (7 人)
 - ③ レビと 3 人の息子たち (4 人)
 - ④ ユダと 3 人の息子たち、2 人の孫たち (6 人)
 - * エルとオナンはすでに死んでいた。
 - * ペレツの子は、ヘツロンとハムルであった(エジプトで誕生する)。
 - * メシアの家系は、ユダーペレツ―ヘツロンとつながる。
 - ⑤ イッサカルと 4 人の息子たち (5 人)
 - ⑥ ゼブルンと 3 人の息子たち (4 人)
 - ⑦ 以上で 31 人となる。それにヤコブとディナを加えると 33 人となる。

- (2) レアの女奴隷ジルパの子ら (16 人)
 - ① ガドと 7 人の息子たち (8 人)
 - ② アシェルと 4 人の息子たち、娘セラフ、2 人の孫たち (8 人)
- (3) ラケルの子ら (14 人)
 - ① ヨセフと 2 人の息子たち (3 人)
 - ② ベニヤミンと 10 人の息子たち (11 人)
- (4) ラケルの女奴隷ビルハの子ら (7 人)
 - ① ダンと 1 人の息子 (2 人)
 - ② ナフタリと 4 人の息子たち (5 人)

3. 合計 66 人ともある。

- (1) その場合は、70 人からヤコブ、ヨセフ、マナセ、エフライムを除く。
- (2) 以上は、ヤコブと血縁関係にある者たち。

4. 使徒 7 : 14 には 75 人とある。

「そこで、ヨセフは人をやって、父ヤコブと七十五人の全親族を呼び寄せました」

- (1) 70 人訳聖書を見ると、創 46 : 27、出 1 : 5 には、75 人とある。
- (2) ヨセフの孫 5 人を足した数字である (I 歴 7 : 14 ~ 27)。

5. 実際に移住した人数は、3 百人前後であろう。

- (1) 良いものに向かって背水の陣で進む。
- (2) 約束の地を信仰によって離れる。
- (3) ここに本気力がある。

III. 出迎えるヨセフ (46 : 28 ~ 34)

1. ユダが先に派遣される。

- (1) ユダの優位性
- (2) ヨセフに到着を伝えるために

2. ヨセフがゴシェンの地で父を迎える。

- (1) 戦車に乗って
- (2) 感動的な再会
 - ① 22 年ぶりの再会
 - ② ルカ 15 : 20 では、父が放蕩息子に走り寄った。
 - ③ ここでは、孝行息子が父に走り寄った。
- (3) ヤコブは、今死んでもよいと言ったが、さらに 17 年間エジプトで生きる。

3. ヨセフの助言

- (1) 羊飼いという職業を強調せよ。
- (2) エジプトは羊飼いを忌み嫌っている。
- (3) それゆえ、ゴシェンの地に住むことができる。

4. ここでの洞察力とは何か。

- (1) アブラハム以来の民族の歴史の文脈を見る目
- (2) 将来を見通す目
 - ① エジプトは寄留の地
 - ② 必ずカナンの地に帰還する。
- (3) 自らの役割を見る目
 - ① エジプト文明からの隔離
 - ② 同族内での結婚
 - ③ 人口の増加

結論:このメッセージは、時代の転換期に立つ人が、何に注目すべきかを教えるものである。

1. 決断力

- (1) 固定概念にとらわれない。
- (2) 神の御心の確認。

2. 本気力

- (1) アブラハムがイサクを捧げた時の決意
- (2) リーダーに求められるのは、この姿勢である。

3. 洞察力

- (1) どういう視点から、この国の将来像を描くのか。政治か、経済か。
- (2) 最も重要なのは、神の国の視点から、日本の将来像を描くこと。

【創世記 60】 創世記 47 章 1 節～ 31 節

「ゴシェンの地への定住」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) ヤコブの一家がエジプトに移住した。
 - (2) ボーダーラインを越えた時には、洞察力が必要。
 - (3) パロとの会見で今後の運命が決まる。
 - (4) 一家の移住は、ききんの2年目に起こった。
 - (5) 創 47：13 は、ききんの最初に戻っている。
2. メッセージのアウトライン
 - (1) ヨセフの洞察力 (47：1～12)
 - (2) ヨセフのビジネス倫理 (47：13～26)
 - (3) ヤコブの信仰 (47：27～31)
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 寄留者としての自己認識
 - (2) 寄留者の実生活
 - (3) 寄留者の目指す地

このメッセージは、寄留者がいかに生きるべきかを教えるものである。

I. ヨセフの洞察力 (47：1～12)

1. パロの許可なしには何もしない。
 - (1) すでにパロはヨセフの家族の移住を歓迎していた。
2. 兄弟5人をパロに紹介した。
 - (1) 年齢順か、見かけによる選びか？
 - (2) いずれにしても、5人が一家を代表した。
3. 羊飼いという職業の強調
 - (1) ヨセフは、パロが最初に職業について尋ねることを知っていた。
 - ① 勤勉でない寄留者は、居候となり迷惑。
 - ② ヨセフのように有能な人物がいれば採用したい。
 - (2) 兄弟たちの回答
 - ① 先祖の時代から羊飼いである。

②「この地に寄留しようとしてまいりました」

* 寄留者としての自己認識

* いつか、カナンの地に帰還するとの決意

③「ゴシェンの地に住まわせてください」

* エジプト文化からの隔離

(3) パロの裁定

① ゴシェンの地に住むようにせよ。

② 有能な者がいたら、家畜の管理を任せる。

4. 父ヤコブを紹介

(1) すべてが決着してから父を紹介している。

(2) 「ヤコブはパロにあいさつした」(祝福した)。

① 地上の権威と神の国の権威の対比

② 上位の者が下位の者を祝福するのである。

5. パロの質問

(1) エジプトでは長寿は珍しい。

(2) ヤコブの外見は、エジプトでは見かけないような高齢。

6. ヤコブの答え

(1) 「わたしの旅路の年月は 130 年です」(新共同訳)

① 寄留者としての自己認識

(2) 「わたしの生涯の年月は短く、苦しみ多く」(新共同訳)

① 永遠の視点から見ると、わずかな年月である。

② 「苦しみ多く」と「ふしあわせ」とは違う。

* 兄との葛藤

* 伯父のラバンとの葛藤

* 愛妻を若くしてなくす

* ヨセフの死

* ベニヤミンを手放す決心

③ 苦しみは、わずかな年月しか続かない。

* ロマ 8 : 18

(3) 去る時も、パロを祝福している。

7. 洞察力の結果

(1) ラメセスの地を所有

① ゴシェンの地の中でも最良の場所

- (2) ヨセフは全家族を養った。

II. ヨセフのビジネス倫理（47：13～26）

1. 激しいききん

- (1) 全地に食物がなくなった。

① エジプトの地

② カナンの地

- (2) ヤコブ一家がエジプトに買い出しに来た背景がこれである。

- (3) 暴動からエジプトを救ったのは、ヨセフの功績である。

（例話）日本の米騒動

1890年富山県富山市から始まり、19か所で騒動が発生した。

1897年富山県魚津町から始まり、10か所で。

1918年（大正7年）日本史上最大規模の民衆暴動

第一次大戦後のインフレ（米価4倍）

富山県魚津の漁村の主婦たちが米の他県への移出を阻止。

第4期まで続く。参加人員は数百万人規模。

10万人以上の軍隊が出動。

寺内内閣が退陣し、原敬（たかし）内閣が誕生（政党内閣）

- (4) ヨセフは、パロの利益を守りつつ、民衆に正義を行った。

2. 貨幣の回収

- (1) 豊作の7年間に、穀物を購入し、貯蔵していた。

- (2) その穀物を、利益を乗せた価格で売却した。

① 諸経費、人件費を上乗せ。

② 適度な利益を上乗せ。

③ 民衆の側に不満はない。

- (3) 集まった銀をパロの口座に入れた。

① アカウンタビリティ

② 次のステップに備えて財政基盤を充実させた。

3. 家畜の所有

- (1) 6年目のことであろう。

① 穀物を買う貨幣がない状態

- (2) 「どうして私たちがあなたさまの前に死んでよいでしょう」

① ヨセフに力があることを認めている。

② ヨセフに憐みの心があることを認めている。

「あなたさまは、わたしどもを見殺しになさるおつもりですか」(新共同訳)

(3) ヨセフは物々交換を提案した。

① パロと民衆の間に立つ苦労がある。

② 家畜を所有していても、見殺しにするだけ。

③ 民衆は喜んでその提案を受け入れた。

(4) エジプト中の馬、羊の群れ、牛の群れ、ろば、などがパロのものとなった。

4. 土地の所有

(1) 7年目のことであろう。

(2) 民衆からの提案

① 銀と家畜は尽きた。

② からだと農地しか残っていない。

③ 農地を買って欲しい。

④ 自分たちは奴隷となる。

⑤ 種を下さい(ききんが7年で終わることを知っていた)。

⑥ 自分たちは死ななくてもいいし、土地も荒れない。

(3) エジプトの全農地がパロのものとなった。

① ヨセフは不道德なことをしているわけではない。

② 民衆の苦境を助けつつ、パロの財産を増やしている。

(4) 例外は、祭司たちの土地

5. 農地改革(封建制の確立)

(1) 人口移動

① 所有権の放棄を確定づけた。

② ヘブル人と同じように寄留者とさせる。

(2) 小作契約

① 農地と種の供与

② 5分の1は税

③ 5分の4は彼らの取り分

* その中から、次年度の種を確保する。

* 残りは生活のために用いる。

(3) この政策はそれ以降も続いた。「これは今日に及んでいる」

① モーセがこの書を書いた時代まで。

② 出エジプト時代のパロは、ヨセフのことを知らなかったが恩恵を受けていた。

Ⅲ. ヤコブの信仰 (47:27 ~ 31)

1. 17年後

- (1) イスラエルの民の人口増加
 - ① 出1:7につながる。
- (2) ヤコブは147歳となり、死期が近づく。

2. ヨセフへの遺言

- (1) 契約の形を取っている。
 - ① ももの下に手を入れる。
 - ② 創24:2 アブラハムとエリエゼルの契約
- (2) 「先祖たちとともに眠りにつく」
 - ① 死後の命の確信
 - ② 死は眠りである。
- (3) 「先祖たちの墓に葬ってくれ」

3. 合意

- (1) ヨセフは父に誓った。
- (2) イスラエルは「床に寝たまま、おじぎをした」
- (3) 神を礼拝したという意味。

結論：このメッセージは、寄留者がいかに生きるべきかを教えるものである。

1. ヨセフの洞察力 (寄留者としての自己認識)

- (1) アブラハム以来の民族の歴史の文脈を見る目
- (2) 将来を見通す目
 - ① エジプトは寄留の地
 - ② 必ずカナン之地に帰還する。
- (3) 自らの役割を見る目

2. ヨセフのビジネス倫理 (寄留者の実生活)

- (1) 無私の心 (アカウンタビリティ)
- (2) ウイン-ウインの関係を作ろうとする。
- (3) 憐みの心を示す。

3. ヤコブの信仰 (寄留者の目指す地)

- (1) 寄留者であることの表明
- (2) 子孫の将来はカナン之地にしかないことを教える。
- (3) カナン之地はより優れた都の雛型である。
 - ① へブ11:16

【創世記61】 創世記48章1節～22節

「祝福を受けるマナセとエフライム」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) エジプトに移住してからヤコブは17年間生きる。
 - (2) ヤコブの死期が近づいてきた。
 - (3) ヤコブは、息子たちがエジプトで一大民族となることを知っている。
 - (4) 息子たちの将来を預言する。
 - ① 48章はヨセフの将来の預言
 - ② 49章は12部族全体の預言
2. メッセージのアウトライン
 - (1) ヤコブを見舞うヨセフ(48：1～7)
 - (2) ヨセフの2人の息子を祝福するヤコブ(48：8～16)
 - (3) 口をはさむヨセフ(48：17～20)
 - (4) 出エジプトを預言するヤコブ(48：21～22)
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

神の真理は、人間にとって非常識と思える。

 - (1) 老年の輝きという祝福
 - (2) 資格のない者が養子になる祝福
 - (3) 後の者が先になる祝福

このメッセージは、クリスチャンライフの本質を教えようとするものである。

I. ヤコブを見舞うヨセフ(48：1～7)

1. エジプトに移住してから17年後のこと
 - (1) 世界の歴史を動かすような役割は終わった。
 - (2) ヤコブにとっては、人生をクールダウンする最良の17年間であった。
 - (3) 自らの人生を振り返り、神の祝福に感謝する日々がやって来た。
2. 「あなたの父上は病気です」
 - (1) 死の予感がある。
 - (2) ヨセフは父ヤコブの最期を見届けるために出かけて行く。
 - ① 親孝行をするために。

- ② 息子たちに、人生とはなんたるかを学ばせるために。
- ③ 息子たちがヤコブからの祝福を受けるために。
- (3) 当時、マナセとエフライムは、20歳前後になっていた。
 - ① 彼らは、ききんが来る前にエジプトで生まれていた(創 41:50)。

3. ヤコブの対応

- (1) 「イスラエルは力をふりしぼって床(あるいは杖)にすわった」
 - ① 霊的、肉体的力をふりしぼった。
 - ② 臨終の床で彼らに霊的教訓を与えるために。
- (2) アブラハム契約の再確認
 - ① 「全能の神がカナンの地ルズで私に現れ」
 - * ルズとはベテルのこと。
 - * カナンの地を去る時(28:11～19)
 - * カナンの地に入る時(35:6～12)
 - ② 「私を祝福して、私に仰せられた」
 - * 祝福の約束
 - * 子孫の約束
 - * 土地の約束
- (3) 養子縁組
 - ① ヨセフのふたりの子は、ヤコブの息子となる。
 - ② 「エフライムとマナセは、ルベンやシメオンと同じように私の子にする」
 - * ルベンは長男、シメオンは次男である。
 - * 長子の権は、ヨセフ族に移行する。
 - * ヨセフ族から2つの部族が誕生する。
 - ③ 「しかしあとからあなたに生まれる子どもたちはあなたのものになる」
 - * 彼らは、エフライム族かマナセ族の下で土地を所有するようになる。
 - * 実際は、それ以降ヨセフに子どもは生まれなかった。
- (4) 養子縁組の理由
 - ① 愛妻ラケルの早すぎる死
 - ② ラケルから生まれた息子は、ヨセフとベニヤミンの2人。
 - ③ この養子縁組によって、それが3人となる。

II. ヨセフの2人の息子を祝福するヤコブ(48:8～16)

- 1. ヤコブの目はかすんでいた。
 - (1) ヨセフとともに2人いることに気づいていたが、誰であるかは分からなかった。

(2) ヨセフの息子たちだと分かったら、そばに来るように命じた。

① 通常の父親の祝福ではない。

② 族長からの祝福を与えようとした。

③ 神の霊に動かされた預言者としての言葉を語ろうとした。

(3) ヤコブは彼ら(孫から息子になった2人)に口づけし、彼らを抱いた。

2. 神の恵みの回顧

(1) ヨセフを再会できたことは奇跡である。

(2) ましてや、ヨセフの息子たちを見られたことはそれ以上の奇跡である。

3. ヨセフは父に敬意を表した。

4. 2人の息子の祝福

(1) ヨセフは、エフライムを自分の右に、マナセを自分の左に立たせた。

① 父から見ると、エフライムは左に、マナセは右に立った。

② 右手が左手に優先するから、長子マナセを右に立たせるのは当然のこと。

(2) ヤコブは手を交差して、右手をエフライムの上に置いた。

① 「ヨセフを祝福して言った」

(3) 契約の神の御名による祝福

① アブラハムとイサクの神

② 私の羊飼いであられた神(父なる神)

③ すべてのわざわいから私を贖われた御使い

* 第2位格の神

* 受肉前のメシア

* 「贖われた」はヘブル語で「ゴエル」。「贖い主」のこと。

* 旧約聖書で初めてこの言葉が出てくる。創世記ではここだけ。

* 買い戻しの権利がある者のこと。

(4) 祝福の内容

① 霊的、物質的祝福

② アブラハム、イサク、ヤコブの名が唱えられるように。

* 養子となったしるしである。

③ その数が増えるように。

III. 口をはさむヨセフ(48:17～20)

1. 目がかすんでいるので、父が間違いを犯したと思い込む。

「父上。そうではありません。こちらが長子なので、あなたの右の手を、こちらの頭に置いてください」

2. ヤコブの応答

「わかっている。わが子よ。私にはわかっている。彼もまた一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々を満たすほど多くなるであろう」

(1) 弟のエフライムを兄のマナセよりも優先させた。

(2) 後にエフライムは、北の10部族を統合する存在となる。

① 預言者たちは、北の10部族をエフライムと呼ぶようになる。

(3) マナセは、ヨルダン川をはさんで、2つの半部族に分かれる。

3. ヤコブの祝福 (20 節)

「あなたによって／イスラエルは人を祝福して言うであろう。『どうか、神があなたを／エフライムとマナセのように／してくださるように』」

(1) イスラエル人が誰かを祝福する時のきまり文句になる。

(2) 「あなたによって」とは、「ヨセフの息子たちの名によって」という意味である。

(3) 今日でも、イスラエル人はこの言い方子どもたちを祝福する。

① 男子の場合、「神があなたをエフライムとマナセのようにしてくださるように」。

② 女子の場合、「神があなたをサラとリベカのようにしてくださるように」

(4) これは、預言的行為である。ヘブ 11:21

IV. 出エジプトを預言するヤコブ (48:21～22)

1. 神はヤコブの子孫たちを約束の地に連れ戻して下さる。

2. ヨセフにシェケムが約束された。

(1) そこはマナセ族の所有地となる。

(2) 「剣と弓をもってエモリ人の手から取った」

① シメオンとレビの蛮行か？

② ヤコブ自身が戦い取ったものか？

③ あるいは、将来、出エジプトの時代に起こることの預言か？

(3) ヨハ 4:5～6 「それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に來られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は第六時ごろであった」

結論：このメッセージは、クリスチャンライフの本質を教えようとするものである。

1. 老年の輝きという祝福

(1) 人生をクールダウンする 17 年間

(2) 靈的洞察力の深まり

- ① ヨセフの息子たちの将来を預言した。
- ② 夢見る人ヨセフをはるかにしのぐ洞察力である。
- (3) 若い頃から神とともに歩む祝福と必要性。

2. 資格のない者が養子になるという祝福

(1) 放蕩息子のたとえ話

- ① 兄はユダヤ人で弟は異邦人という解説は、間違っている。
 - ② 兄も弟もともにユダヤ人である。
 - ③ 異邦人は、マタ 22：8 に出てくる人たちである。
「だから、大通りに行って、出会った者をみな宴会に招きなさい」
 - ④ 礼服を着ている必要がある。
- (2) ロマ 8：15 「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、『アバ、父』と呼びます」

(3) ロマ 8：17

- ① キリストとの共同相続人である。
- ② 体の贖われることを待ち望んでいる。
- ③ この望みによって救われている。

3. 後の者が先になるという祝福

(1) 旧約聖書の原則

- ① アベルとカイン
- ② アブラハムとナホル、ハラン
- ③ イサクとイシュマエル
- ④ ヤコブとエサウ
- ⑤ ヨセフとルベン
- ⑥ エフライムとマナセ
- ⑦ モーセとアロン
- ⑧ ダビデと兄たち

(2) マタ 19：30

(3) ロマ 11：17～18

- ① ユダヤ人の救いに先行する異邦人の救い
- ② 神の恵みに対する感謝
- ③ ユダヤ人の救いの確実性

【創世記 62】 創世記 49 章 1 節～7 節

「ルベン、シメオン、レビの将来」

イントロ：

1. 文脈を確認する。

- (1) エジプトに移住してからヤコブは 17 年間生きる。
- (2) ヤコブの死期が近づいてきた。
- (3) ヤコブは、息子たちの将来を預言する。
 - ① 48 章はヨセフの将来の預言（マナセとエフライムを養子に迎えた）
 - ② 49 章は 12 部族全体の預言

2. きょうの箇所

- (1) ヤコブの臨終の床での息子たちへの祝福である。
 - ① 彼はこの時まで、この祝福を語るのを待った。
 - ② 息子たちにインパクトを与えるため。
 - ③ 通常の族長の祝福とは異なり、預言となっている。
- (2) これを同じような預言が 2 つある。
 - ① 創 9：25～27 でノアが息子たち（セム、ハム、ヤベテ）について預言している。
 - ② 申 33 章でモーセが 12 部族について預言している。
- (3) この預言は聖霊によるものである。
 - ① 射程距離が長い。
 - ② 12 人の息子たちは偉大であったが、12 部族はさらに偉大な部族となる。
 - ③ 黙 21：12 「都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった」
 - ④ 各部族にとって生活のガイドラインになる。
- (4) 預言の内容は 2 つである。
 - ① 土地の分割
 - ② メシアの家系

3. メッセージのアウトライン

- (1) 預言が語られた状況（49：1～2）
- (2) ルベン（49：3～4）
- (3) シメオンとレビ（49：5～7）

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 契約の神の守り
- (2) 相続財産の約束
- (3) 人生の本質

このメッセージは、人生のガイドラインを考えるためのものである。

I. 預言が語られた状況 (49: 1～2)

1. 死を前にして、ヤコブは息子たちを呼び寄せた。

- (1) いかに生きるかを教えてきたヤコブは、いかに死ぬかを教えようとしている。
(例話) ビリー・グラハムとアンの対話
- (2) 父よりも先に死んだ息子はいなかったので、ヤコブは幸せであった。

2. ヤコブの願い

- (1) ひとつの民族として結束することを決心させる。
- (2) カナンの地に帰還することを確信させる。
- (3) エジプトと同化することの危険性を理解させる。

3. 預言の内容の要約

- 「私は終わりの日に、あなたがたに起こることを告げよう」
「わたしは後の日にお前たちに起こることを語っておきたい」(新共同訳)
- (1) 預言的な文脈では、「将来の遠い日」のこと。
 - (2) ユダヤ教のラビたちの解釈は、伝統的に「メシア待望」である。
 - (3) 12人の息子ではなく、その子孫たちに関係する内容である。
 - (4) 12人の息子の性格が、多かれ少なかれその部族の特徴となっていく。

4. この預言の重要性

- 「ヤコブの子らよ。集まって聞け。あなたがたの父イスラエルに聞け」
- (1) ヘブル文学の対句法
 - (2) 1行目と2行目が対になっている。

II. ルベン (49: 3～4)

1. どんでん返し

- (1) 祝福がクライマックスに向かって積み上がって行く。
- (2) 次に、呪いがやって来る。

2. 祝福がクライマックスへ

(1) 「ルベンよ。あなたはわが長子。わが力、わが力の初めの実」

- ① これはすべて長子を指す用語である。
- ② ルベンはヤコブの体から出た最初の息子であった。

(2) 「すぐれた威厳とすぐれた力のある者」

- ① 長子の優位性、卓越性を示す用語である。
- ② ルベンは長子としての祝福と特権を持っていた。

3. 次に、呪いが

(1) 「だが、水のように奔放なので」

- ① 水のように不安定
- ② 理性的ではなく、欲情によって動くという性質
- ③ 意思が弱く、自分を管理できないという性質
- ④ 目的意識に欠けるという性質

(2) 「もはや、あなたは他をしのぐことがない」

- ① 長子の優位性、卓越性が取り去られる。

(3) I 歴 5 : 1 ~ 2 (新共同訳)

「イスラエルの長男ルベンの子孫について。ルベンは長男であったが、父の寝床を汚したので、長子の権利を同じイスラエルの子ヨセフの子孫に譲らねばならなかった。そのため彼は長男として登録されてはいない。彼の兄弟の中で最も勢力があったのはユダで、指導者もその子孫から出たが、長子の権利を得たのはヨセフである」

- ① 狭義の長子の権利はヨセフ族に移行した。2部族が誕生した。
- ② 優位性、卓越性はユダ族に移行した。メシアが誕生する家系となった。

4. 呪いの理由

「あなたは父の床に上り、そのとき、あなたは汚したのだ。―彼は私の寝床に上った―」

- (1) 創 35 : 22 ビルハと寝た。
- (2) ルベンは悔い改めたとされる理由は十分ある。
- (3) ルベンは赦されたが、罪の刈り取りはした。

5. 預言の成就

(1) 人口調査

- ① 1回目 46,500人(民1:20~21)
- ② 2回目 43,730人(民26:5~7)

(2) 有名な指導者がひとりも出ていない。

(3) ダタンとアビラムは、モーセの権威に挑戦した(民16:1)。

- (4) ルベン族の領地は、ヨルダン川の東になった(民32章)。
- (5) 士5:15「イッサカルのつかさたちはデボラとともにいた。イッサカルはバラクと同じく歩兵とともに谷の中を突進した。ルベンの支族の間では、心の定めは大きかった」
- (6) ルベン族は、イスラエルの歴史の中で重要な役割を果たすことはなかった。

III. シメオンとレビ(49:5～7)

- 1. 土地のない部族として一括して取り上げられている。

2. 2人の関係

- (1) 「兄弟」。ともにレアから生まれた。
- (2) 暴虐を働いた共犯者(創34章)
- (3) ヤコブは彼らの行為を裁いた。
 - ① ヨシュアのカナンの地征服は、神の命令による。
 - ② シメオンとレビは、復讐のために攻撃した。

3. 罪の内容

- (1) 「彼らは怒りにまかせて人を殺し」
- (2) 「ほしいままに牛の足の筋を切ったから」
- (3) 彼らの罪から遠ざかれ。

4. 罪の結果

- (1) 「のろわれよ。彼らの激しい怒りと、彼らのはなはだしい憤りとは」
- (2) 「私は彼らをヤコブの中で分け、イスラエルの中に散らそう」
- (3) シメオン族 59,300人→22,200人
 - ① バアル・ペオルを礼拝し、姦淫の罪を犯す(民25章)。
 - ② 申33章のモーセの祝福の中には、シメオン族が出て来ない。
 - ③ シメオン族の領地はユダ族の領地の中に点在した。ヨシ19:9
「シメオン族の相続地は、ユダ族の割り当て地から取られた。それは、ユダ族の割り当て地が彼らには広すぎたので、シメオン族は彼らの相続地の中に割り当て地を持ったのである」
- (4) レビ族
 - ① 戦いに参加しないので、人口調査はなし。
 - ② 独自の領地はなく、他の部族の領地の中に点在する48の町々を持った。
 - ③ イスラエル人が奉納物として捧げる10分の1がレビ人の取り分となった。
*民18:20～24、35:1～8

結論：このメッセージは、人生のガイドラインを考えるためのものである。

1. 契約の神の守り

(1) イスラエルの民には他の国民にない神からの守りが与えられた。

(2) イスラエルの民は、「神の子」と呼ばれている(出4:22)。

「そのとき、あなたはパロに言わなければならない。【主】はこう仰せられる。『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である』」

(3) イエス・キリストは、神の長子である。

* ロマ8:28～30

2. 土地の約束の更新

(1) 具体的な土地の名称は出て来ないが、どういう土地に住むかは預言されている。

(2) キリストが長子で、私たちはその兄弟となった。

(3) キリストとの共同相続人である。

* ロマ8:15～18

3. 人生の本質

(1) 人には、自分で人生を選ぶ特権が与えられている。

(2) しかしそれは、神によって定められ、計画されている。

(3) 人生とは、バランスである。

① ヤコブのペニエルでの体験。彼は、神の計画と和解した。

② 不道德と怒りの感情を警戒する。

【創世記63】 創世記49章8節～18節

「ユダ、ゼブルン、イッサカル、ダンの将来」

イントロ：

1. 文脈を確認する。

(1) エジプトに移住してからヤコブは17年間生きた。

(2) 死を前にヤコブは、息子たちの将来を預言する。

① 創始者の性質が部族の性質となる。

(3) 預言の順番は誕生の順ではない。

① レアの3人の息子、ルベン、シメオン、レビ

② レアの残りの3人の息子、ユダ、ゼブルン、イッサカル

③ ビルハの息子、ダン

④ ジルパの2人の息子、ガド、アシェル

⑤ ビルハの息子、ナフタリ

⑥ ラケルの2人の息子、ヨセフ、ベニヤミン

(4) この預言は聖霊によるものである。

① 射程距離が長い。

② 黙21：12「都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった」

(5) 預言の内容は2つである。

① 土地の分割

② メシアの家系

2. メッセージのアウトライン

(1) ユダ (49：8～12)

(2) ゼブルン (49：13)

(3) イッサカル (49：14～15)

(4) ダン (49：16～18)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(1) 契約の神の守り

(2) 相続財産の約束

(3) 特に、「人生の本質」について考える。

このメッセージは、人生の本質を考えるためのものである。

I. ユダ (49：8～12)

1. 祝福の預言が初めて出てくる。

- (1) ルベン、シメオン、レビの場合は、呪いの言葉で終わっていた。
- (2) ユダになって初めて、祝福の言葉となる。

2. 5つの祝福

(1) 12部族の中での優位性

①「ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ」(8節)

- * 「ユダ」とは「たたえる」の意味。
- * 意識すると、「称賛よ、兄弟たちはあなたを称賛する」となる。
- * 創 29：35 でレアは、ユダのゆえに神をたたえた。
- * 神をたたえる人は、兄弟たちからたたえられるようになる。

②「あなたの父の子らはあなたを伏し拝む」(8節)

- * 民 2：9 ユダ族は 186,400 人で、群れの先頭を進む。
- * 民 10：14 荒野での行進で、先頭に立つ。
- * 士 1：1～2 カナン人との戦いの先鋒となる。

(2) 敵に対する勝利

①「あなたの手は敵のうなじの上にあり」(8節)

- * IIサム 22：41 ダビデの歌
- * 詩 18：40 同様の歌

(3) 最強の部族

①ライオンのイメージでその力が描かれている。

- * 獲物に襲いかかる力
- * 平安の内に伏す堂々たる姿
- (例話) 優勝を決めてガッツポーズをする朝青龍

②異邦人の預言者バラムの預言。民 24：9

(例話) アリエル・ミニストリーズのアリエルは「神のライオン」の意味。

(4) 王権

「つえはユダを離れず、／立法者のつえはその足の間を離れることなく、／シロの来る時までには及ぶであろう。もろもろの民は彼に従う」(10節)(口語訳)

①「つえ」とは「王権」(新改訳)、「王笏」(新共同訳)。

- * ダビデ以来、バビロン捕囚までユダに王権があった。
- * 初代王サウルは、神の計画外の人物であった。
- * 王を求める動機と、タイミングが間違っていたのである。

②「立法者のつえ」とは「統治者の杖」(新改訳)、「統治の杖」(新共同訳)

*バビロン捕囚以降、敵に統治されたが、内部の統治者はユダ族である。

③「シロの来る時までには及ぶであろう」

*「シロ」とは所有代名詞。「統治権がその人にあるお方」という意味。

*メシアの称号である。エゼ21:27参照。

*ユダ族から出たメシアによって、統治権は世襲の必要がなくなる。

④「もろもろの民は彼に従う」

*「もろもろの民」とは、異邦人諸国のことである。

*究極的な成就是、千年王国において起こる。

(5) 物質的豊かさ

①太くて大きなぶどうの木なので、ろばをつなぐことができる。

②量が多いので、良いぶどうの木に「雌ろばの子」をつないでも平気である。

*メシア預言の中に「雌ろばの子」が登場する。

③ぶどう酒の生産量が多い。

④裁き主としてのメシア。イザ63:1～6、黙14:17～20

⑤ぶどう酒と乳製品の豊かさが預言されている。

II. ゼブルン (49:13)

1. 領地は海辺になる。

(1) ゼブルン族の領地はくじで決められた。ヨシ19:10～16

(2) ヤコブの預言が聖霊によるものであることが分かる。

2. 実際の領地は海に面していない。

(1) アシエル族が海沿いの領地を得た。

(2) ナフタリ族がガリラヤ湖沿いの領地を得た。

(3) 海沿いの道(ヴィア・マリス)がゼブルンの領地を貫通していた。

① 海洋貿易による富を得る部族となる。

(4) 千年王国では部族の領地が変更される。その時にこの預言は全面的に成就する。

① エゼ48:26

3. その後のゼブルン

(1) 士5:18

「ゼブルンは、いのちをも賭して死ぬ民。野の高い所にいるナフタリも、そうである」

(2) ダビデを王に担いだ人々の中に、ゼブルン族の人々がいた。I歴12章。

(3) イザ 9：1

「しかし、苦しみのあった所に、やみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは光栄を受けた」

(4) マタ 4：13～17

① ナザレはゼブルンの地にある。

Ⅲ. イッサカル (49：14～15)

1. 長所と欠点あり。

(1) 長所：たくましい

① 民 26：25 では 64,300 人→ I 歴 7：1～5 では 87,000 人

(2) 欠点：怠惰で楽な生活を好む。

2. イッサカル族の行動の4段階

(1) 労働よりも休息が好ましい。

(2) 美しい地を与えられる。

① イズレエルの谷 ヨシ 19：17～23

② そこで農業をする。政治や戦争とは距離を置く。

(3) 指導者に従う労働者になる。

① 肉体的に強いので、重荷を担ぐことができる。

(4) カナン人に仕えるようになる。

① 楽な生活を得るために自由を犠牲にする。

Ⅳ. ダン (49：16～18)

1. ダンは「かぼう」「裁く」という意味。創 30：6にあるラケルの言葉。

(1) 士師のサムソンは、ダン族から出た。

2. ダン族は12部族の中に数えられるが、最後に登場することが多い。

(1) 民 10：25 全宿営の後衛

(2) 黙 7 12部族から救われる 144,000 人の中にはダン族の中が出ていない。

(3) ダン族が消滅することではない。千年王国に住む。エゼ 48：1～2、32。

(4) ダン族はゲリラ戦の戦士である。

3. ダン族の救いが預言される。

(1) 偶像礼拝に陥る民(金の子牛)。士 18：1～31、I 列 12：28～30

(2) イスラエルの民族的救いの中にダン族も含まれる。エゼ 48：1

結論：このメッセージは、人生の本質を考えるためのものである。

はじめに

- (1) 先週の番組収録の証し
- (2) 番組の最後のショートメッセージ

前川正が堀田綾子（当時）に語った言葉にこういうものがある。

「綾ちゃん、人間はね、一人一人に与えられた道があるんですよ…ぼくは神を信じていますからね。自分に与えられた道が最善の道だと思って感謝しているんです…」

- (3) 三浦文学の神髄は「道ありき」という言葉に要約される。

1. イエス・キリストこそ道であるという認識

- (1) ヨハ 14：6
- (2) 創 3：15 の原福音で、「女の子孫」が預言されていた。
- (3) セツ、ノア、セム、アブラハム、イサク、ヤコブ、ユダとつながってきた。

2. 自分にも道が用意されているという確信

- (1) 道であるお方を信じた結果生まれてくる確信である。

3. その道を歩けば、神の守りと祝福があるという体験

- (1) 三浦光世さんは、人生を振り返って「主の山に備えあり」とまとめられた。
- (2) 認識から確信へ、確信から体験へ、これが「道ありき」の人生である。

【創世記 64】 創世記 49 章 19 節～ 33 節

「ガド、アシェル、ナフタリ、ヨセフ、ベニヤミンの将来」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) エジプトに移住してからヤコブは 17 年間生きた。
 - (2) 死を前にヤコブは、息子たちの将来を預言する。
 - ① 創始者の性質が部族の性質となる。
 - (3) 預言の順番は誕生の順ではない。
 - ① ジルパの 2 人の息子、ガド、アシェル
 - ② ビルハの息子、ナフタリ
 - ③ ラケルの 2 人の息子、ヨセフ、ベニヤミン
 - (4) 預言の内容は 2 つである。
 - ① 土地の分割
 - ② メシアの家系（ユダ族であることが預言された）
2. メッセージのアウトライン
 - (1) ガド（49：19）
 - (2) アシェル（49：20）
 - (3) ナフタリ（49：21）
 - (4) ヨセフ（49：22～26）
 - (5) ベニヤミン（49：27）
 - (6) ヤコブの死
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 多様性と調和
 - (2) 世代を貫く目標
 - (3) 幸いな死

このメッセージは、信仰者の生き方を学ぶためのものである。

I. ガド（49：19）

1. 「ガドについては、襲う者が彼を襲うが、彼はかえって彼らのかかとを襲う」（新改訳）
 - (1) 言葉遊びがある。新改訳はうまく訳している。
 - (2) しかし、ガドは勇敢に立ち向かう。

2. ガドの領地はヨルダン川の東

- (1) モアブ人、アモン人から襲われる。
- (2) アモン人の王がガドの町々を支配した(エレ 49:1)。
- (3) ガドは勇敢な部族となる(申 33:20)。

3. 新約聖書のイメージ

- (1) クリスチャンの姿(ロマ 8:37)。

II. アシエル(49:20)

1. 「アシエルには豊かな食物があり／王の食卓に美味を供える」(新共同訳)

- (1) 物質的豊かさ(油ぎっている)。これはオリーブオイルのことである。
- (2) 王の食卓にもそれが供される。生活を維持する通常食物ではない。
- (3) 申 33:24「アシエルは子らの中で、最も祝福されている。その兄弟たちに愛され、その足を、油の中に浸すようになれ」

2. アシエルの領地は地中海沿岸沿い。

- (1) 今でもこの地は、農地として優れている。
- (2) 近年、アシエルの地に石油があると解釈する人がいるが、そうではない。

III. ナフタリ(49:21)

1. 「ナフタリは放たれた雌鹿で、美しい子鹿を産む」。あるいは、「美しいことばを出す」。

- (1) 自由に動き回る。迅速な行動。

2. ナフタリの領地は山地。

- (1) ガリラヤ湖の北の山地。
- (2) 彼らは、山地を自由に移動する勇士たちとなる。
- (3) 弁論が立つ民となる。

3. 新約聖書のイメージ

- (1) イエスの弟子たちは、そのほとんどがガリラヤ人。
- (2) 彼らはかつてのナフタリの領地出身。
- (3) 自由を求めて移動する勇士となった。
- (4) キリストの福音を伝える使者となった。

IV. ヨセフ (49:22～26)

1. 「ヨセフは実を結ぶ若枝、泉のほとりの実を結ぶ若枝、その枝は垣を越える」

- (1) 「実を結ぶ若枝」とは「豊かな実を結ぶ木の息子」。繁栄の約束。
- (2) 雨に頼らなくても、泉の水がある。
- (3) 枝は果樹園の垣を越えて広がる。

2. 過去の歩み

(1) 「弓を射る者は彼を激しく攻め、彼を射て、悩ました」

- ① 兄たちから責められた。
- ② ポティファルの妻から憎まれた。
- ③ パロの宮廷の魔術師や官吏から妬まれた。
- ④ サタンから攻撃を受けた。

(2) 「しかし、彼の弓はたるむことなく、彼の腕はすばやい」

- ① 敵の武器に対抗する武器を持っていた。信仰、誠実、正義、愛。

(3) 「これはヤコブの全能者の手により、それはイスラエルの岩なる牧者による」

- ① 彼に勝利を与えたのは、神である。
- ② 「ヤコブの全能者」：守り必要を満たす神。
- ③ 「牧者」：ヤコブの神からメシアが出現する。

* ゼカ 11 章

* ヨハ 10 章

- ④ 「イスラエルの岩」：メシアは岩として表現される。

3. 将来の祝福

(1) 「あなたを助けようとされるあなたの父の神により、また、あなたを祝福しようとする全能者によって」

- ① 「あなたの父の神」
- ② 「全能者」

(2) 3つの祝福

- ① 「上よりの天の祝福」：夏の間に降りる夜露のこと。
- ② 「下に横たわる大いなる水の祝福」：泉の水のこと。
- ③ 「乳房と胎の祝福」：子孫の祝福。

* マナセとエフライムが誕生した。

4. ヤコブの祝福を受ける者

- (1) ヤコブが神から受けた祝福は、アブラハムとイサクが受けたものよりも大きい。
- (2) ヤコブは12人の息子たちを祝福することができた。
 - ①「永遠の丘のきわみにまで及ぶ」とは、祝福の大きさを表している。
- (3) そのヤコブの祝福が、ヨセフの頭上にある。
 - ①長子の権利はヨセフに移った。

V. ベニヤミン (49:27)

- 1. 「ベニヤミンはかみ裂く狼。朝には獲物を食らい、夕には略奪したものを分ける」
 - (1) 好戦的な性格。勇士となる部族。
- 2. ベニヤミン族出身の者
 - (1) 士師のエフデ (士3:15～30)
 - (2) サウル王
 - (3) ヨナタン
 - (4) モルデカイとエステル
 - (5) 使徒パウロ (ロマ11:1～2)

VI. ヤコブの死 (49:28～33)

- 1. おおののにふさわしい祝福を与えた。
 - (1) ルベン、シメオン、レビでさえも祝福からもれることはなかった。
- 2. 死の予感と希望
 - (1) 「私は私の民に加えられようとしている」
 - ① 死後の命への希望
 - (2) 遺体の埋葬に関する指示
 - ① マクペラの墓地
 - ② アブラハムとサラが葬られている。
 - ③ イサクとリベカも葬られている。
 - ④ ヤコブはレアを葬った (ラケルは別の墓に葬られた)。
- 3. 幸いな死
 - (1) 自分の死の瞬間を選んだかのようなのである。

結論：このメッセージは、**信仰者の生き方を考えるためのものである。**

1. 多様性と調和

- (1) 12部族の多様性と調和
- (2) クリスチャンの多様性と調和（I コリ 12：12～13）
- (3) 賜物を生かして仕えあう祝福

2. 世代を貫く目標

- (1) ヤコブの子孫の将来は、エジプトではなく、カナンの地にある。
 - ① これは、世代を超えた民族の希望である。
 - ② 今日のイスラエル建国にまでつながる希望である。
- (2) 信仰の継承の土台となるのは、世代を貫く目標があるということである。

3. 幸いな死

- (1) すべての業を終えた。
- (2) 子孫の将来について確信を得た。
- (3) 死後の命の希望を見た。

【創世記 65】 創世記 50 章 1 節～ 26 節

「ヨセフの死」

イントロ：

1. 文脈を確認する。
 - (1) エジプトに移住してから 17 年後、ヤコブは死んだ。
 - (2) ヤコブの死後、その子孫たちはどのように行動したか。
 - (3) この章は、創世記のまとめであると同時に、出エジプト記への準備でもある。
2. メッセージのアウトライン
 - (1) ヤコブの葬儀の準備 (50：1～6)
 - (2) 葬儀そのもの (50：7～14)
 - (3) ヨセフと兄弟たちの和解 (50：15～21)
 - (4) ヨセフの死 (50：22～26)
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) カナンの地へのあこがれ
 - (2) 不安がもたらす弊害
 - (3) 創世記全体のまとめ

このメッセージは、信仰者の生き方を学ぶためのものである。

I. ヤコブの葬儀の準備 (50：1～6)

1. 「ヨセフは父の顔に取りすがって泣き、父に口づけした」(新改訳)
 - (1) ヨセフだけではなく、息子たち全員がそうしたことだろう。
 - (2) 死の瞬間が来ることは分かっている、実際にそれが来ると悲しいものである。
 - (3) 最後の 17 年を父と過ごせたことは、ヨセフにとっては幸いであった。
2. 父の遺体のミイラ化
 - (1) 魔術的要素を排除するために、医者に命じている。
 - (2) ミイラにしないと、カナンの地に埋葬できない。
 - (3) ミイラにするために 40 日を要した (前 5 世紀のギリシアの史家ヘロドトス)
 - ① 脳と内臓を取り出す。
 - ② 薬品漬にする (遺体のピクルス)。
 - (4) エジプトは 70 日間喪に服した。
 - ① エジプト人は、王が死ぬと 72 日間喪に服した。

- ② 恐らく、王と区別するために70日となっている。
- ③ いずれにしても、ヤコブはエジプト人たちからも尊敬された。

3. パロへの申し出

- (1) 仲介者を通した申し出
 - ① ヨセフの謙遜
- (2) 父との誓いを果たすため
 - ① 「掘っておいた」とは「買った」という意味である。
 - ② 実際に買ったのはアブラハムであるが、ヤコブがその墓地を相続した。
- (3) パロの許可が必要な理由
 - ① 重要な地位に就いていた。
 - ② 「私はまた帰って来ます」と約束した。
- (4) パロからの許可が出た。

II. 葬儀そのもの (50: 7～14)

- 1. 葬儀のためにカナンのに上った者たち
 - (1) パロのすべての家臣たち、パロの家の長老たち、エジプトのすべての長老たち
 - (2) ヨセフの全家族とその兄弟たち
 - (3) 父の家族たち
- 2. 子どもと羊と牛はゴシェンの地に残った。
 - (1) 葬儀の意味が分からない。
 - (2) 安心して残せる状態であった。
- 3. ボディーガードが付いた。
 - (1) 戦車と騎兵
- 4. 「彼らはヨルダンの向こうの地ゴレン・ハアタデに着いた」
 - (1) 通常は「ヨルダンの向こうの地」とはヨルダン川東岸のことである。
 - (2) ここでは、文脈上ヨルダン川西岸である。
 - (3) 7日間に及ぶ荘厳な葬儀
 - (4) 地名の改名: 「アベル・ミツライム」(エジプトの葬儀)
- 5. ヨセフはマクペラの墓地にヤコブを葬り、エジプトに帰還した。
 - (1) マタ8:22との比較
 - (2) 神の計画を進めるために何を為すべきかを考える。

Ⅲ. ヨセフと兄弟たちの和解 (50:15～21)

1. ヨセフの兄弟たちの不安

- (1) 父の守りがなくなった。
- (2) ヨセフの仕返しを恐れた。
- (3) 彼らは本当の意味でまだヨセフと和解していなかった。

2. 作り話によってヨセフの赦しを得ようとする。

- (1) 父の命令を伝えた。
- (2) もし本当なら、父ヤコブは直接ヨセフにそう命じていたはずである。

3. ヨセフの反応

- (1) 兄たちの言葉を聞いて泣いた。
- (2) 彼らは、ヨセフの前にひざまずいた。
- (3) 死ぬよりも奴隷になる方がいいと語った。
- (4) 夢のさらなる成就。太陽と月は消えたが、11の星はヨセフを伏し拝んだ。
- (5) 「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか」
- (6) 人の視点：あなたがたは、私に悪を計りました。
- (7) 神の視点：神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。
 - ① 多くの人々を生かしておくため。
 - * ヤコブの家族
 - * エジプト人
 - * カナン人
 - ② ですから、もう恐れることはありません。
- (8) 慰めの言葉：私は、あなたがたや、あなたがたの子どもたちを養いましょう。

Ⅳ. ヨセフの死 (50:22～26)

1. ヨセフは110歳で死んだ。

- (1) ヤコブは147歳で死んだ（この時ヨセフは56歳）。
- (2) ヤコブの死後54年経ってヨセフが死んだ。
- (3) 彼はエフライムの孫、彼にとっては曾孫の顔を見ることができた。

2. ヨセフの遺言

- (1) 父ヤコブと同じ信仰を告白している。
- (2) ヨセフは神からの直接的啓示を受けなかったが、夢によって信仰を保持した。
- (3) 遺体をカナンの地に運ぶことを、子らに誓わせた。
- (4) ヘブ11:22によれば、これは信仰による言葉であった。

(5) ヨセフの遺体のミイラ化

(6) ヨセフの願いの成就

① 出 13 : 19

② ヨシ 24 : 32

結論：このメッセージは、信仰者の生き方を考えるためのものである。

1. カナンの地へのあこがれ

(1) イスラエル民族の共通の夢

(2) ヨセフのミイラはその夢の成就を語り続けた。

(3) 紀元 70 年以降離散の民となったユダヤ人は、この夢を抱き続けた。

(4) クリスチャンの夢は、空になった墓にある。

2. 不安がもたらす弊害

(1) 赦されたという確信がない。

① 的外れの行動を起こす。

② 周りの人と競争することになる。

(2) ヨセフはイエスの型

① ヨセフは泣いた。

② ヨセフは赦した。

③ ヨセフは慰め、優しく語りかけた。

3. 創世記全体のまとめ

(1) 観察

① 光と命から始まり、死と闇で終わっている。

(2) 原因

① アダムの罪

② 罪の拡大

(3) 解決

① 神はひとりの人を選ばれ、そこから出てくるひとつの民族を選ばれた。

② アブラハム契約こそ聖書全体を解く鍵である。

* 全人類の救いが最終ゴールである。

* イスラエルは祭司の民となる。

* イスラエルから祭司の中の祭司、メシアが誕生する。

③ 次の書である出エジプト記は、解放の書である。

12 部族の領地

